

国分寺市

# 恋ヶ窪遺跡（第111次調査）

—国分寺市西恋ヶ窪一丁目17番地内における  
分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2022. 10

国分寺市教育委員会



国分寺市

## 恋ヶ窪遺跡（第111次調査）

—国分寺市西恋ヶ窪一丁目17番地内における  
分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2022. 10

国分寺市教育委員会



## 例　言

1. 本報告は、東京都国分寺市西恋ヶ窪一丁目 17 番地内に所在する恋ヶ窪遺跡（国分寺市 N.2 遺跡）第 111 次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、分譲住宅建設に伴う事前調査として実施された。調査面積は 428.0 m<sup>2</sup>である。
3. 本調査は、開発事業者であるアグレ都市デザイン株式会社・南建設株式会社と国分寺市教育委員会およびトキオ文化財株式会社の三者間で協定書を締結し、埋蔵文化財の取り扱いの措置、発掘調査の実施方法などに関わる各々の役割を定めたうえで、国分寺市教育委員会が実施し、トキオ文化財株式会社が支援業務を行なった。
4. 本調査の発掘から調査報告書作成に至るまでの費用は、土地所有者が負担した。
5. 発掘調査・出土品等整理作業・報告書作成作業は、下記の期間に実施した。

現地発掘調査	令和 3 年（2021）9 月 9 日から令和 3 年（2021）10 月 27 日
出土品等整理作業	令和 3 年（2021）10 月 28 日から令和 4 年（2022）8 月 1 日
報告書作成作業	令和 4 年（2022）8 月 1 日から令和 4 年（2022）10 月 31 日
6. 発掘調査・出土品等整理・報告書作成作業は以下の体制で実施した。発掘調査は国分寺市教育委員会の寺前めぐみが担当し、発掘調査および出土品等整理・報告書作成作業の一部は、トキオ文化財株式会社の藤代型一（現場代理人）、有吉重蔵・針木康介が作業を補佐した。
7. 本書の編集は針木康介が行い、原稿の執筆は、第 1 章を平塚恵介・依田亮一（国分寺市教育委員会）、第 2 章を有吉重蔵、第 3 章を藤代型一・針木康介、第 4 章を有吉重蔵・針木康介・川原裕子・矢花正之、第 5 章を有吉重蔵が執筆した。
8. 発掘調査における遺構写真撮影は藤代型一、整理調査における遺物実測・拓本は斎藤京子・高田彩子・土田雅美・中野博子、遺物写真撮影は土田雅美、遺構・遺物のトレース・版下作成は斎藤京子・高田彩子・土田雅美・福井泰弘が行った。
9. 本書の挿図・表等の作成には Microsoft Word®・Excel®, Adobe®Illustrator®・Photoshop®・InDesign® の各ソフトを用いた。
10. 発掘調査における各種の図面は、基本的に遺構平面図・断面図 1/20 で記録している。また、土の色調は『新版標準土色図』（富士工芸業株式会社刊）を参考にした。
11. 本調査にかかわる出土遺物、調査記録類は、国分寺市教育委員会にて保管している。
12. 本書作成にあたり、以下の方に御指導・御協力を賜りました。記して感謝申し上げます。（五十音順・敬称略）  
小畠直輝（株式会社 CEL） 株式会社アルカ 黒尾和久 中山真治
13. 調査体制

調査主体	国分寺市教育委員会					
調査支援	トキオ文化財株式会社					
調査担当	寺前めぐみ					
調査員	有吉重蔵 針木康介					
調査補助員	川原裕子					
現場代理人	藤代型一					
- 発掘・整理調査参加者

石塚幹彦	石村 崇	江口真裕	大津美衣里	小川有子	上敷領 久	小坂邦夫
小宮葵捕	斎藤京子	佐藤 徹	清水広幸	篠原眞理子	高田彩子	高林 均
高森裕一	武内良太	土田雅美	中野博子	中山弘人	西野 宏	秦 敬仁
福井泰弘	丸岡 祐	矢花正之	結城 真			

## 凡 例

1. 遺構の表記には、以下の略号を用いた。また、縄文時代の遺構は遺構番号の末尾に「J」を付し、小穴（P）は遺構記号に続けて「J」を付して、歴史時代の遺構と区別している。

SI：堅穴住居 SD：溝 SF：道路 SK：土坑 P：小穴 TP：旧石器試掘坑

2. 遺構平面図・断面図で使用した標高はT. P. (Tokyo Peil) を示す。国家座標は世界測地系座標を使用した。

3. 調査区内のグリッドは、国家座標系に合せて5m×5mで設定し、南北はアルファベット、東西はアラビア数字で表記した。

4. 実測図の縮尺は、それぞれの図に記した。

5. 遺構平面図・断面図で使用した線種・スクリーントーンは以下のとおりである。それら以外は挿図中に示した。

遺構	推定線	硬質面	複乱
火床面	被熱範囲	地山	

遺物	赤彩	スヌ	縄文織維土器	石器（磨面）

6. 遺構・遺物に関する表において、( ) は推定値、[ ] は残存値を表す。また、単位は特に記載のない限り、長さ「cm」、重さは「g」である。

7. 縄文土器の分類については以下の文献・論文を参考にした。

小林達雄編 2008『絶賀縄文土器』アム・プロモーション

大野尚子・小林謙一編 2016『シンポジウム縄文研究の地平 2016－新地平編年の再構築－発表要旨』

縄文研究の地平グループ・セツルメント研究会

# 目 次

例 言  
凡 例  
目 次

第1章 調査に至る経緯.....	1
第2章 調査地区の概観.....	4
第1節 遺跡の立地と地理的環境 .....	4
第2節 周辺遺跡と既往調査 .....	4
第3節 基本層序 .....	14
第3章 調査経過 .....	17
第1節 調査方法 .....	17
第2節 調査経過 .....	17
第4章 検出された遺構と遺物 .....	19
第1節 調査の概要 .....	19
第2節 繩文時代 .....	19
(1) 姫穴住居 .....	19
(2) 土坑 .....	72
(3) 小穴 .....	72
(4) 遺構外出土遺物 .....	74
第3節 奈良・平安時代～中世以降 .....	81
(1) 道路遺構 .....	81
(2) 土坑 .....	85
(3) 小穴 .....	86
第5章 総括 .....	87
第1節 繩文時代 .....	87
(1) 今次調査で新たに検出された姫穴住居について .....	87
(2) 勝坂式期・加曾利E式期の炉について .....	87
第2節 奈良・平安時代～中世以降 .....	96
(1) 恋ヶ窪遺跡内の東山道武藏路について .....	96
引用・参考文献	
写真図版	
報告書抄録	
奥付	

## 挿図目次

第 1 図 確認調査区設定図	2	第 42 図 SI164J 住居出土遺物実測図 (2)	47
第 2 図 第 109 次調査 調査前現況 (東から)	3	第 43 図 SI164J 住居出土遺物実測図 (3)	48
第 3 図 A トレンチ全景 (南から)	3	第 44 図 SI164J 住居出土遺物実測図 (4)	49
第 4 図 B トレンチ全景 (西から)	3	第 45 図 SI164J 住居出土遺物実測図 (5)	50
第 5 図 B トレンチ SD5 検出状況 (東から)	3	第 46 図 SI164J 住居出土遺物実測図 (6)	51
第 6 図 第 110 次調査 調査前現況 (北から)	3	第 47 図 SI165J 住居出土遺物実測図 (1)	54
第 7 図 C トレンチ全景 (北から)	3	第 48 図 SI165J 住居出土遺物実測図 (2)	55
第 8 図 D トレンチ全景 (東から)	3	第 49 図 SI165J 住居出土遺物実測図 (3)	56
第 9 図 確認調査作業風景	3	第 50 図 SI165J 住居出土遺物実測図 (4)	57
第 10 図 調査地位置図	5	第 51 図 SI165J・SI165J 住居出土遺物実測図	57
第 11 図 恋ヶ窪道路 (調査地点) と周辺道路	6	第 52 図 SI166J 住居実測図	62
第 12 図 恋ヶ窪道路既往調査地点位置図	8	第 53 図 SI166J 住居炉実測図	63
第 13 図 恋ヶ窪道路第 30 次調査 歴史時代全体図・ 溝 (SD5) セクション図	12	第 54 図 SI166J 住居遺物分布図	63
第 14 図 恋ヶ窪道路第 30 次調査 繩文時代全体図・ 76 号住居跡平面図	13	第 55 図 SI166J 住居掲載遺物分布図	64
第 15 図 調査区及びグリッド設定図	15	第 56 図 SI166J 住居出土遺物実測図 (1)	65
第 16 図 調査区 (南)・東西土壌断面図	16	第 57 図 SI166J 住居出土遺物実測図 (2)	66
第 17 図 調査区全体図	18	第 58 図 SI166J 住居出土遺物実測図 (3)	67
第 18 図 繩文時代道構配置図 (1)	20	第 59 国 SI166J 住居出土遺物実測図 (4)	68
第 19 国 繩文時代道構配置図 (2) (第 30 次調査を合成)	21	第 60 国 SI166J 住居出土遺物実測図 (5)	69
第 20 国 SI143J 住居実測図	22	第 61 国 SI166J 住居出土遺物実測図 (6)	70
第 21 国 SI143J 住居遺物分布図	22	第 62 国 SK216J・SK219J・SK220J・SK223J 上坑・PJ - 1 ~ 3 小穴実測図	73
第 22 国 SI143J 住居出土遺物実測図	23	第 63 国 道構外出土遺物実測図 (1)	75
第 23 国 SI162J 住居実測図	24	第 64 国 道構外出土遺物実測図 (2)	76
第 24 国 SI162J 住居炉実測図	25	第 65 国 道構外出土遺物実測図 (3)	77
第 25 国 SI162J 住居遺物分布図	25	第 66 国 奈良・平安時代・中世以降道構配置図 (1)	82
第 26 国 SI162J 住居掲載遺物分布図	26	第 67 国 奈良・平安時代・中世以降道構配置図 (2) (第 30 次調査を合成)	83
第 27 国 SI162J 住居出土遺物実測図 (1)	28	第 68 国 奈良・平安時代・中世以降道構配置図 (3) (第 30 次調査を合成)	84
第 28 国 SI162J 住居出土遺物実測図 (2)	29	第 69 国 SD2 溝断面図	85
第 29 国 SI162J 住居出土遺物実測図 (3)	30	第 70 国 SD5 溝断面図	85
第 30 国 SI163J 住居実測図	33	第 71 国 SK217・SK218・SK221・SK222 上坑実測図	87
第 31 国 SI163J 住居遺物分布図	33	第 72 国 恋ヶ窪道路内盤穴・住居跡分布図	89
第 32 国 SI163J 住居出土遺物実測図	34	第 73 国 勝坂式期炉勢集成図 (1)	91
第 33 国 SI164J・SI165J 住居実測図	40	第 74 国 勝坂式期 (2)・加曾利 E 式期炉勢集成図 (1)	92
第 34 国 SI164J 住居炉実測図	41	第 75 国 加曾利 E 式期炉勢集成図 (2)	93
第 35 国 SI165J 住居炉実測図	41	第 76 国 恋ヶ窪道路内東山道武藏路調査地点位置図	98
第 36 国 SI164J・SI165J 住居遺物分布図	42	第 77 国 恋ヶ窪道路内東山道武藏路集成図 (1)	99
第 37 国 SI164J・SI165J 住居石器分布図	42	第 78 国 恋ヶ窪道路内東山道武藏路集成図 (2)	100
第 38 国 SI164J・SI165J 住居土器分布図	43	第 79 国 恋ヶ窪道路内東山道武藏路集成図 (3)	101
第 39 国 SI164J・SI165J 住居掲載土器分布図	44	第 80 国 恋ヶ窪道路内東山道武藏路の南北エレベーション図	102
第 40 国 SI165J 住居掲載土器分布図	45		
第 41 国 SI164J 住居出土遺物実測図 (1)	46		

## 表目次

第1表	周辺道路一覧表	7
第2表	恋ヶ森道路(国分寺市No.2) 調査履歴表(昭和49年) ～令和4年度)(1)	9
第3表	恋ヶ森道路(国分寺市No.2) 調査履歴表(昭和49年) ～令和4年度)(2)	10
第4表	恋ヶ森道路(国分寺市No.2) 調査履歴表(昭和49年) ～令和4年度)(3)	11
第5表	SI143J住居土器觀察表	23
第6表	SI143J住居土製品觀察表	23
第7表	SI162J住居土器觀察表	31
第8表	SI162J住居土製品觀察表	32
第9表	SI162J住居石器觀察表	32
第10表	SI163J住居土器觀察表	34
第11表	SI163J住居石器觀察表	34
第12表	SI164J住居土器觀察表(1)	52
第13表	SI164J住居土器觀察表(2)	53
第14表	SI164J住居土製品觀察表	53
第15表	SI164J住居土器觀察表	53
第16表	SI165J住居土器觀察表(1)	57
第17表	SI165J住居土器觀察表(2)	58
第18表	SI165J住居土製品觀察表	59
第19表	SI165J住居石器觀察表	59
第20表	SI164J・SI165J住居石器觀察表	59
第21表	SI166J住居土器觀察表(1)	70
第22表	SI166J住居土器觀察表(2)	71
第23表	SI166J住居土製品觀察表	71
第24表	SI166J住居石器觀察表	71
第25表	遺構外土器觀察表	78
第26表	遺構外土製品觀察表	79
第27表	遺構外石器觀察表	79
第28表	石器集計表	79
第29表	縦上部集計表 (トーン部分は住居跡の解説時期を示す)	80
第30表	簡便式・加曾利E式期の形態別数	93
第31表	簡便式期住居跡集計(1)	94
第32表	簡便式期住居跡集計(2)	95
第33表	加曾利E式期住居跡集計(1)	95
第34表	加曾利E式期住居跡集計(2)	96

## 図版目次

### 図版 1

1. 第30次調査区全景(東から)
2. SI76J住居完掘全景(南から)
3. SI76J住居炉完掘全景(南から)
4. SF1道路(SD2・5溝)完掘全景(東から)
5. 調査区調査前全景(北東から)
6. 1・2区南側遺構検出全景(北から)
7. 2区中央遺構検出全景(北から)
8. 2区北側遺構検出全景(南西から)

### 図版 2

1. 1・2区南側完掘全景(北から)
2. 2区中央完掘全景(北から)

### 図版 3

1. 2区北側完掘全景(SK221・222上坑検出状況)(西から)
2. 2区北側完掘全景(SK221・222上坑検出状況)(南から)

### 図版 4

1. 1区西壁南北土層断面(北東から)
2. 2区西壁南北土層断面①(東から)
3. 2区西壁南北土層断面②(東から)
4. 2区西壁南北土層断面③(東から)
5. 2区西壁南北土層断面④(北東から)
6. 2区東西土層断面(北東から)
7. TP1完掘全景(北から)
8. TP1東壁南北土層断面(西から)

### 図版 5

1. 2区中央完掘全景(南から)
2. SI143J住居完掘全景(南から)
3. SI143J住居東西土層断面(南から)
4. SI143J住居P1完掘全景(南から)
5. SI162J住居完掘全景・北壁東西土層断面(南から)

### 図版 6

1. SI162J住居土層断面(北から)
2. SI162J住居南北土層断面(西から)
3. SI162J住居周溝・遺物出土状況(南から)
4. SI162J住居炉検出状況(西から)
5. SI162J住居炉完掘全景(西から)
6. SI162J住居炉掘方(西から)
7. SI162J住居炉土層断面①(西から)
8. SI162J住居炉土層断面②(西から)

### 図版 7

1. SI162J住居P1完掘全景(南から)
2. SI162J住居P2完掘全景(南から)
3. SI162J住居P3完掘全景(北から)
4. SI162J住居P4完掘全景(東から)
5. SI163J住居完掘全景(北から)
6. SI163J住居完掘全景(東から)
7. SI163J住居西壁南北土層断面(北東から)

### 図版 8

1. SI164J(右)・165J(左)住居完掘全景(西から)
2. SI164J(下)・165J(上)住居完掘全景(南から)

### 図版 9

1. SI164J住居西壁南北土層断面(北東から)
2. SI164J・165J住居南北土層断面(北東から)
3. SI164J住居遺物出土状況(東から)
4. SI164J住居遺物出土状況(西から)
5. SI164J住居遺物出土状況(東から)
6. SI164J住居炉完掘全景(南西から)
7. SI164J住居炉土層断面(南西から)
8. SI164J住居炉掘方(南西から)

**図版 10**

1. SI164J 住居 P1 完掘全景 (東から)
2. SI164J 住居 P2 完掘全景 (東から)
3. SI164J 住居 P3 完掘全景 (東から)
4. SI164J 住居 P4 完掘全景 (北から)
5. SI164J 住居 P5 完掘全景 (北から)
6. SI165J 住居<sup>?</sup> 完掘全景 (東から)
7. SI165J 住居炉上削断面 (東から)
8. SI165J 住居炉遺物出土状況 (東から)

**図版 11**

1. SI165J 住居 P1 完掘全景 (北から)
2. SI165J 住居 P2 完掘全景 (西から)
3. SI166J 住居完掘全景 (南西から)
4. SI166J 住居完掘全景 (東から)
5. SI166J 住居完掘全景 (南から)

**図版 12**

1. SI166J 住居南北土削断面 (東から)
2. SI166J 住居東西土削断面 (南から)
3. SI166J 住居遺物出土状況 (東から)
4. SI166J 住居遺物出土状況 (東から)
5. SI166J 住居炉出土状況 (北から)
6. SI166J 住居炉完掘全景 (東から)
7. SI166J 住居炉上削断面 (東から)
8. SI166J 住居 P1 完掘全景 (東から)

**図版 13**

1. SI166J 住居 P2 完掘全景 (北から)
2. SI166J 住居 P3 完掘全景 (北から)
3. SI166J 住居 P4 完掘全景 (東から)
4. SI166J 住居 P5 完掘全景 (北から)
5. SK216J 土坑完掘全景 (北から)
6. SK219J 土坑完掘全景 (南西から)
7. SK220J 土坑完掘全景 (北から)
8. SK223J 土坑検出状況 (西から)

**図版 14**

1. PJ-1・2 小穴完掘全景 (南西から)
2. PJ-3 小穴完掘全景 (北から)
3. 2 区 SD2 溝完掘全景 (南から)
4. 1・2 区 南側 SD2 溝完掘全景 (北から)
5. 1 区 SD2 溝完掘全景 (南から)
6. 2 区 SD2 溝上削断面 A-A' (南から)
7. 2 区 SD2 溝上削断面 B-B' (南から)

**図版 15**

1. 1 区 SD2 溝上削断面 C-C' (南から)
2. 2 区 SD2 溝上削断面 D-D' (南から)
3. 2 区 SD5 溝北側完掘全景 (南から)
4. 2 区中央 SD5 溝完掘全景 (南から)
5. 2 区南側 SD5 溝完掘全景 (北から)

6. 2 区 SD5 溝上削断面 A-A' (南から)
7. 2 区 SD5 溝上削断面 B-B' (南から)

**図版 16**

1. 2 区 SD5 溝上削断面 C-C' (南から)
2. 2 区 SD5 溝上削断面 D-D' (北から)
3. SK217 上坑完掘全景 (西から)
4. SK218 上坑完掘全景 (東から)
5. 作業風景
6. 作業風景
7. 作業風景
8. 作業風景

**図版 17**

1. SI143J 住居出土遺物
2. SI162J 住居出土遺物 (1)

**図版 18**

1. SI162J 住居出土遺物 (2)

**図版 19**

1. SI162J 住居出土遺物 (3)
2. SI163J 住居出土遺物

**図版 20**

1. SI164J 住居出土遺物 (1)

**図版 21**

1. SI164J 住居出土遺物 (2)

**図版 22**

1. SI164J 住居出土遺物 (3)

**図版 23**

1. SI164J 住居出土遺物 (4)

**図版 24**

1. SI164J 住居出土遺物 (5)

**図版 25**

1. SI165J 住居出土遺物 (1)

**図版 26**

1. SI165J 住居出土遺物 (2)

**図版 27**

1. SI165J 住居出土遺物 (3)
2. SI164J・SI165J 住居出土遺物

**図版 28**

1. SI166J 住居出土遺物 (1)

**図版 29**

1. SI166J 住居出土遺物 (2)

**図版 30**

1. SI166J 住居出土遺物 (3)

**図版 31**

1. SI166J 住居出土遺物 (4)

1. 造構外出土遺物 (1)

**図版 32**

1. 造構外出土遺物 (2)

# 第1章 調査に至る経緯

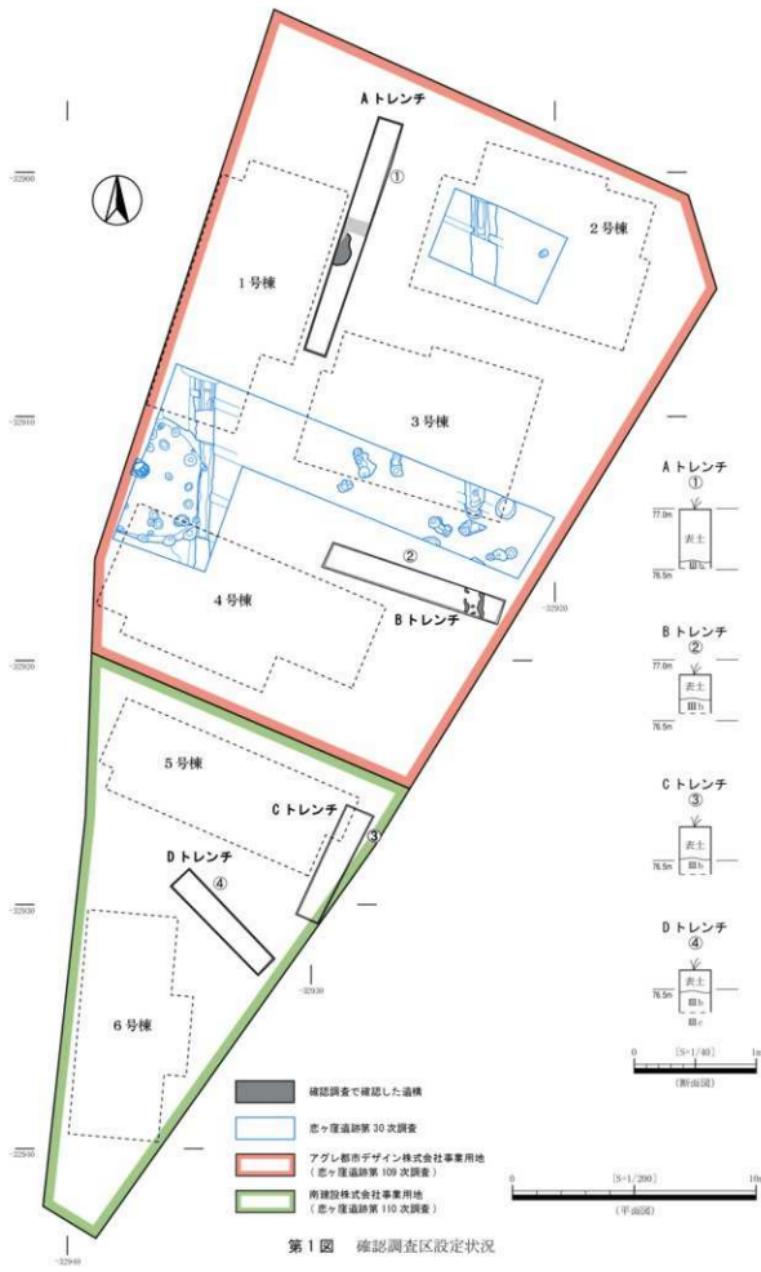
恋ヶ窪遺跡（国分寺市No2遺跡）は、次章で詳述するとおり、野川源流域北側に広がる武藏野段丘面上に立地し、主として縄文時代の集落遺跡として周知された埋蔵文化財包蔵地である。古くは、昭和12年に後藤守一が台地南端の国分寺崖線際で敷石住居を発見したことを契機に、終戦後まもなく塙野半十郎、學習院大学の市川健二郎、國学院久我山高校、松井新一らが堅穴住居跡の調査を行い、昭和50年に市の常設調査機関である恋ヶ窪遺跡調査会を組織して以降は（平成14年に武藏国分寺跡遺跡調査会と合併し、現在の国分寺市遺跡調査会となる）、各種の開発事業に伴い現在まで約100箇所以上で発掘調査の実績を蓄積してきている。また、周知範囲の西側ではJR中央線以南の西元町・泉町地区から続く古代東山道武藏路の道路側溝が断片的ながらも確認され、さらに遺跡北端を東西に横切る都市計画道路3・4・6号線の事業計画地で、幅員12mの東西両側溝の存在を捉えている。

そうしたなか、西恋ヶ窪一丁目17番地内において6棟の宅地分譲住宅建設を行う複数の事業者より、それぞれ令和3年7月13日付で文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘の届出が市教委へ提出された（国教ふ収第271・272号）。敷地北側に4棟を建てる計画がアグレ都市デザイン株式会社、南側の2棟は南建設株式会社が事業主体者で、6棟いずれも木造2階建ての戸建て住宅であった。事業用地は、昭和52年度に市教委が当時の地権者の了解を得て学術調査を行い（恋ヶ窪遺跡第30次調査：未報告）、縄文時代の堅穴住居と古代の溝2条（東山道武藏路）を確認しているほか、西・北・東側隣接地でも過去の発掘調査で縄文時代の遺構・遺物を発見していたため（第6・40次調査など：永峯他1980・吉田他1997）、掘削工事の予定深度が相対的に深い給排水・ガス管敷設予定部分を中心に、遺跡の内容を探るために調査を行うこととした。なお、届出に対する、確認調査の実施を行う東京都教育委員会からの通知文書は、8月18日付3教地管第1831・1832号にて発令されている。

調査は8月3日に実施し、敷地北側の事業地（恋ヶ窪遺跡第109次調査）では仮称1・4号棟の脇にA・Bトレチを、南側事業地（第110次調査）で仮称5・6号棟枠にC・Dトレチの4箇所に調査区を設けたところ（第1図）、古代・縄文時代の遺構が確認できる基本層序IIIb層が現地表面からわずか30cmの深さで到達し、縄文土器をはじめとする遺物も多く出土した。確認調査における、これら埋蔵物の発見および保管にかかる手続きは9月1日に市教委から小金井警察署・都教委宛てに提出し、都教委から市教委宛ての文化財認定通知は、令和4年3月15日付3教地管第2854号（第109次調査）、第2852号（第110次調査）でそれぞれ発せられている。

確認調査結果を受けて、市教委は双方の事業者に対して、工事で計画されている掘削深度に応じて遺跡へ影響を及ぼす範囲を示しつつ、当該部分の本調査実施に向けて協議を働きかけたところ、事業者側も発掘調査支援会社と調査費用の調整を整え、令和3年9月10日付で各事業者と市教委、調査支援を受託したトキオ文化財株式会社との間で、埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を締結したうえで、文化財保護法第99条の本調査へ移行することとした。なお、本調査の対象範囲は、確認調査の結果を踏まえ、遺構・遺物の分布密度が薄く、建物の根切工事では遺跡への影響がおよばない仮称1・2号棟部分は除外しており、給排水管・ガス管等のインフラ敷設部分は掘削工事がおよぶ約0.6～1.0mの深度まで、仮称3～6号棟部分は地表下0.2～0.4mの深度までとした。その面積は、敷地北側の1区で247.5m<sup>2</sup>、南側の2区で180.5m<sup>2</sup>の合計約428m<sup>2</sup>を対象とした。

なお、本調査における埋蔵物の発見および保管にかかる手続きは、11月5日付で市教委から小金井警察署・都教委へ提出し、都教委から市教委宛ての文化財認定通知は、令和4年3月30日付3教地管第1831号の2（第111次調査）で発せられている。



第1図 確認調査区設定状況



第2図 第109次調査 調査前現況（東から）



第3図 Aトレンチ全景（南から）



第4図 Bトレンチ全景（西から）



第5図 Bトレンチ SD5検出状況（東から）



第6図 第110次調査 調査前現況（北から）



第7図 Cトレンチ全景（北から）



第8図 Dトレンチ全景（東から）



第9図 確認調査作業風景

## 第2章 調査地区の概観

### 第1節 遺跡の立地と地理的環境

今回の調査地点は恋ヶ窪一丁目17番で、恋ヶ窪遺跡（国分寺市No.2）の中央西寄りに位置する（第10～12図）。本遺跡は、JR中央線西国分寺駅の北東約500m地点の国分寺市恋ヶ窪一丁目から東恋ヶ窪一丁目の日立中央研究所構内西辺部に位置し、遺跡中央西寄り付近を通過する西武国分寺線の切通しによって、東西に二分されている。

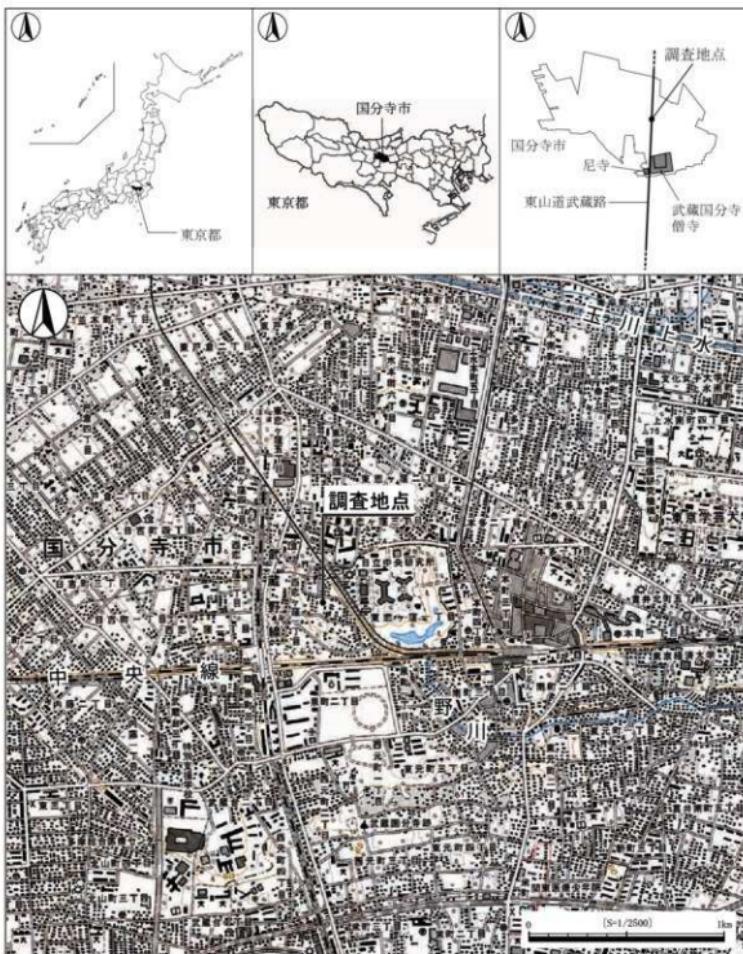
この付近の地形は関東平野の南西部を占める武藏野台地の南端部に当たり、東西を横断する通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境に、北方高位（標高70～90m）の武藏野段丘面と南方低位（標高55～66m）の立川段丘面に区分され、その比高差は7～15mを有する。国分寺崖線下には現在でも湧水地が点在し、それらの湧水を集めて崖線に沿うように野川が東流し、小金井・調布・三鷹の各市を通過して、延長距離約20kmの世田谷区二子玉川付近で多摩川に合流している。当該地周辺はその源流域に当たるが、豊富な湧水群が武藏野段丘の縁辺部を浸食して複数の開析谷を刻み、市内では東側から順に本多谷・殿ヶ谷戸谷・さんや谷、恋ヶ窪谷等が知られている。この内東側をさんや谷、南から西側を恋ヶ窪谷に画された東西約600m、南北約400m、標高76.5mほどの南側に張り出す舌状台地上に、西側を占める恋ヶ窪遺跡と東側を占める株式会社日立製作所中央研究所構内の羽根沢遺跡（国分寺市No.5）とが立地している（第11図）。

### 第2節 周辺遺跡と既往調査

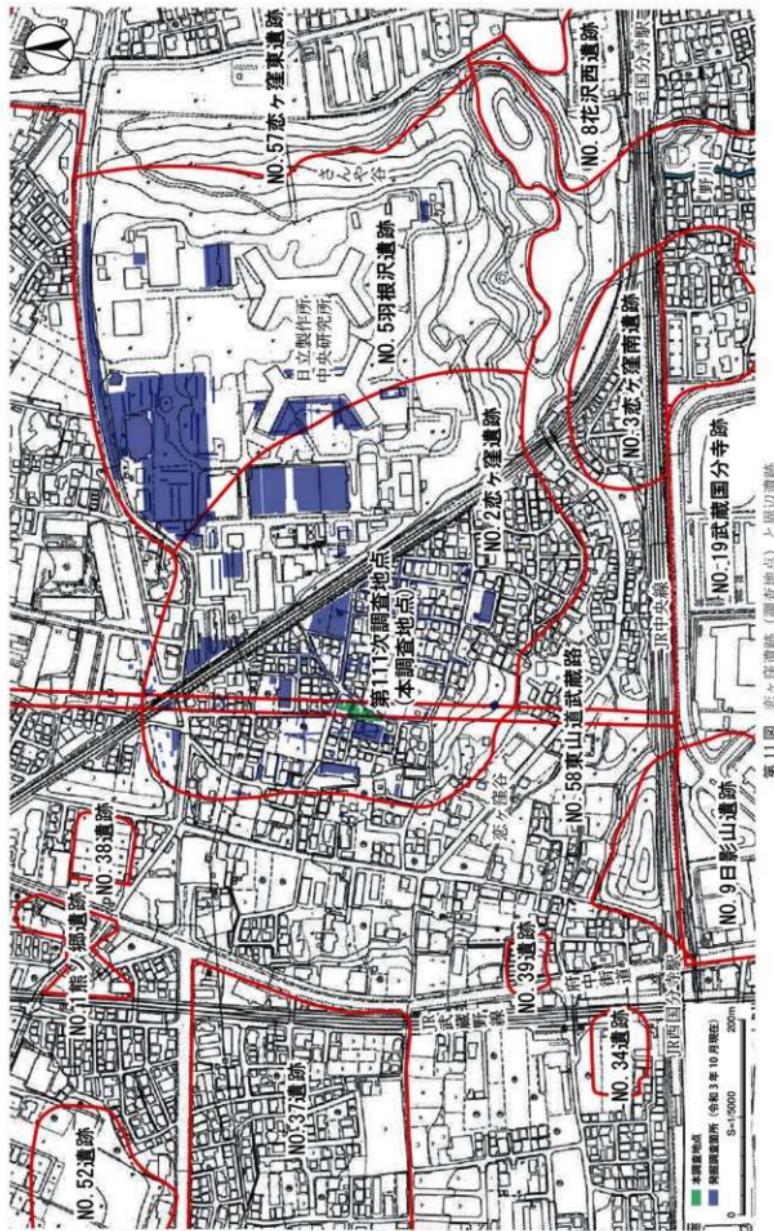
恋ヶ窪遺跡が占地する舌状台地の東側のさんや谷を挟んだ東側台地上（本面）には恋ヶ窪東遺跡（国分寺市No.57）と南側の花沢西遺跡（国分寺市No.8）、恋ヶ窪谷を挟んだ南側台地上（内藤面）には恋ヶ窪南遺跡（国分寺市No.3）・武藏国分寺跡（国分寺市No.19）・日影山遺跡（国分寺市No.9）、恋ヶ窪遺跡の北側には熊ノ郷遺跡（国分寺市No.1）など、旧石器時代～縄文時代の遺跡が濃密に分布している（第11図、第1表）。中でも、柄鏡形敷石住居5軒を含む堅穴住居200軒ほどが明らかにされた恋ヶ窪東遺跡は縄文中期の大集落であり、花沢西遺跡では市内で唯一弥生時代中期の土器も出土している。

さらに、近年の調査進展により関心が高まった古代の駅路である東山道武藏路（国分寺市No.58）が、武藏国府跡（府中市）・武藏国分寺僧尼寺中間地域・同北方地区・恋ヶ窪谷・本遺跡内を通過して東の上遺跡（所沢市）に至ることが明らかになっている（東京都教育委員会2000）。また、本遺跡の西側を南北に通過する旧鎌倉街道では、南方の国分尼寺跡付近からに道路に沿って中世遺跡の分布が認められるが、道興准后が文明18（1486）年に著した紀行文『廻国雜記』に見える恋ヶ窪関連の記事などから想定の城を出なかった中世の遺跡の存在も、第6次調査地点で地下式坑と13世紀末の常滑窯や鉄製刀子などの出土により次第に明らかになってきている。

このように、恋ヶ窪遺跡は旧石器～縄文時代にとどまらず、古代～中世の遺跡も重複する複合遺跡であることが判明してきたが、それは、昭和40年代に遺跡内において始まった新興住宅の建設が、昭和48年の武藏野線開通に伴う西国分寺駅の開設によって一段と住宅化に拍車がかかり、恋ヶ窪遺跡の保存問題が浮上したことが契機となったことによる。この問題に対処すべく昭和51年に恋ヶ窪遺跡調査会（昭和61年に国分寺市遺跡調査会に改組）が設立され、以来、本遺跡の範囲確認調査や各種開発に伴う緊急調査が実施され、その成果が積み上げられてきた。市下水道工事に伴う昭和49年の試掘調査、同52年の本調査を第1・2次として始まった調査も、今回で第111次を数えるに至っている（第12図、第2～4表）。



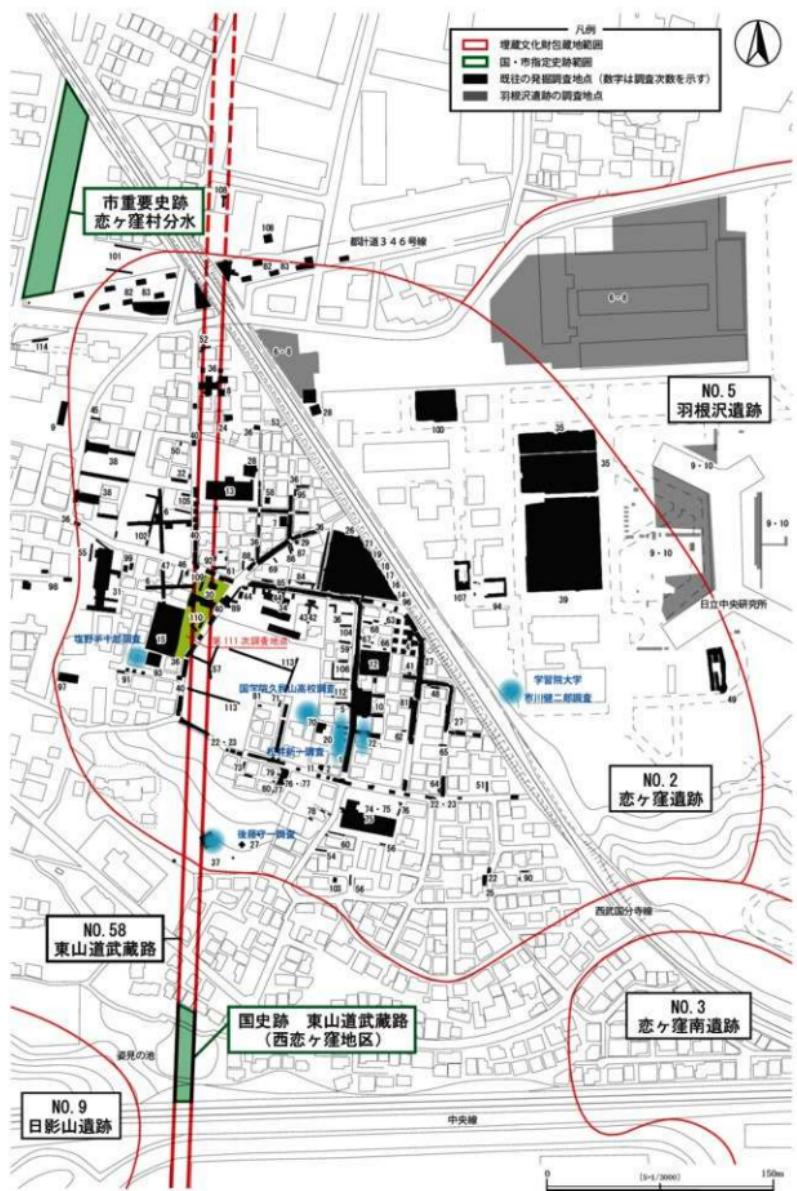
第10図 調査地点位置図



第11回 志ヶ窪遺跡（調査地点）と周辺遺跡

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	所在地	時代
1	熊ノ郷道路	集落跡	西恋ヶ窪三丁目19 西恋ヶ窪四丁目1・6・7付近	旧石器・縄文
2	恋ヶ窪道路	集落跡	西恋ヶ窪一丁目3・10～27、28～30・47 東恋ヶ窪一丁目付近、三丁目20・21	旧石器・縄文（早・中・後）・中世
3	恋ヶ窪南道路	集落跡	恋ヶ窪一丁目1～3・5・51、東恋ヶ窪一丁目 泉町一丁目18・20～22、二丁目7付近	旧石器・縄文（早・中）
5	羽根沢道路	集落跡	東恋ヶ窪一丁目付近	旧石器・縄文（早・中）
8	花沢西道路	集落跡	南町三丁目24・26～30 本町四丁目2～6 泉町一丁目14 東恋ヶ窪一丁目付近	旧石器・縄文・弥生
9	日影山道路	散布地	泉町二丁目9 西恋ヶ窪一丁目8・34・35付近	旧石器・縄文（中）・奈良・平安
19	武藏国分寺跡	集落跡・道路跡	東元町三丁目1～25・31・33・34 東元町四丁目 西元町一丁目～四丁目 泉町一丁目5～11・18～21 泉町二丁目、三丁目3・16付近 西恋ヶ窪一丁目8	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世
34	No.34 道跡	散布地	西恋ヶ窪二丁目3付近	縄文・奈良・平安
37	No.37 道跡	散布地	西恋ヶ窪三丁目1～3・5～18付近	旧石器・縄文・奈良・平安
38	No.38 道跡	散布地	西恋ヶ窪一丁目49付近	縄文・奈良・平安
39	No.39 道跡	散布地	西恋ヶ窪一丁目37・38付近	縄文・奈良・平安
52	No.52 道跡	散布地	西恋ヶ窪三丁目26～31・33～36 日吉町四丁目12・13付近	旧石器
57	恋ヶ窪東道路	集落跡	本町四丁目4～11・14～25 東恋ヶ窪一丁目、二丁目1・2付近	旧石器・縄文（草～後）
58	東山道武藏路	道路跡	西恋ヶ窪一丁目8・9・15～18・24・25・47 東恋ヶ窪三丁目21	奈良・平安



第12図 恋ヶ窪遺跡既往調査地点位置図

第2表 恋ヶ窪遺跡(国分寺市No.2)調査履歴表(昭和49年~令和4年度)(1)

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積(m <sup>2</sup> )	発見された主な遺構	担当者	遺物 番号	文献
1	S49	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪1-19-20	36.0	S12	安孫子		永家他 1979
2	S52	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-19-21	180.0	S18/SK1/S51	安孫子	146	永家他 1979
4	S51	学術	確認調査	西恋ヶ窪1-20-14~16	11.0	SS1/SK4	安孫子	11	永家他 1980
5	S52	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-19-10	20.0	S13/SK1	安孫子	48	永家他 1980
6	S52	学術	確認調査	西恋ヶ窪1-17-25	337.0	S11/SK2 歴史 S21	安孫子	27	永家他 1980
7	S53	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-23-16	24.0	S13	広瀬	3	永家他 1980
8	S53	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-24-35	100.0	SK2/P11 歴史 SD2	広瀬	1	永家他 1980
9	S53	学術	確認調査	西恋ヶ窪1-187	60.0		広瀬	0	立川 2008
10	S54	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪1-20	212.5	S10/SS3/SK7/P11	広瀬	75	永家他 1982
11	S54	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-19-2	16.0	なし	広瀬	1	未報告
12	S54	学術	確認調査	西恋ヶ窪1-20	264.0	S13/SU3/S55/SK17	広瀬	70	岡口他 1988
13	S55	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪1-19-2	378.0	SS1/SK3/P55 歴史 SD1/SK6	広瀬	6	岡口他 1988
14	S55	学術	本調査	西恋ヶ窪1-22	366.0	S18/SK1	広瀬	60	上敷頭他 1991-2008
15	S56	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪1-17-24	640.0	ST2/SI2/SK88 旧石器 I期	広瀬	3	岡口他 1988
16	S56	学術	本調査	西恋ヶ窪1-22	163.0	S16	広瀬	28	上敷頭他 1991-2008
17	S57	学術	本調査	西恋ヶ窪1-22	220.0	S16/SK3	広瀬	40	上敷頭他 1991-2008
18	S57	学術	本調査	西恋ヶ窪1-22	220.0	S18/SK4	広瀬	40	上敷頭他 1991-2008
19	S59	学術	本調査	西恋ヶ窪1-22	240.0	S9/SK1	広瀬	65	上敷頭他 1991-2008
20	S59	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-19-5	2.6	K2-27に統合	広瀬	1	未報告
21	S60	学術	本調査	西恋ヶ窪1-22	243.5	S19/SK2	広瀬	52	上敷頭他 1991-2008
22	S60	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-13	6.0	SS1	広瀬	4	吉田他 1996
23	S60	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪1	722.0		広瀬	6	吉田他 1996
24	S61	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-24-23	17.0	P3	広瀬	1	未報告
25	S61	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-13-1	14.0	SS1	広瀬	2	未報告
26	S61	学術	本調査	西恋ヶ窪1-22	222.0	S16	広瀬	25	上敷頭他 1991-2008
27	H1	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-167先	296.3	S12b/SU1/S56/SK51/SD9/P274	広瀬	32	吉田他 1996
27	H2	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-167先	63.2	S10/SS4/SK8/P44	上村	10	吉田他 1996
27	S61	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-167先	185.0	S19/SU1/S52/SK16/P63	広瀬	9	吉田他 1996
27	S62	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-167先	295.0	S17/SK25/P98 歴史 SD4	広瀬	13	吉田他 1996
27	S63	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-167先	207.0	S11/P54	広瀬	33	吉田他 1996
28	S62	貿易建設	本調査	西恋ヶ窪1-210-217	142.1	P2	広瀬	1	未報告
29	S62	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-224-3	3.1	S1	広瀬	2	未報告
30	S62	学術	本調査	西恋ヶ窪1-171	81.4	S1/P10 歴史 SD2	広瀬	14	未報告
31	S63	学術	本調査	西恋ヶ窪1-171	128.7	S17/SK3/P10 旧石器・中近世 陶磁器	広瀬	1	未報告
32	H1	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-25-4	18.7	なし	広瀬	0	立川 2009
33	H1	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪1-1丁目地内	2712.0		広瀬		未報告
34	H1	学術	本調査	西恋ヶ窪1-18-9~11	216.0	S10/SS1/SK4	広瀬	21	未報告
35	H2	プラント	本調査	東恋ヶ窪1-1-280地内	1678.0	S13/S52/SK9/P61	広瀬	66	星野他 1992
36	H2	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪1-1丁目地内	K2-42に統合		上村	1	吉田他 1997
36	H2	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-1丁目地内	114.0	S11/SS1/SK1/P74 歴史 SK4	上村	18	吉田他 1997
36	H3	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-1丁目地内	333.9	S13/SK2/P98 歴史 SD3	上村	55	吉田他 1997
36	H4	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-1丁目地内	173.3	S110/SK7/P39 歴史 SD1/SK1	上村	15	吉田他 1997
37	H2	学術	本調査	西恋ヶ窪1-15-24-23	79.7	S11/SK1	上村	1	未報告
38	H3	公共工事	本調査	西恋ヶ窪1-26-1-16	275.0	歴史 SD1	上村	1	未報告
39	S57-58	プラント	本調査	東恋ヶ窪1-1-280地内	3730.1	S17/SS1/SK17/P154	広瀬	43	星野他 1992
40	H3	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪1-1丁目地内	538.2	S137/SS1/SK3/P91/SK2/SK4	上村	2	吉田他 1997
40	H4	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-1丁目地内	80.5	S11/P2 歴史 SD4/SK2	上村	2	吉田他 1997
40	H5	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-1丁目地内	187.6	S15/SK1/P8 歴史 SD4	上村	5	吉田他 1997
41	H4	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-20-13	4.0	S12	上村	1	未報告
42	H4	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-18-9	8.8	P13	上村	2	未報告
43	H4	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪1-18-9	21.3	P28	上村	3	未報告
44	H4	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪1-18-11+12	57.6	S17/SK3/P3	上村	20	未報告
45	H5	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-26-3	5.8	なし	上村	0	立川 2009
46	H5	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-17-44	3.6	なし	上村	1	未報告
47	H5	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪1-17-36-37	8.3	P4	上村	1	未報告

第3表 志ヶ瀬遺跡(国分寺市No.2)調査履歴表(昭和49年～令和4年度)(2)

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (m <sup>2</sup> )	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
48	H5	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-21-20	4.0	P4	上村	1	未報告
49	H5	プラント	本調査	東志ヶ瀬1-280	141.2	P9	上村	1	未報告
50	H6	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-25-7	2.0	なし	上村	0	立川2009
51	H6	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-21-4	4.0	SI	上村	1	未報告
52	H7	分譲住宅	本調査	西志ヶ瀬1-24-43	7.4	歴史SD1	上村	1	未報告
53	H7	個人宅造	本調査	東志ヶ瀬1-23-33	1.0	なし	上村	0	立川2009
54	H7	集合住宅	本調査	西志ヶ瀬1-14-10+13-31	10.6		上村	1	未報告
55	H7	集合住宅	本調査	西志ヶ瀬1-28-1他	316.5	ST1/SR1/P2	上村	1	未報告
56	H7	集合住宅	本調査	西志ヶ瀬1-14-10+11	18.5	SK1/P1	上村	1	未報告
57	H7	公共工事	本調査	西志ヶ瀬1-8	45.2	P4 歴史SD2	上村	1	未報告
58	H7	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-22-21	10.3	なし	上村	1	未報告
59	H8	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-19-15	1.0	なし	上村	0	立川2009
60	H8	分譲住宅	本調査	西志ヶ瀬1-14-10+28	5.3	日石源謹群1 VI層	上村	1	未報告
61	H8	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-24-2	5.0	SU1/SK1/P10	上村	1	未報告
62	H8	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-20-6	1.6	なし	上村	立川2009	
63	H10	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-20-48	0.7	P1	上村	1	未報告
64	H10	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-21-25	1.4	なし	上村	1	未報告
65	H10	集合住宅	本調査	西志ヶ瀬1-11-3	3.0	なし	上村	1	未報告
66	H11	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-20-55	5.6	SK1	上村	1	未報告
67	H11	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-20-54	2.7	SK1/P1	上村	1	未報告
68	H11	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-20-53	4.9	SK2/P2	上村	1	未報告
69	H11	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-22-9	6.4	SI	上村	1	未報告
70	H12	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-19-6.7.8	35.1	SS1/SK4/P7	上村	2	未報告
71	H12	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-18-31.32	6.0	SK1/P2	上村	1	未報告
72	H12	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-20-47	3.4	SK1	上村	1	未報告
73	H12	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-15-26.28	7.9	SI	上村	1	未報告
74	H13	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-14-9.33	34.0	P5 歴史SD2	上村	1	未報告
75	H13	集合住宅	本調査	西志ヶ瀬1-14-9.33	369.4	SS4/SK3/P51 歴史SD1/SK3	上村	19	未報告
76	H16	道路工事	確認調査	西志ヶ瀬1-15-13.25	66.7	P3 歴史SD2	上村	1	上敷地 2007
77	H16	道路工事	本調査	西志ヶ瀬1-15-13.25	66.7	SK2 歴史SD2	上村	1	上敷地 2007
78	H16	分譲住宅	確認調査	西志ヶ瀬1-15-30.31	5.3	なし	上村	0	上敷地 2007
79	H16	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-15-34	1.0	なし	上村	0	上敷地 2007
80	H16	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-15-35	1.0	なし	上村	0	上敷地 2007
81	H18	分譲住宅	確認調査	西志ヶ瀬1-20-10	7.2	歴史SD1/SK1/P3	立川	1	立川 2008
82	H19	公共工事	確認調査	西志ヶ瀬1-47.東志ヶ瀬3-21	386.5	ST1 歴史 SK1/SF1+SD2	小野本	1	小野本 2008
83	H19	公共工事	本調査	西志ヶ瀬1-47.東志ヶ瀬3-21	366.6	SC3/P1 歴史 SD2/P5	小野本	1	小野本 2008
84	H21	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-22-15	10.0	P5 歴史SD2	小野本	1	立川 2011
85	H21	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-22-18	2.3	SK1/P2	立川	1	立川 2011
86	H21	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-22-19	3.8	SI/SK1/P1	小野本	1	立川 2011
87	H21	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-22-16	4.0	SI/SK1	小野本	3	立川 2011
88	H23	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-25-40	7.4	なし	小野本	0	寺前他 2013
89	H23	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-18-16	8.0	SI/SK1	寺前	1	寺前他 2013
90	H23	分譲住宅	確認	西志ヶ瀬1-1282-28	3.8	なし	寺前	0	寺前他 2013
91	H24	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-17-1	3.6	なし	中道	0	寺前他 2013
92	H24	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-24-12	13.9	SI 歴史SD1	中道	2	寺前他 2013
93	H25	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-17-11	4.43	SI	中道	2	上敷地他 2014
94	H26	プラント	本調査	東志ヶ瀬1-280 谷内	65.4	SS1/SK1 歴史SD1	上敷地	4	増井他 2016
95	H27	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-23-8	4.0	なし	増井	1	増井他 2016
96	H27	分譲住宅	確認	西志ヶ瀬1-22-2	21.1	PJ2	増井	1	増井他 2016
97	H27	集合住宅	確認	西志ヶ瀬1-29.2.729-3.5の各一部	27.6	PJ13	依田	1	増井他 2016
98	H28	分譲住宅	確認	西志ヶ瀬1-28-9	40.9	SX3	増井	1	増井他 2017
99	H29	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-17-35	14.8	なし	増井	1	未報告
100	H29	プラント	本調査	東志ヶ瀬1-280 谷内	383.1	SU1/SK4/P11 歴史SD1/SK3	鶴田	1	鶴田他 2019
101	H29	集合住宅	確認	西志ヶ瀬1-47.3・4・5	29.7	なし	増井	1	鶴田他 2019
102	H30	空地造成	確認	西志ヶ瀬1-25-1先	47.1	SX5~9	寺前	1	鶴田他 2019
103	H30	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-14-14	5.19	なし	寺前	0	鶴田他 2020
104	H30	分譲住宅	確認調査	西志ヶ瀬1-19-17	26.37	P14 歴史SK1/P1	寺前	1	鶴田他 2020
105	R1	個人宅造	本調査	西志ヶ瀬1-25-4	5.18	なし	平塚	1	平塚他 2021

第4表 恋ヶ窪遺跡（国分寺市No.2）調査履歴表（昭和49年～令和4年度）(3)

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (m <sup>2</sup> )	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
106	R1	分譲住宅	確認調査	西恋ヶ窪1-19-13	26.45	SK1/P14	林	1	平塚他 2021
107	R1	発電設備	本調査	東恋ヶ窪1-280	120.0	SK1/P1	中野	2	平塚他 2021
108	R3	集合住宅	確認調査	東恋ヶ窪3-21-18	33.73	なし	寺前	0	2023 対行予定
109	R3	分譲住宅	確認調査	西恋ヶ窪1-17-27・28	17.56	歴史 SK プラン確認のみ	寺前	1	2023 対行予定
110	R3	分譲住宅	確認調査	西恋ヶ窪1-17-51	10.56	歴史 SD プラン確認のみ	寺前	1	2023 対行予定
111	R3	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪1-17 地内	428.0	SIJ5/SK14/P33 歴史 SD2/SK4	寺前	15	本報告
112	R3	分譲住宅	確認	西恋ヶ窪1-19-12	9.38	SI2 件・K2-5 で 検出の SI10J・11J の続きを検出	寺前	1	2023 対行予定
113	R3	宅地造成	確認	西恋ヶ窪1-18-7・8・9	99.97	歴史 SD (東山道) プランのみ 2 本	寺前	1	2023 対行予定
114	R4	施設工事	確認	西恋ヶ窪1-27-27	9.23	なし	野田	0	2024 対行予定

今回の調査地点においては、昭和62年度に恋ヶ窪遺跡西辺及び東山道武藏路の様相把握を目的とした確認調査（第30次調査）が実施されているが、報告書作成が別途予定されているため、国分寺市遺跡調査会の役員会資料（内部資料）を再編集して以下に掲載する。

## 報告資料

### (3) 恋ヶ窪遺跡確認調査（第30次調査）

#### A. 確認調査

##### ① 調査の目的

昨年度までの調査で、集落北辺域における居住域の確認調査に区切りがつけられた。そこで、今年度からは遺跡西辺域の様相把握を目的とした確認調査を実施することとした。今年度は、集落居住域の西側への広がりを追求するために②区を調査地として選定した。なお、この地区は武蔵国分寺跡よりのびる道路遺構の延長線上にも当たっており、これの確認も合わせて行うことを目的とした。

##### ② 検出遺構

調査の結果、当初の予想どおり歴史時代と縄文時代の二時代にわたる遺構が検出された。歴史時代の遺構は道路遺構（SD2・5の2本の溝）で、縄文時代の遺構は住居跡1軒、小穴である。以下、時代ごとに検出遺構について述べていく。

#### 1) 歴史時代

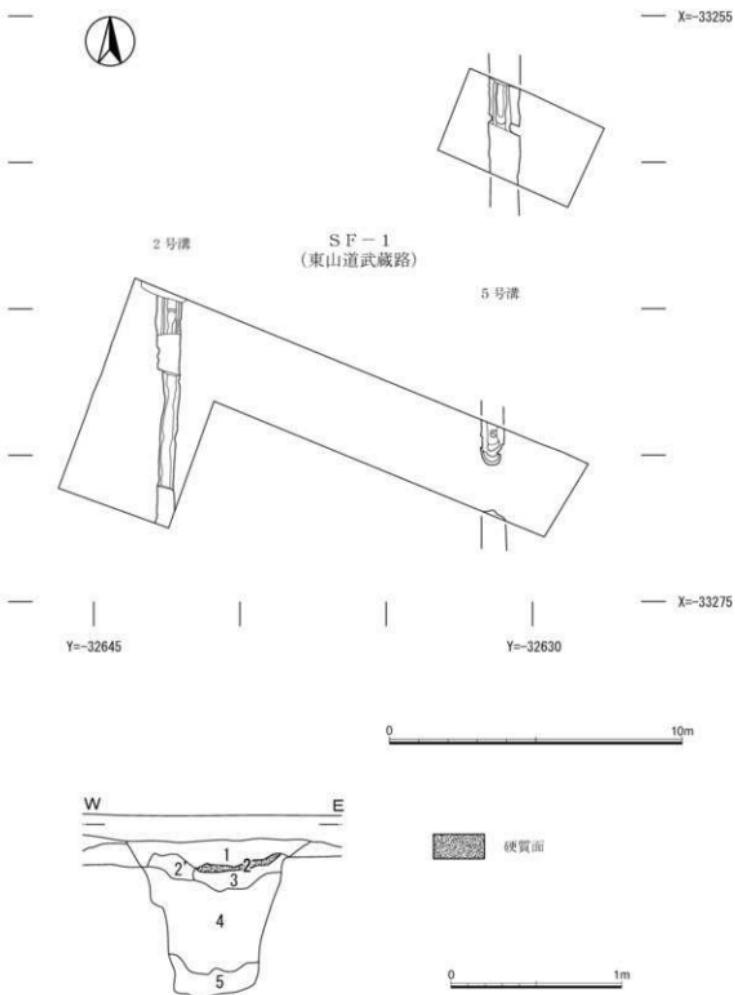
##### 道路遺構（SD2・5）図33（本報告では第13図として掲載）

武蔵国分寺で検出されているSF1道路遺構の延長線上に位置する。心々距離12mの道路で、両側に溝が掘られている。溝は幅70～80cmで、II層上面の確認面からの深さは50～70cmを測る。断面はU字状を呈する。東側溝（SD5）は、途中で途切れながら連なっている。溝覆土は5層に分けられ最上部の1層はややボソボソした暗茶褐色。2層は硬く踏み固められた暗茶褐色で、厚さ6～8cm程度。3層はローム粒をや多く含む暗黄褐色土。4層は40～50cmの層厚をもつ黒色土で、ボソボソした大粒のローム粒や暗茶褐色土のブロックを含む。溝最下部の5層はロームブロック・粒子を主体とした暗黄褐色土である。東西2本とも同一の層序を示す。2本の溝に挟まれた部分が道路部であるが、凹みや硬質面などは認められなかった。溝内および道路部から遺物は出土しなかった。

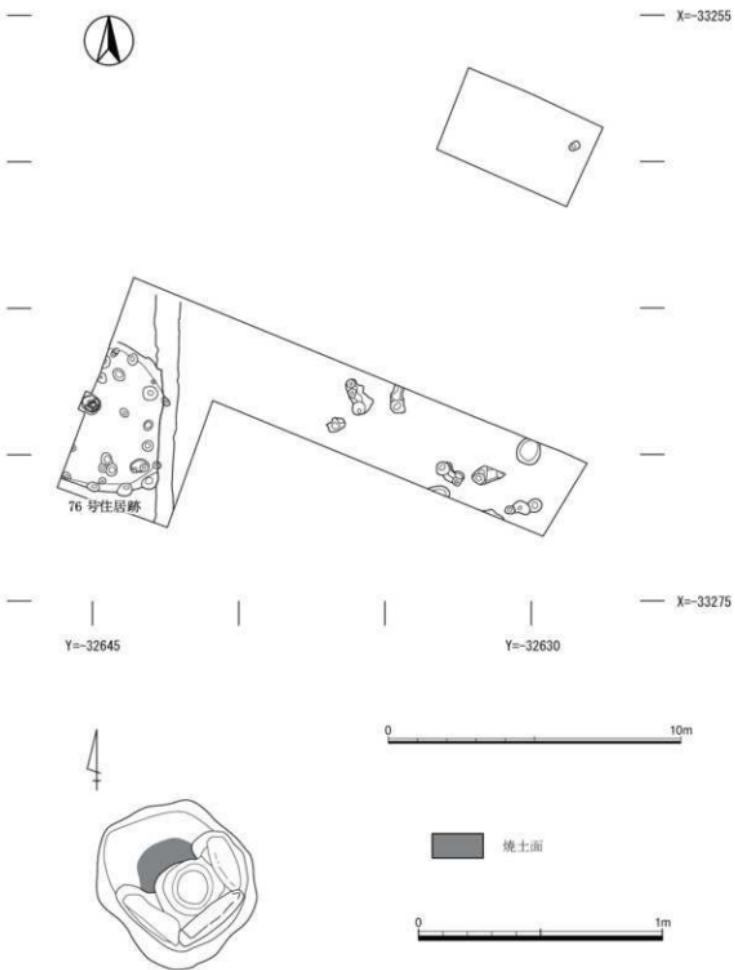
#### 2) 縄文時代

##### 76号住居跡 図34（本報告では第14図として掲載）

直径5m程の円形プランを呈する。住居跡東半部のみの調査である。遺構確認面からの掘り込みは30cm程度と深く、壁面も明瞭である。東壁の一部は歴史時代溝により壊されている。炉は石圓埋甕炉



第13図 恋ヶ窪遺跡第30次調査 歴史時代全体図・溝（SD5）セクション図  
(役員会資料をトレース、一部改変作図)



第14図 恋ヶ窪遺跡第30次調査 縄文時代全体図・76号住炉跡平面図  
(役員会資料をトレース、一部改変作図)

で住居跡中央部に位置する。北を除く三方向を石で囲み、その内に胴下半部を欠失させた深鉢形土器が埋設されている。柱穴は大小、深浅計24本検出され、主柱穴は4本か5本で、建て替えを行っていると考えられる。また、壁面下には約1m間隔で小柱穴が穿たれており壁柱穴であろう。主柱穴内側の住居跡内側は堅く踏み固められている。覆土は基本的に暗茶褐色で、スコリア粒・ローム粒・炭化物等の含有量などにより細分される。遺物は床面より20cm前後上部の覆土中に多く認められ、完形土器1個体も存在した。覆土出土遺物および埋理設土器からして勝坂式期の住居跡である。

### ③ 調査成果

恋ヶ窪遺跡集落西辺域の様相把握を目的とした確認調査は一応初期の目的を達成した。縄文時代の集落居住域は今回の調査地点で住居跡1軒が検出され、西隣の第15次調査地点でも不明確ながら2軒の住居跡が検出されていることから、西への広がりが確認された。しかし、検出住居が少ないことからみて集落居住域の周縁に近い部分なのである。第15次調査地点で検出されている陥し穴状土坑は検出されなかった。歴史時代では武藏国分寺跡よりのびる道路遺構が確認されたことが最大の成果である。この結果SF1道路跡は武藏国分寺跡から恋ヶ窪谷を挟んでも直線的にのびることが判明し、今までの延長800mから1,900m以上と続くことが確認された。溝覆土に認められた硬質面は道路部に広がっておらず、溝埋没の意味も含めて検討課題である。また、この道路遺構が更に北側にのびていく中でどちらに向かっていくのか、その時の道路遺構の状況など今後の調査課題も多数認められる。

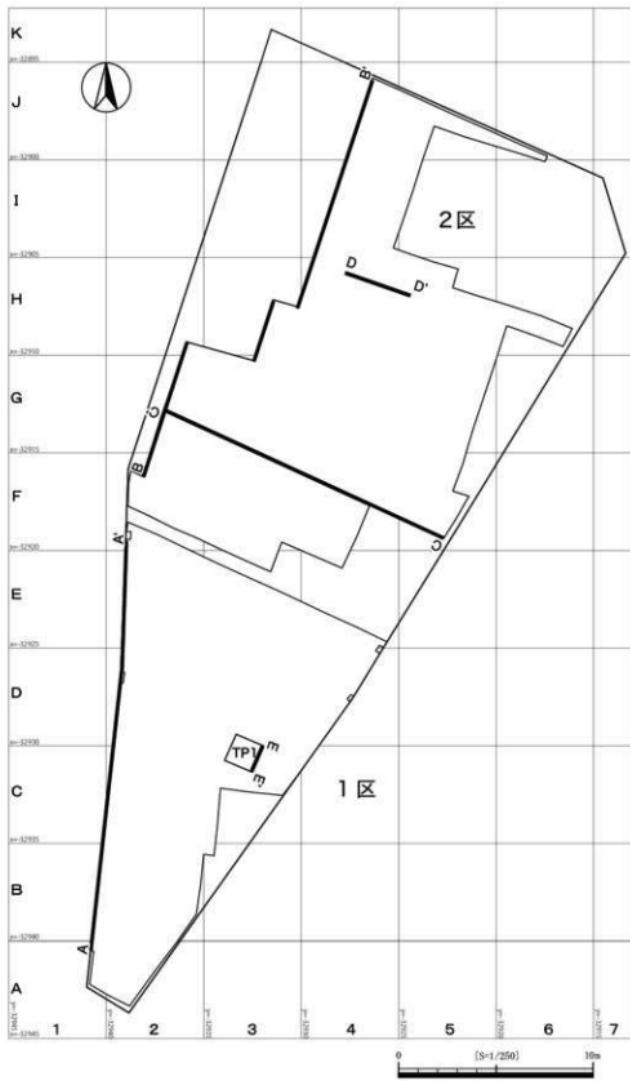
以上が確認調査（第30次調査）の概略である。また、本調査地区南側1区の西側隣地に位置する第15次調査地区では、不明確ながら2軒の住居跡と陥し穴状土坑、旧石器時代の石器集中部2ヶ所が検出されており（広瀬他1988）、縄文中期の集落の西側外縁部に当たるのではないかと想定されている。

## 第3節 基本層序

国分寺市域で用いられている土層の標準的な層序区分は、表土（I層）下の黒褐色土を黒色味が強い上層（II層）と、暗褐色でローム層への漸移層を含む下層（III層）とに細分しており、完新世富士テフラをII層、ソフトローム層以下をIII層以下に充てる武藏野台地の一般的な層序区分とは呼称が異なっている。また、本調査区では建築計画の設計深度に配慮した調査を実施したことから、旧石器時代遺構確認のための試掘坑（TP1）はIV層までの掘削にとどめた（第15・16図）。

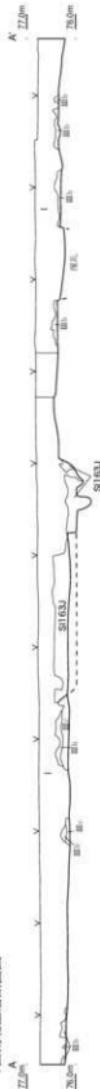
全体に南西方向へ低く緩やかに傾斜している地形である。

- I層 現表土。長く農地であったことから大部分は旧耕作土である。標高は北端で77.0m、南端で76.7mを測る。I'層は第30次調査区埋戻し土である。
- II層 黒褐色土。粒子が粗くボソボソした感じで粘性は弱い。遺存状態の良好な地点（遺跡北半部の第13・22・39・83次調査地点など）でわずかに確認され、古代以降の遺構覆土に似る。本調査区では東西土層断面DD'付近から北側にかけて確認された。
- IIIb層 暗褐色土。下部に行くほど褐色味が強くなる。縄文時代遺物包含層。本層上面で古代の遺構を確認した。
- IIIc層 にぶい黄褐色土。ローム漸移層。本層上面で縄文時代の遺構を確認した。
- IV層 明黄褐色土。ソフトローム層。

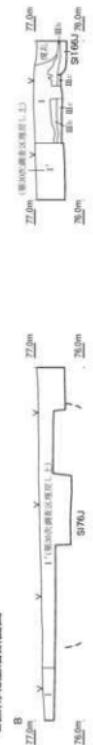


第15図 調査区及びグリッド設定図

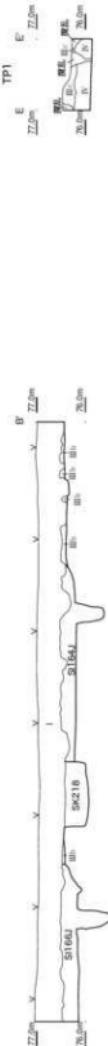
1区南北土层剖面图



2区南北土层剖面图



2区东西土层剖面图



第16图 测量区南北·東西土层剖面图

## 第3章 調査経過

### 第1節 調査方法

発掘調査は2日間の準備工の後、2021（令和3）年9月13日から10月27日まで行った。調査方法は発生土置場確保のため、1区及び2区南側、2区北側、2区中央の3回に分割して行った。また、調査区は建築計画の設計深度に基づく調査対象深度を細かく指定されたために、遺構確認が出来ない場所、又は遺構確認は出来てもそれ以上の調査が出来ない場所が発生した（第17図）。

表土は重機により掘削し、遺構確認面は人力で精査した。表土掘削の際に出土した多量の樹木根は、搬出処分した。調査終了後は調査区の脇に仮置きしていた残土にて埋戻しを行った。

調査経過は、以下に日付を追って記す。

### 第2節 調査経過

- 9月9日 準備工：発掘機材の搬入。基準点移動。
- 9月10日 準備工：調査区内の除草及び調査区設定。
- 9月13日 重機・仮設トイレ搬入。1区表土掘削開始。
- 9月15日 1区北側で検出したSI162J住居の範囲を確定する為、2区南側を表土掘削。
- 9月16日 1区及び2区南側表土掘削完了。検出全景写真を撮影。プレハブ搬入。
- 9月17日 SI162J・163J住居調査開始。SK216J調査。
- 9月22日 SI163J住居調査完了。
- 9月24日 1区北側表土掘削。
- 9月27日 1区及び2区南側の完掘全景写真と2区北側の検出全景写真を撮影。
- 9月28日 SI162J住居調査完了。1区及び2区南側調査完了。2区北側調査開始。SK217土坑調査。
- 9月29日 1区及び2区南側の埋戻し開始。SD5溝・SK218土坑調査。
- 9月30日 1区及び2区南側の埋戻し完了。SI164J・165J住居調査開始。SI143J住居全景写真を撮影。
- 10月4日 SK219J土坑調査。
- 10月8日 SI164J・165J住居調査完了。2区北側の完掘全景を撮影。2区北側埋戻し。
- 10月11日 2区中央表土掘削開始。
- 10月14日 2区中央表土掘削完了、検出全景写真を撮影。SI166J住居調査開始。
- 10月15日 SD2・5溝・PJ-1・PJ-2調査。
- 10月19日 SK220J土坑・PJ-3調査。
- 10月21日 SI166J住居調査完了。2区中央調査完了、完掘全景写真を撮影、埋戻し開始。
- 10月25日 2区中央埋戻し完了。発掘機材の搬出。
- 10月26日 重機・発電機搬出。
- 10月27日 プレハブ・仮設トイレ搬出。現地調査完了。
- 以後、10月28日よりトキオ文化財株式会社聖蹟整理事務所にて整理作業を行い、2022（令和4）年10月31日に本報告書発刊をもって全ての調査を終了した。



第 17 図 調査区全体図

# 第4章 検出された遺構と遺物

## 第1節 調査の概要

今回の調査で検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡6軒、土坑4基、小穴3基と、古代の道路遺構（東山道武藏路）側溝2条、土坑4基、小穴1基である（第17図）。これらは、既に述べたように建築計画の設計深度に配慮した調査を実施したことから、遺構の部分的なトレンチ調査を実施した結果と同様の状況になっており、遺構の全体像を正確に掴むことが困難な状況にある。

出土遺物は総数3669点（縄文土器3211点、石器262点、礫194点、武藏型土師器壺1点、土師質土器1点）である。竪穴住居より出土した縄文土器が主体を占め、古代以降の遺物は表土から2点出土したのみである。

## 第2節 縄文時代

検出された縄文時代の遺構は竪穴住居跡6軒（SI162～166J、追加調査SI143J）、土坑4基〔SK216・219・220・223J（223Jは平面プランの確認のみ）〕、小穴3基（PJ-1～3）である（第18・19図）。竪穴住居跡の時期は勝坂2式（新地平編年7b期）から加曾利E1式（10a期）に亘る。

出土遺物は総数3667点（縄文土器3211点、石器262点、礫194点）である。縄文土器では勝坂式が3092点（勝坂1式52点、勝坂2式350点、勝坂3式421点、勝坂式細別時期不明2269点）と多くを占める。

### （1）竪穴住居

SI143J住居（第20～22図、第5・6表、図版5・17）

位置・確認面 調査区北端の2区J-4・5グリッドに位置し、確認面はIII c層である。北接道路部分の第40次調査区で住居の一部が調査されており、その位置関係から検出した範囲は、本住居の南端部に相当すると考えられる。また、同調査区では住居東側を古代のSF1道路SD5溝に切られていることが確認されている。

規模・形態 復元された住居は、長軸約4.00m、短軸約3.30mの規模を有し、平面形は梢円形を呈するものと考えられる。壁は内湾気味に立ち上がり、遺構確認面からの壁高は最大22cmほどである。周溝は第40次調査区を含め認められなかった。床面はIV層を直床としているが、特に硬化面は認められなかった。

覆土 暗褐色土を主体に4層に区分される。第1・2層には炭化物粒を僅かに混じり、レンズ状に堆積している。

内部施設 第40次調査区を含めても調査部分が少なく、小穴3基のみの検出にとどまっている。新たに検出されたP1は径約40cm、深さ約40cmで、主柱穴と考えられる。

出土遺物 縄文土器9点、土製品1点が出土した。縄文土器、土製品の時期別の内訳は、勝坂式10点（勝坂2式8点、勝坂3式1点、細別時期不明1点）である。調査範囲が限られているため、遺物分布の傾向は判然としない。床面より20cm程上から有孔鍔付土器（勝坂式）が1点出土している。

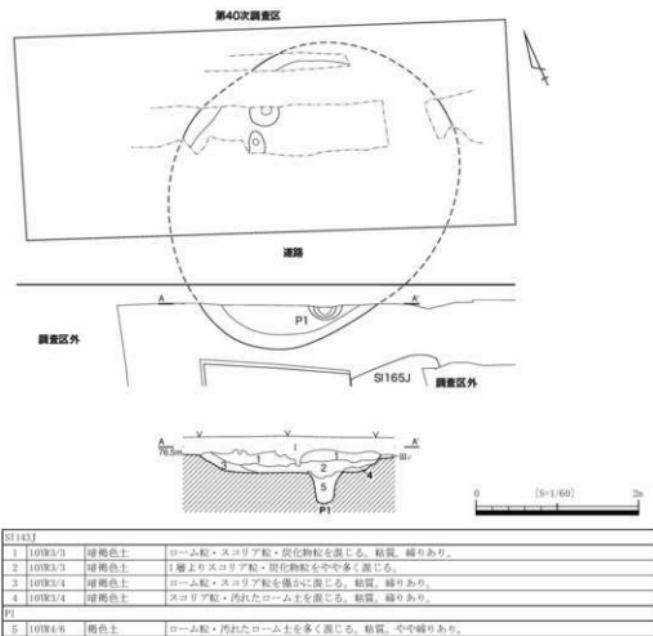
2点を図示した。1は勝坂3式（9a期）の深鉢胴部片で、半截竹管による爪形の刻みのある隆帯と、それに沿って沈線による梢円区画を設け、その内部は斜位の平行沈線が施される。2は土製円盤で勝坂2式（8a期）の深鉢胴部片を利用している。平面形状はほぼ正円形を呈するが、一部に欠損がみられる。周縁部は全周にわたり打ち欠き、研磨はみられない。文様は隆帯脇に半截竹管によるキャタピラ文と波状沈線が施される。



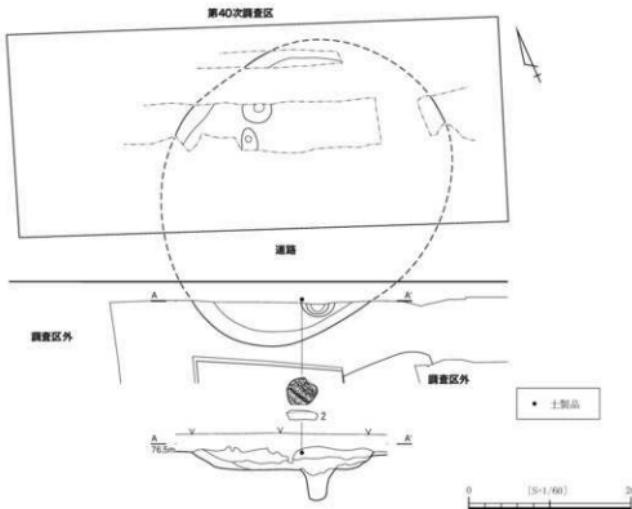
第18図 繩文時代遺構配置図(1)



第19図 繩文時代遺構配置図(2) (第30次調査を合成)



第20図 SI143J 住居実測図



第21図 SI143J 住居遺物分布図

**時期** 第40次の調査では勝坂2式（8b期）2点、勝坂3式（9a期）2点、勝坂式1点が出土している。今回、改めて既報告の勝坂3式（9a期）2点について再検討した結果、勝坂2式（8b期）と確認された。今次調査において出土した土器は僅少で、さらに1点のみ出土した勝坂3式（9a期）は覆土上部より出土している。以上のことから40次と今次調査出土土器の主体を占める勝坂2式（8b期）と考えるのが妥当であろう。



第22図 SI143J 住居出土遺物実測図

第5表 SI143J 住居土器観察表

調査番号 回収番号	出土 位置	時期	器形 形質 残存率	器形・文様の特徴	胎土	色調	地成	備考
22-1 17-1-1	覆土 一括	勝坂3 （新地平） 9a期	深鉢 肩部 破片	別みのある勝坂とそれに沿う北縁による横円凸面。 区画内に斜位置行沈線	良石。石英。シルト岩粒。 砂粒	内外：にじい黄褐色。 暗褐色	良	

第6表 SI143J 住居土製品観察表

調査番号 回収番号	出土 位置	時期	器種	主量(cm) 最大長/最大幅/最大厚	重量(g)	形質	文様の特徴	胎土	色調	地成	備考
22-2 17-1-2	覆土 上部	勝坂2 （新地平） 8a期	土製円盤	5.2 4.5 1.6	44.9	打ち欠き るキャビティ文・波状 浅鉢	勝坂陶に半軸竹管によ る真石。石英。角閃石。砂粒。 小石。赤褐色粒	外：にじい褐色。 内：灰褐色、黒褐色	良		

### SI162J住居 (第23～29図、第7～9表、図版5～7、17～19)

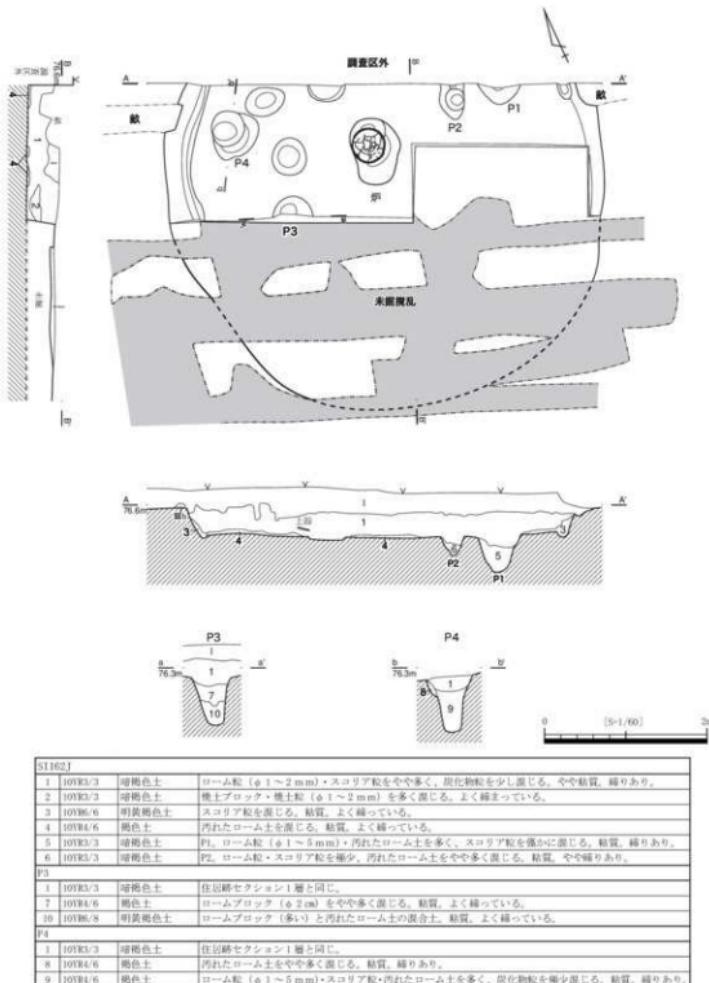
**位置・確認面** 調査区中央の1区D-E-3-4グリッドに位置し、確認面はIII c層である。住居中央部（最大幅1.70m）のみ掘り下げを行った。本住居北側の大部分は調査区域外に延びており、また遺構上面は全面にわたり竪などの搅乱を受けているものの浅く、遺存状態は良好である。

**規模・形態** 径約5.45mの平面形がほぼ円形と推定される住居である。壁は60°ほどの傾きで立ち上がり、遺構確認面から床面までの壁高は最大36cmほどである。周溝は西壁と東壁の一部に認められる。幅10～12cm、深さ5～7cmを測るが全周はしていないようである。床面はIV層を直床としているが、特に硬化面は認められなかった。

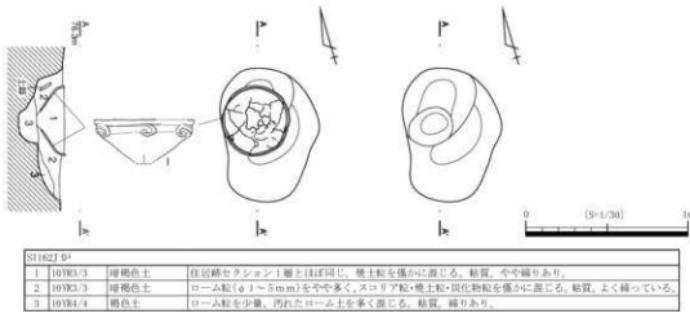
**覆土** 4層に区分され、炭化物粒を僅かに混じる第1層の暗褐色土が大部分を占める。

**内部施設** 住居中央北寄りに埋甕炉が設置されている。埋甕はほぼ完形の浅鉢を転用し、底部を欠失する。炉の平面形は不整橢円形で、長軸82cm、短軸60cm、深さ28cmを測り、底面が二段掘りされている（第24図）。小穴は4基（P1～4）検出され、P1・3・4が主柱穴と考えられる。規模は径45～60cm、深さ45～70cmである。

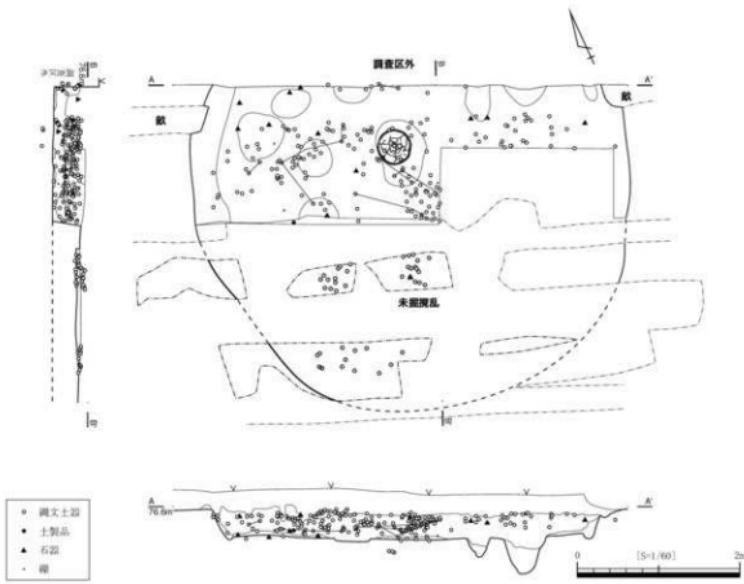
**出土遺物** 繩文土器467点、土製品5点、石器25点（打製石斧8点、台石2点、剥片15点）、礫4点の計501点が出土した。繩文土器、土製品の時期別の内訳は、五領ヶ台式1点、阿玉台式4点、勝坂式461点（勝坂1式5点、勝坂2式28点、勝坂3式96点、細別時期不明332点）、加曾利E式6点である。遺物は覆土上部～中部にかけて多くみられ、住居中央部に集中する様相が認められる（第25図）。床面付近では勝坂2～3式の土器が多くを占める。炉体土器は勝坂3式（9c期）の浅鉢である。SI165J堅穴住居の炉直上より、同時期（勝坂3式、9c期）かつ文様・形狀が近似する浅鉢（ほぼ完形、底部欠失）が出土している。



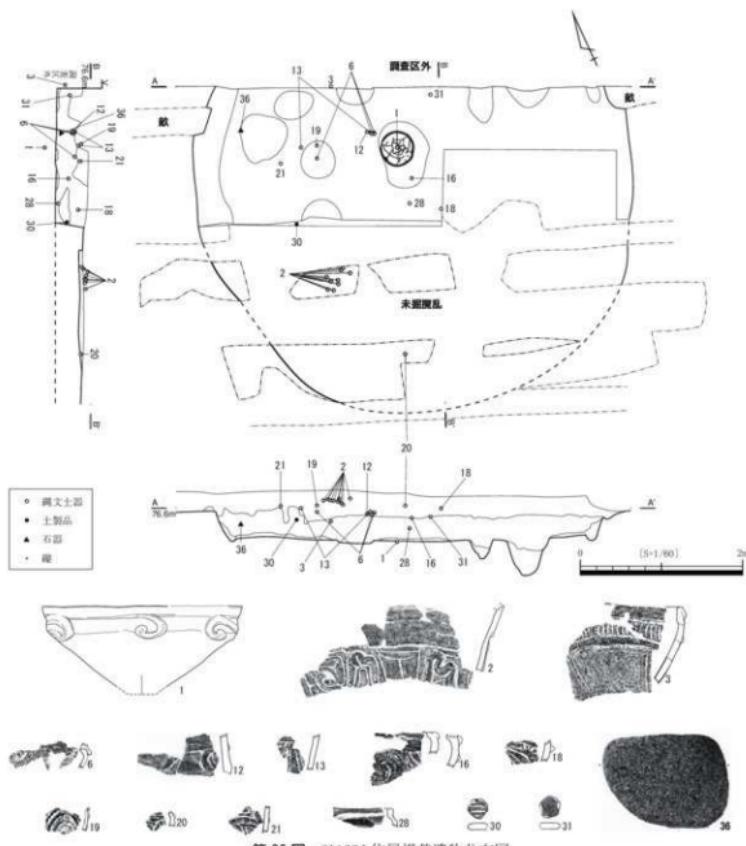
第23図 SI1162J 住居実測図



第24図 SI162J 住居炉実測図



第25図 SI162J 住居遺物分布図



第26図 SI162J 住居掲載遺物分布図

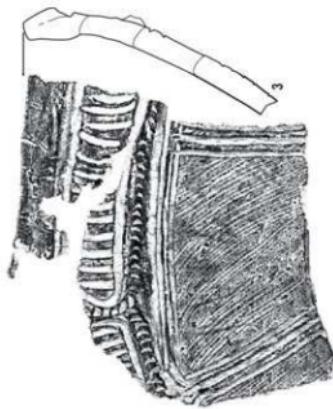
36点を図示した。1は炉体土器として使用された勝坂3式(9c期)の浅鉢で、ほぼ完形に近く、口縁部の一部と底部を欠損する。文様は口縁部に連繋満巻文が3単位と満巻文が1単位みられる。また、赤彩痕跡の遺存状態からみて、口縁部内外にのみ赤彩が施されていたとみられる。内面は被熱により黒色に変色し、器面も剥落している。2は勝坂3式(9c期)の深鉢口縁部～胴部片で、いわゆるバケツ形を呈する。口縁部は無文で幅広かつ肥厚しており、内折部は削離している。胴部は刻みのある隆帯と沈線による文様がみられ、隆帯は上部で蛇頭状に表現される。また、沈線による三叉文、満巻文が施文される。3は勝坂3式(9c期)の深鉢口縁部～胴部片である。口縁端部が幅の狭い無文帶で肥厚する。口縁部には半截竹管による爪形の刻目をもつ隆帯により横位の区画文が巡らされ、区画内には太い継位の沈線が充填される。胴部は半截竹管内面による平行沈線によって区画され、区画内には半截竹管内面による斜行沈線が施文される。4は五領ヶ台式(2期)の深鉢で口縁部片である。口縁端部に条線、以下は上下を結ぶ沈線に挟まれて継位の細線を施した交互刺突による鍛衛文、半截竹管内面による集合沈線がみられる。5は勝坂2式(8b期)の深鉢胴上部片である。細い竹管の刺突が施された隆帯に円形の小突起が付く。波状沈線が認められる。6～11は勝

坂3式(9b期)の深鉢口縁部片である。6は内湾する口縁部で、口縁端部には中央に凹みのある突起が付くが、欠損して全体形状は不明である。突起内面には沈線による縁取りと弧状沈線がみられる。突起外面の下部は剥離して不明。地文には0段多条の縦文RLが施文される。7は大きく内湾する口縁部である。口唇部には三角状の突起が付くが欠損する。突起外面の側縁には隆帯とそれに沿う太い沈線が施され、内面は沈線により三角状に縁取りがされている。8はやや内湾する口縁を呈し、平坦で内折する口唇部に突起が付く。突起部は隆帯による渦巻状で、半截竹管による刺突が施されている。突起内面にも2本の刺突がみられる。9は口唇部外面に連続刺突がみられる。縦位の隆帯が一部残存し、隆帯に沿って沈線が施文されている。隆帯の上端は突起になるとみられるが、欠損して不明。10は円筒形土器とみられる。口唇部は平坦でやや内折する。半截竹管による太めの沈線が施文され、上部には平行沈線が口縁を巡る。11は口唇部に眼鏡状とみられる突起が一部残存する。突起の隆帯部分には半截竹管による爪形の刻み・交互刺突・沈線による三叉文が施文され、内面測縁にも沈線が認められる。口縁部には綾杉状刻みのある隆帯がみられる。12～15は勝坂3式(9b期)の深鉢胴部片である。12は胴下部片で、刻みをもつ隆帯による楕円区画文がみられる。区画内には隆帯に沿う沈線と斜位の沈線が施文される。底部に続く屈折が確認できる。13は横・斜・縦位の平行沈線により文様が施文される。14は半截竹管による刻みのある隆帯とそれに沿う様に沈線が認められる。15は綾杉状刺突のあるやや扁平な隆帯と、それに沿う様に沈線がみられる。16～20は勝坂3式(9c期)の深鉢口縁部片である。16は口縁部が内湾する。口唇部はやや内折し外面に折り返しが付くが、大部分が剥離しており、突起が付いていたと推測される。幅広で刻目をもつ隆帯による渦巻文と、それに対応するよう弧状の沈線が施文される。沈線による三叉文も確認できる。17は内湾する口縁部で、2条の粘土紐による小波状隆帯とその間に横位の鎖状隆帯が施される。一部に地文の縦位の縦文RLが確認できるが、内外面共に摩耗している。18は内湾する口縁部で、刻みと半截竹管による刺突のある隆帯とそれに沿う沈線がみられる。沈線による文様が認められる。19は細い波状隆線と幅広の沈線による褶曲文が施文される。また、外面には煤がみられ、内外面ともに被熱による剥落が著しい。20は細い隆帯と鋭い沈線による褶曲文が施文される。21～25は勝坂3式(9c期)の深鉢胴部片である。また、21と22は胎土や施文具調整が近似することから、同一個体の可能性が考えられる。21は刻みのある扁平な隆帯により三角状の区画が成される。区画内は沈線で隆帯に沿って縁取られ、その内側には綾杉状の刻みが施文される。22は刻目をもち、緩く弧を描く縦位の扁平な隆帯とそれに沿う沈線がみられる。縦位や弧状の沈線により文様が施文される。23は太い渦巻状の隆帯とそれに沿う沈線、隆帯脇に部分的に刺突、左端に沈線による三叉文が認められる。24は刻みのある隆帯とそれに沿う沈線、沈線による渦巻文、刺突文が認められる。25は剥離した隆帯、やや太めの集合沈線文と斜位刻みがみられ、斜位刻み部分には沈線による三叉文を描いている。26は勝坂3式(9c期)の浅鉢肩部片で、深い沈線による渦巻文が施文される。肩の端部は外方に突出する。27は勝坂式の浅鉢口縁部片であろうか。幅広で肥厚した口縁部に小突起が認められる。28は勝坂式の浅鉢口縁部片で、低い隆帯と幅広の四線による文様がみられる。内外面ともに精緻な磨きが認められる。29は勝坂式の浅鉢底部片であろうか。底面中心部にのみ煤と網代痕がみられ、全体に摩耗が著しい。30～32は土製円盤で、勝坂式の深鉢胴部片を打ち欠いたものを利用している。30は文様は刻みのある隆帯、横位沈線、ベン先状工具による連続刺突文がみられる。側縁は細かく打ち欠いている。31は一部側縁に研磨がみられる。無文で縦位の磨きが認められる。32は側縁を全周研磨している。文様は縦位、横位の沈線文がみられる。

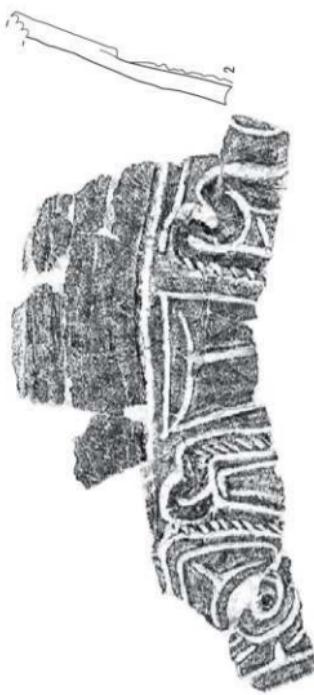
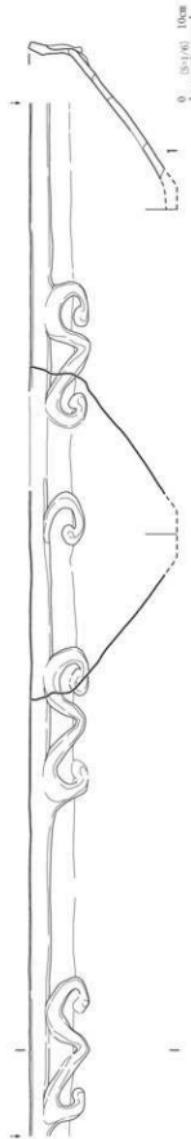
石器は4点を図示した。33は砂岩の打製石斧。胴部両側縁に潰れが見られ、基部は欠損したち再調整が施されている。34は基部・刃部を欠損した砂岩の打製石斧。両側縁に若干の潰れがみられる。35は基部から胴半部を欠損したホルンフェルスの打製石斧。調整は粗く分厚い作りをしている。36は閃緑岩の台石。両面に浅い窪みが数ヶ所みられる。

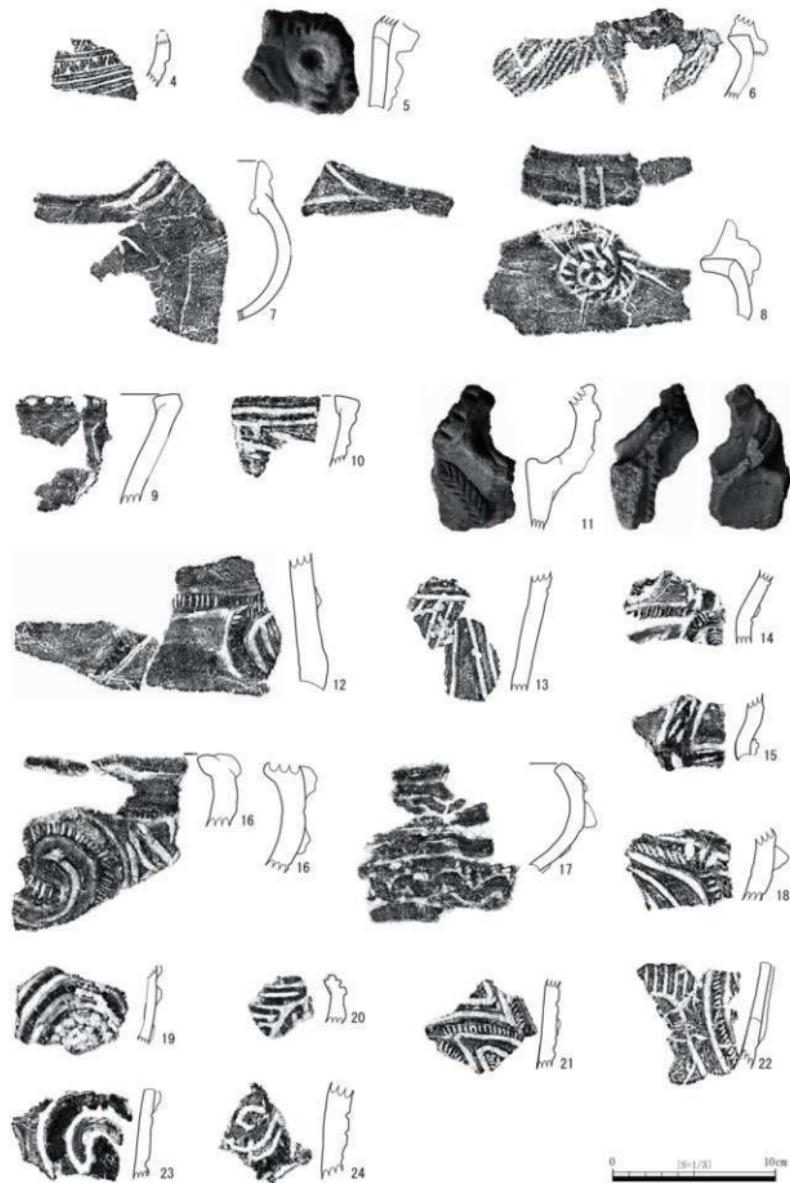
**時期** 炉体土器と覆土中の主体を占める土器の年代から勝坂3式期(9c期)と考えられる。

0 [5±1/6] 10cm

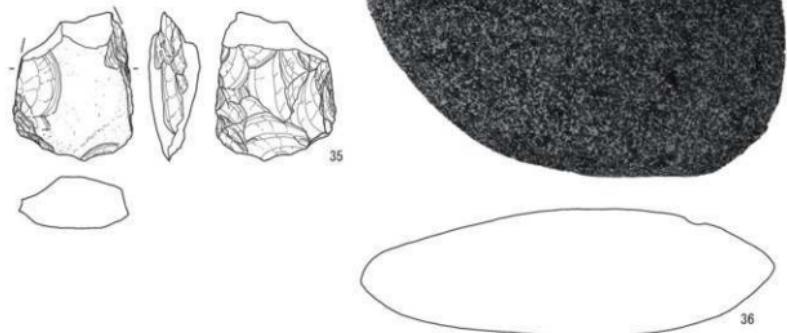
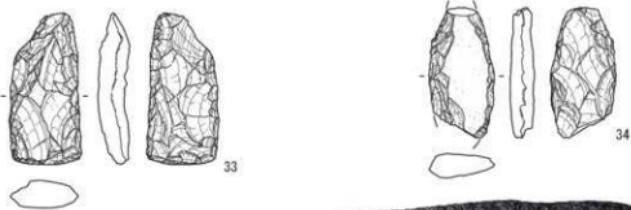
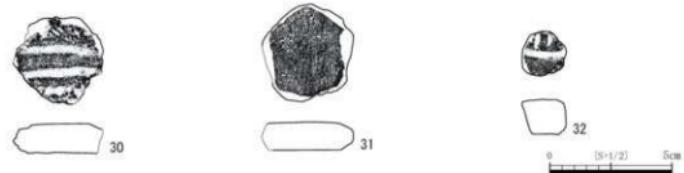
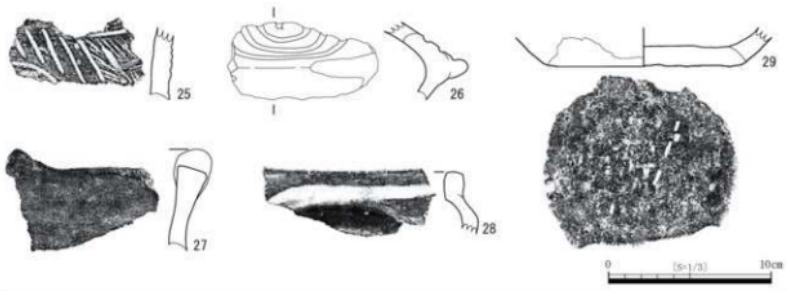


第27圖 S1162「生居」出土遺物素描圖 (1)





第28図 SI162J 住居出土遺物実測図 (2)



第29図 SI162J 住居出土遺物実測図 (3)

第7表 SI162J住居土器観察表

辨認番号 認定番号	出土 位置	時期	器形・部位 参考文	器形・文様の特徴	胎土	色調	焼成	備考
27 - 1 17 - 2 - 1	炉	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縁部一 脇部切欠 底部欠損	口縁部に陶継による連繋巻文。渕參文	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石、赤褐色	外: 黄褐色 内: 明黄褐色	良 口縫部内 外面赤褐色 炉体土器	
27 - 2 17 - 2 - 2	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縁部一 脇部切欠 底部欠損	福広肥厚の無文口縁。口縁部の内折部削離。胴部は削 みのある陥壠と沈縫による文様。底部による三叉文。	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石	外: 暗色、暗褐色、 内: 暗褐色、 内: 暗褐色	良	
27 - 3 17 - 2 - 3	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縁部一 脇部切欠 底部 破片	口縫部は削離する半軽竹管による仄切、底部による文様。区面内に半軽竹管による凹凸。区面内に半軽竹管による斜行文様	長石、石英、砂粒、小石、 赤褐色	外: にいじい赤褐色、 内: にいじい暗褐色、 内: 暗褐色、 内: 暗褐色	良	
28 - 4 18 - 1 - 4	覆土 2階	古墳台 (新地平) 2階	深鉢 口縁部 破片	口縫上端に斜縫、上下の絆縫に斜縫を施した交叉 例文による斜行文と集合沈縫	長石、石英、砂粒、角閃石、 赤褐色	外: 暗色、 内: にいじい暗褐色	良	
28 - 5 18 - 1 - 5	覆土 1階	勝坂2 (新地平) 8b期	深鉢 口縁部上 部 破片	無い竹管による刻痕の施された陥壠と円形の小突起。波 状底文	長石、石英、砂粒、小石、 赤褐色	外: 暗色、暗灰色 内: 明赤褐色	良	
28 - 6 18 - 1 - 6	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 口縁部 破片	内面は凸る斜縫部に突起(一部欠損)、突起内面に斜縫。 地文に0段多条の模様 RL 斜文	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石	外: 灰黃褐色、暗色、 内: 灰黃褐色、暗色、 内: 暗褐色、暗褐色	良	
28 - 7 18 - 1 - 7	覆土 1階	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 口縁部 破片	例文。三角波突起が一部残存。突起外間に陥壠と沈縫。 地文は沈縫による角行文	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石	外: 暗色、 内: 暗色	良	
28 - 8 18 - 1 - 8	覆土 1階	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 口縁部上 部 破片	口縫部に陥壠による渕參文の突起。突起に半軽竹管に 上の刻痕	長石、石英、角閃石、砂粒、 シルト岩粒、砂粒	外: にいじい暗褐色、 内: にいじい暗褐色、 内: 暗褐色	良	
28 - 9 18 - 1 - 9	覆土 1階	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 口縁部 破片	口縫部外端に刻み。陥壠底にいし沈縫。陥壠部分削離	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石	外: 暗色、明赤褐色、 内: にいじい暗褐色、 明赤褐色	良	
28 - 10 18 - 1 - 10	覆土 1階	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 口縁部 破片	波突起文	長石、石英、チャート、 砂粒、小石、赤褐色	外: 暗赤色、 内: にいじい暗褐色、 内: にいじい暗褐色	良	
28 - 11 18 - 1 - 11	覆土 1階	勝坂3 芦戸2 9b期	深鉢 口縁部 破片	口両端に板状突起。交叉互列文、刻み。三叉文、疊文、 波突起文のある陥壠	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石、赤褐色	外: にいじい暗褐色、 内: にいじい暗褐色、 内: 暗褐色	良	
28 - 12 18 - 1 - 12	覆土 1階	勝坂3 芦戸2 9b期	深鉢 口縁部 破片	刻みのある陥壠による横円区画文。区面内に刻みの波突 起文	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石、赤褐色	外: 暗色、にいじい暗褐色、 内: 暗褐色、 内: にいじい暗褐色	良	
28 - 13 18 - 1 - 13	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 脇部 破片	沈縫文	長石、シルト岩粒、砂粒、 小石、赤褐色	外: にいじい暗褐色、 内: にいじい暗褐色、 内: 暗褐色	良	
28 - 14 18 - 1 - 14	覆土 1階	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 脇部 破片	半軽竹管による刻みのある陥壠・陥壠脇の深い芯縫	長石、石英、角閃石、片岩、 砂粒、小石	外: にいじい暗褐色、 内: にいじい暗褐色	良	
28 - 15 18 - 1 - 15	覆土 1階	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 脇部 破片	棱線状刻みのある陥壠とそれに沿う沈縫	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石	外: にいじい暗褐色	良	
28 - 16 18 - 1 - 16	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縁部 破片	刻みのある陥壠による渕參文、沈縫文、三叉文	長石、石英、碧母、砂粒、 小石、赤褐色	外: 暗赤色、 内: 底青褐色、 内: 暗褐色	良	
28 - 17 18 - 1 - 17	覆土 1階	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縁部 破片	粘土緑による小波状陥壠文。波状文。地文に模様 RL 斜 文(一部残存)	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石、赤褐色	外: にいじい暗褐色、 内: にいじい暗褐色、 内: 暗褐色	良 内外器面 摩耗	
28 - 18 18 - 1 - 18	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縁部 破片	刻み・半軽竹管による刻みのある陥壠・陥壠脇の深い芯縫	長石、石英、角閃石、砂粒、 シルト岩粒、砂粒、小石、 赤褐色	外: にいじい暗褐色、 内: 暗褐色	良	
28 - 19 18 - 1 - 19	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縁部 破片	波状陥壠による褶曲文	長石、石英、砂粒	外: 須赤褐色 内: 橙色	良 内面底付 内面器皿 摩耗	
28 - 20 18 - 1 - 20	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縁部 破片	褶曲文	長石、石英、角閃石、碧母、 砂粒、赤褐色	外: 明赤褐色	良	
28 - 21 18 - 1 - 21	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 脇部 破片	刻みのある陥壠、沈縫、疊文状の刻み	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石、赤褐色	外: 橙色	22と同 一個体か	
28 - 22 18 - 1 - 22	覆土 1階	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 脇部 破片	刻みのある陥壠、北緯文	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石、赤褐色	外: 橙色	21と同 一個体か	
28 - 23 18 - 1 - 23	覆土 1階	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 脇部 破片	渕參文の陥壠とそれに沿う北緯文。一部陥壠脇に刻み。 北緯文による三叉文	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石	外: 暗色 内: 暗褐色	良	
28 - 24 18 - 1 - 24	覆土 1階	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 脇部 破片	刻みのある陥壠とそれに沿う沈縫、刻文交、沈縫による三 叉文	長石、石英、砂粒	外: 暗褐色 内: 暗褐色	良	
29 - 25 18 - 1 - 25	覆土 1階	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 脇部 破片	勝坂(刻離)、刻文集合沈縫、斜行刻み、沈縫による三 叉文	長石、石英、砂粒、小石	外: にいじい暗褐色 内: にいじい暗褐色	良	
29 - 26 18 - 1 - 26	覆土 1階	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 脇部 破片	渕參文の沈縫	長石、石英、碧母、砂粒、 小石	外: 暗色 内: にいじい暗褐色	良	
29 - 27 18 - 1 - 27	覆土 1階	勝坂式	深鉢 口縁部 破片	把離した無文の口縁。小穴蛇 渕參文	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石	外: 褐褐色、黒褐色 内: 暗色、黒褐色	良	
29 - 28 18 - 1 - 28	床面 直上	勝坂式	深鉢 口縁部 破片	低い陥壠と切縫による文様	長石、石英、角閃石、砂粒、 赤褐色	外: 暗色、暗褐色、 内: 暗色、暗褐色、 内: 暗褐色	良 外面磨き	
29 - 29 18 - 1 - 29	覆土 1階	勝坂式	深鉢 口縁部 破片	外面に勝代旗	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石、赤褐色	外: にいじい暗褐色 内: にいじい暗褐色	良 外底面 付着 摩耗	

第8表 SI162J 住居土製品観察表

調査番号 図版番号	出土 位置	時期	器種	法量 (cm)			重量 (g)	削線加工	文様	胎土	色調	焼成 度	備考
				縦大長	横大幅	縦大厚							
29 - 30 18 - 1 - 30	覆土 下部	勝坂式	土製円盤	3.5	3.4	1.1	15.1	打ち欠き 一剖研磨	模様の沈線文、ベン先 工具による連續刻突 文、刮みのある障壁	真石、石英、 角閃石、砂粒、 未焼き粒	内外：灰黄褐色	良	
29 - 31 18 - 1 - 31	覆土 下部	勝坂式	土製円盤	3.8	3.7	1.1	19.3	打ち欠き 一剖研磨	無文	真石、石英、 角閃石、シルト 岩粒、砂粒	外：橙色 内：灰黄褐色	良	
29 - 32 18 - 1 - 32	覆土 一括	勝坂式	土製円盤	1.2	1.1	1.4	5.2	打ち欠き 全面研磨	擬似・模様の沈線文	真石、石英、砂粒、 未焼き粒	内外：白い赤褐色	良	

第9表 SI162J 住居石器観察表

調査番号 図版番号	後傾	石質	出土位置	法量 (cm)			重量 (g)	備考
				縦大長	横大幅	縦大厚		
29 - 33 19 - 1 - 33	打製石斧	砂岩	覆土一括	9.4	4.6	2.0	90.6	基部欠損
29 - 34 19 - 1 - 34	打製石斧	砂岩	覆土一括	(8.0)	4.1	1.5	(63.4)	基部・刃部欠損
29 - 35 19 - 1 - 35	打製石斧	ホルンフェルス	覆土一括	(9.2)	7.4	3.2	(240.5)	基部～側半部欠損
29 - 36 19 - 1 - 36	台石	閃緑岩	床面直上	19.5	26.5	8.0	6350.0	深い窪みが面面に散々所みられる

## SI163J 住居（第30～32図、第10・11表、図版7・19）

**位置・確認面** 調査区南側の1区西壁C・D-2グリッドに位置し、確認面はIII c層である。住居北壁の一部（最大幅1.50m）のみ掘り下げを行った。本住居西側の大部分は調査区域外に延びており、また遺構上面は全面にわたり竪などの搅乱を受けているものの浅く、遺存状態は良好である。

**規模・形態** 調査区西端壁面で本住居の南壁立ち上がりを確認することができたことから、南北の長軸が約5.00mの楕円形を呈するものと考えられる。壁は60°ほどの傾きで立ち上がり、遺構確認面からの壁高は最大35cmほどである。周溝は北壁の掘り下げ部分で新旧2条が検出された。壁寄りのものが新しく、幅約20cm、深さ約13cmと浅く、住居内側の旧周溝は幅約28cm、深さ約27cmを測る。旧周溝上面は貼り床が認められることから、北側に拡張されたと考えられる。床面はIV層を直床としている。

**覆土** 自然堆積の5層に区分され、炭化物粒を僅かに混じる第2・3層の暗褐色土が大部分を占める。

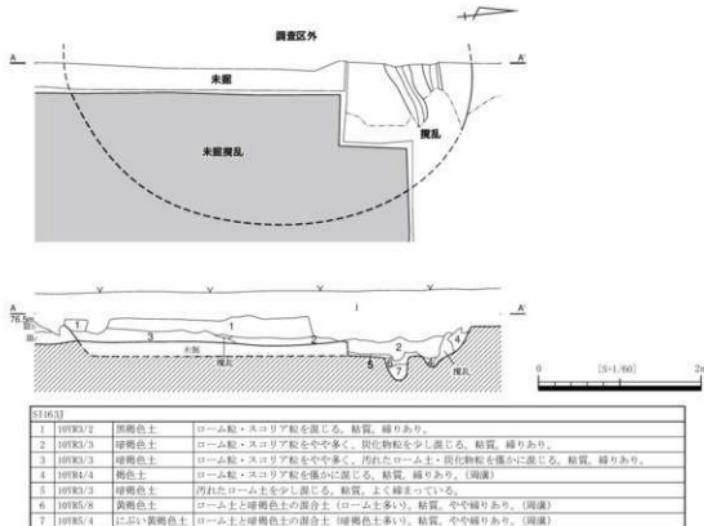
**内部施設** 本住居の大部分が未調査であることから不明である。

**出土遺物** 繩文土器90点、石器8点（打製石斧4点、石礫1点、剥片3点）、礫2点の計100点が出土した。繩文土器の時期別の内訳は、勝坂式68点（勝坂2式1点、勝坂3式12点、細別時期不明55点）、加曾利E式22点（加曾利E1式21点、細別時期不明1点）である。調査範囲が狭いため、遺物分布の傾向は判然としない。勝坂式、加曾利E式とともに、主に床面上5～15cmより出土している。

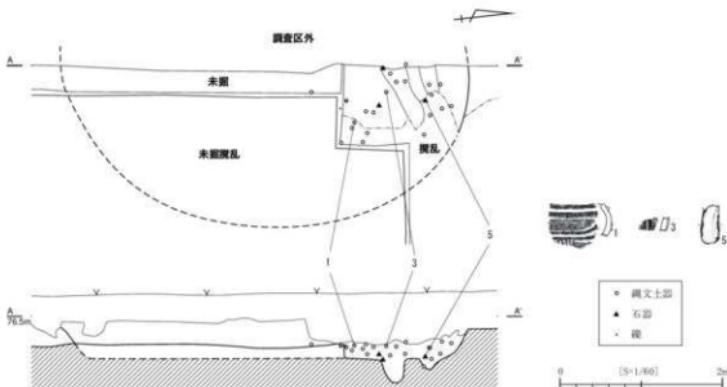
6点を図示した。1は加曾利E1式（10a期）の深鉢口縁部片で、縁によるS字状文とそれに沿う沈線、縦位4本の隆帶がみられる。地文は撚糸文Rである。2は加曾利E1式（10a期）の深鉢胴部片で、地文に縦位の撚糸文Rをもち、半截竹管内面の横位半隆起線による文様が施されている。3は加曾利E1式（10a期）の深鉢胴部片で、並列する縦位2本の隆帶による懸垂文がみられ、地文は撚糸文Lである。

石器は3点を図示した。4は黒曜石の石鎌。形態としては回基無茎鎌に分類される。5は基部を欠損した砂岩の打製石斧。全体にやや薄く作られ、刃部の調整は殆ど見られない。6は砂岩の横長剣片を素材とした楔形打製石斧。基部・刃部の潰れは顕著であるが脛部両側縁の潰れは殆ど見られない。

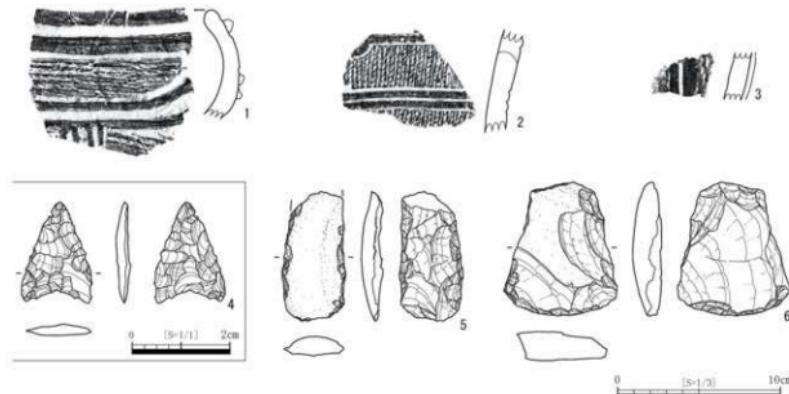
**時期** 本遺構周辺は勝坂式期の堅穴住居跡の分布域である（第5章参照）が、床面付近から加曾利E1式土器が少なからず出土しており、破片形状も勝坂式土器片より大きいものが目立つことから、本堅穴住居跡の時期は加曾利E1式期（10a期）としておきたい。



第30図 SI163J 住居実測図



第31図 SI163J 住居遺物分布図



第32図 SI163J 住居出土遺物実測図

第10表 SI163J 住居土器観察表

辨認番号 図版番号	出土 位置	時期	器形 部位 残存率	器形・文様の特徴	胎土	色調	焼成	備考
32-1 19-2-1	覆土 下部	加曾利E1 (新地平)	深鉢 口縁部 10cm	縦帯による5字状文と横帯による沈線。地文は撫系文R	長石、石英、角閃石、砂粒、小石。 赤褐色粒	内外：にじい・黄褐色	良	
32-2 19-2-2	覆土 一括	加曾利E1 (新地平)	深鉢 10cm	地文に撫系文R、半載竹管内面による並行沈線文	長石、石英、砂粒、小石。 赤褐色粒	内外：にじい・褐色	良	内面裏面 荒れ
32-3 19-2-3	覆土 下部	加曾利E1 (新地平)	深鉢 崩部 10cm	縦帯2本の横帯による撫參文。地文は撫系文L	長石、石英、砂粒	外：褐色 内：にじい・黄褐色	良	

第11表 SI163J 住居石器観察表

辨認番号 図版番号	種類	石質	出土位置	法量(cm)			重量(g)	備考
				最大長	最大幅	最大厚		
32-4 19-2-4	石鏟	黒曜石	覆土一括	2.0	1.4	0.3	0.5	刃基無茎鏟
32-5 19-2-5	打製石斧	砂岩	覆土一括	(8.0)	4.0	1.3	(44.5)	基部欠損
32-6 19-2-6	打製石斧	砂岩	覆土下部	8.3	6.9	1.8	126.0	瘤形

## SI164J住居（第33・34・36～39・41～46・51図、第12～15・20表、図版8～10・20～24・27）

**位置・確認面** 調査区北側の2区I・J-4・5グリッドに位置し、確認面はIII c層である。住居中央部と東壁部分（何れも幅約1.00m）のみ掘り下げを行った。本住居西側部分は調査区域外に延びております、また住居北東部分ではSI165J住居に切られられており、さらに住居中央部から南端部にかけて古代のSK217・218・221・222及びP-4に切られている。これら古代の遺構は、SK218以外は非常に浅いため住居の遺存状態は良好である。

**規模・形態** 長軸約4.75m、短軸3.50mの平面形が楕円形の住居である。壁は60°ほどの傾きで内湾気味に立ち上がり、構造確認面からの壁高は南東壁で最大22cm（断面図IIIb層上面からは32cm）ほどである。周溝は検出されなかった。床面は、IV層を直床としており、炉の周囲南北幅約1.70mの範囲に硬化面が認められた。

**覆土** 3層に区分され、炭化物粒および焼土粒を混じる第1層の暗褐色土が大部分を占める。炉の周辺ではローム粒・焼土粒・炭化物粒および土器を多く包含する第1'層の褐色土がみられる。

**内部施設** 住居中央西寄りに石囲炉が設置されている。平面形が楕円形で、長軸70cm、短軸60cm、深さ10cmを測る。炉の中央南寄りに長大な炉石（幅11.0cm、長さ35.0cm）が残存しているが、炉の浅い内面が広範囲に被熱赤化している。小穴は5基（P1～5）検出され、規模・配置などからP1・3～5が主柱穴と考えられる。径45～60cmの円形平面で、深さ48～70cmである。

**出土遺物** 繩文土器736点、土製品6点、石器68点（打製石斧20点、ビエス・エスキーエ1点、石皿1点、砥石1点、石鐵1点、磨石3点、敲石4点、礫器2点、剥片35点）、疊88点の計910点が出土した。繩文土器、土製品の時期別の内訳は、阿玉台式4点、勝坂式729点（勝坂1式27点、勝坂2式196点、勝坂3式27点、細別時期不明479点）、加曾利E式9点である。遺物は主に住居中央部付近に多く出土している。また、覆土中部へ下部からの出土量が多く、床面付近では勝坂2式（7b期）の遺物が主体を占める。

50点を図示した。1・2は勝坂2式（7b期）のほぼ完形に近い深鉢で、抽象文土器である。1は口縁部は無文で内湾する。頸部は円形突起と小突起が各2単位みられる。胴部は刻みのある隆帯とそれに沿うキャタピラ文、波状沈線によるB字状・J字状などの抽象文と、一部に方形区画と三角文が認められる。2は口唇部に小突起が4単位付くとみられる。全面に地文として繩文RLを施している。口縁部は刻みのある隆帯と隆帯脇の沈線により区画し、胴部は刻みのある隆帯とそれに沿うキャタピラ文による抽象文が施される。頸部と胴部の境には部分的に円形突起がみられる。3は勝坂2式（7b期）の台付深鉢で口縁～台部である。パネル文土器。頸部が括れ、胴部が張り出す器形。台部の大部分を欠損するが、底部から外反する脚台部の一部が残存する。波状口縁。波頂部に眼鏡状突起が付き、2箇所が部分的に残存する。口唇部外面には刻みが施される。口縁部から胴部まで刻みのある隆帯により区画され、隆帯は胴張り出し部で一部突出して小突起状となる。隆帯脇は半截竹管内面による1条もしくは2条の半隆起線によって縁取られ、区画内には刻み・沈線による三叉文・縦位集合沈線と半截竹管による蓮華草文等が施される。4は勝坂2式（7b期）の深鉢胴部片で、刻みと爪形文の施された隆帯による楕円区画文と重三角区画文が交互にみられ、繩文地の段を挟んで3段の文様帶がみられる。一部楕円区画の隆帯脇には細い半截竹管による刺突がみられる。区画内外は半截竹管内側による縦位平行沈線と繩文RLが施される。5は勝坂1式（6a期）の深鉢口縁部～胴部片で、口縁部の突起部分は欠損している。文様は隆帯とその脇に施された間隔の狭い三角押文による三角形状の区画がみられる。頸部は無文で、胴部との境に三角押文の沿う隆帯がみられる。6は勝坂1式（6a期）の小型深鉢の内湾する口縁部片で、やや間隔の空いたキャタピラ文と波状沈線を挟んだ間隔の密なキャタピラ文、頸部に刻みのある隆帯とその下に沿う細かい三角押文と細い波状沈線で文様の強弱を表出している。7は勝坂1式（6a期）の深鉢胴部片で、隆帯による重三角文、三角文内にはやや間隔の空いたキャタピラ文、三角押文が隆帯に沿い、上方には波状沈線が巡る。8は勝坂1式（6a期）の深鉢

胴部片で、細い隆帯による区画内に三角押文、波状沈線、角押文、刺突文を施文。隆帯間は縦位の無文部となる。9は勝坂1式（6b期）の深鉢口縁下部～胴部片で、粘土紐貼付による刺突のある円形突起、文様は細い隆帯とそれに沿うキャタピラ文による重三角区画、区画内に波状沈線がみられる。10は勝坂2式（7a期）の深鉢口縁部片である。口唇部は平坦であるが、一部が剥離し、突起が付いていたとみられる。口縁部は内湾し無文、端部は短く直立しやや肥厚する。半截竹管内面による等間隔の縦位集合沈線文が細かく施文され、一部は沈線により櫛形状に切り込まれ、その間は三叉状となる。11は勝坂2式（7a期）の深鉢で口縁部～胴上部片である。キャリバー形。口唇部は内側へ折り返す。外面口唇直下に浅い沈線が巡る。地文には0段多条の繩文RLが施文される。12～15は勝坂2式（7a期）の深鉢胴部片である。12は縦位棒円状の隆帯脇に間隔の狭い三角押文が沿い、波状沈線が施文される。下部は無文で底に移行する。また、内面に煮焦げの付着がみられる。13は刻みのある隆帯がみられ、隆帯脇にはキャタピラ文と三角押文が施文される。地文には0段多条の繩文RLが施文される。隆帯の剥離痕がみられる。14は幅広で厚い隆帯は波状隆帯の頂部とみられる。隆帶上には半截竹管内面による密な連続爪形文が施文され、片側側縁には棒状工具による押引文が施文される。隆帯内側に沿ってやや幅の狭い無文の隆帯がみられる。15は阿玉台II式（7a期）の深鉢胴部片で、幅広の2段の爪形文が認められる。16は勝坂2式（7b期）の深鉢口縁部～胴上部片で、口唇部には連続爪形文を施文した三角状突起が残存。外面に山形状の沈線、内側は三角状の溝がみられる。口縁部は無文で内湾する。胴部は刻みのある隆帯による梢円区画文となり、区画内にはキャタピラ文、波状沈線が施文される。17～22は勝坂2式（7b期）の深鉢胴部片、20～22はバネル文土器である。17は胴上部片で、やや間隔のある刻みと半截竹管内面による連続爪形文の施された幅広の隆帯と、半截竹管内面による平行沈線で縁取られた区画を形成する。区画内にはキャタピラ文と波状沈線が施文される。口縁部との境と思われる部位に刻みをもつ円形の突起が付く。18は半截竹管内側による連続爪形文のある隆帯とそれに沿う沈線による円形の文様内に刻み目が認められる。縦位隆帯の一部が突出して小突起状となる。19は隆帯の両脇にキャタピラ文と波状沈線が施文される。沈線による三叉文が確認できる。20は隆帯とそれに沿う半截竹管内側の平行沈線による区画内に爪形文、波状沈線、集合沈線文が施文される。21は半截竹管内面による半隆起線により区画される。隆線上には一部に交互刺突がみられる。区画内には縦位の沈線が施文され、沈線間に刻みが施される。22は半截竹管内面による半隆起線により区画される。区画内には縦位集合沈線や刻みが施文される。23は勝坂2式（7b期）の深鉢で胴下部～底部である。半截竹管内面による斜行沈線が確認できる。内面には被焼による荒れがみられる。24は勝坂2式（7b期）の小型土器で底部片である。斜行する沈線が施文される。25は勝坂2式（8a期）の深鉢で口縁部片である。内湾する口縁で口唇部の突起は欠損し、口唇外面には刻みが施される。口縁部は刻みのある隆帯により横位に区画され、隆帶上には三段の粘土紐を重ねた小突起が付く。区画内にはキャタピラ文と並列する半截竹管による蓮華文が施文される。26は勝坂2式（8b期）の深鉢口縁部～胴上部片で、口縁部は無文で内湾する。胴上部には幅広で扁平な隆帯がみられ、その脇にキャタピラ文が施文される。27は勝坂2式（8b期）の深鉢口縁部～胴上部片で、口縁部は無文で内湾するとみられる。胴部文様はバネル文崩れとみられる。扁平な隆帶上には交互刺突が施文され、隆帯はやや弧を描きながら縦位に伸びる。隆帶脇にはキャタピラ文と波状沈線が施され、隆帶間に刻みと沈線による三叉文が施文される。28は勝坂3式（9a期）の円筒状深鉢口縁部～胴部片で、扁平な隆帯による梢円区画文、隆帶脇には細い半截竹管による刺突がみられる。区画内は三叉文を交互に施して描き出した刻みのある波状文と円形文、胴部下半には0段多条繩文RLが施文される。29・30は勝坂3式（9a期）の深鉢口縁部片で、胎土や調整が近似することから、同一個体の可能性が考えられる。29はやや内湾する口縁で、口唇部は大部分が欠損する。綾杉状の刻みと側面に半截竹管内面による連続爪形文のある隆帯による文様は半截竹管内面を使った平行沈線により縁取られ、その内側には彫刻的な三叉文や集合沈線が施文される。30は

口唇部の隆帯による円形の突起と思われる部分を欠損する。文様は半截竹管内側による連続爪形のある隆帯や、交互刺突による波状文のある隆帯により構成され、隆帯に沿う沈線による区画内に斜位集合沈線がみられる。**31**は勝坂3式(9a期)の深鉢で胴部片である。刻みのある隆帯が梢円状に配され、隆帯沿いには沈線が施される。内側には太めの沈線文と円形刺突文が施文される。**32**は勝坂3式(9b期)の深鉢で口縁～胴上部片である。口縁部は無文でやや肥厚し内湾気味である。胴上部は刻みのある隆帯により横位に区画され、渦巻状の小突起が付く。区画内は沈線もしくは平行沈線により縁取られ、内側には斜位集合沈線や円形沈線文が施文される。**33**は勝坂3式(9b期)の深鉢で口縁部片である。三角状の突起が付き、外面は刻みのある隆帯による眼鏡状突起となる。やや内湾する口縁部には刻みをもつ縱位の隆帯と縱位の集合沈線文がみられる。**34**は勝坂3式(9c期)の深鉢口縁部片で、強く内湾する口縁部に隆帯による褶曲文、口唇部に沈線が巡る。地文は繩文RLである。**35**は勝坂3式(9c期)の深鉢の内湾する口縁部片で、半截竹管内側を深く押し付けて表出した半肉彫り状の褶曲文がみられる。**36**は加曽利E2式(11c期)の深鉢胴部片で、文様は2本の平行沈線による連弧文、地文は繩文RLである。連弧文下にはわずかに横位沈線がみられ、胴部を巡るものとみられる。**37**は加曽利E4式(13期)の深鉢胴部片で、指頭による凹線と地文繩文RL、磨消繩文がみられる。**38**は土製円盤で、勝坂式の深鉢底部片を打ち欠いたものを利用している。

石器は12点を図示した。**39**は黒曜石の横長剣片を素材とした石鏃。右脚に比べ左脚は短く、全体に粗く調整が施され作りは分厚く若干歪である。形態としては回基無茎鐵に分類される。**40**は黒曜石のビエス・エスキュー。上下両端に潰れと下端表裏に連続した小削離がみられる。**41**は砂岩の打製石斧。基部から刃部の周縁に潰れがみられる。**42**は砂岩の撥形打製石斧。刃部の作りは薄く胴部両側縁に潰れがみられる。**43**は砂岩の横長剣片を素材とした打製石斧。胴部は分厚く両側縁に抉りがあり潰れがみられる。**44**は砂岩を粗削りした横長剣片の礫器。上下両端に急斜な刃部調整が施され、潰れがみられる。**45**は凝灰岩を素材とした棒状の敲石。上下両端に敲打による剝離と潰れがあり、上端には若干の磨耗がみられる。素材と形状から磨製石斧であった可能性もある。**46**は梢円形の砂岩を素材とした敲石。上下・両側縁に敲打による剝離と潰れがあり、裏面には被熱した部分がみられる。**47**は砂岩の磨石。全体によく磨りこまれ若干光沢を帯びている。表裏面は平坦に磨られていることから砥石として使用された可能性もある。**48**は安山岩、**49**はチャートの磨石である。**50**は閃緑岩の砥石。上下両端以外は全て砥面で、裏面・両側面には緩やかに座む面がある。炉から出土し全体に被熱し煤けていることから、石器としての機能を終えたのち、炉石として二次利用されたと考えられる。

**時期** 床面付近の出土遺物から、勝坂2式期(7b期)と考えられる。

#### SI165J住居（第33・35～40・47～51図、第16～20表、図版8～11・25～27）

**位置・確認面** 調査区北側の2区I・J-4～5グリッドに位置し、確認面はIII-c層である。本住居中央部分（幅約1.00m）のみ掘り下げを行った。住居西側および東側部分は調査区域外に延びており、また住居南西部分ではSI164J住居と重複してこれを切り、同東側を古代のSF1道路SD5溝にそれぞれ切られているが、住居の遺存状態は良好である。

**規模・形態** 径約3.00mの平面形がほぼ円形の住居と考えられる。遺構確認面からの壁高は最大25cm（断面図IIIb層上面からは35cm）ほどである。周溝は検出されなかった。床面は、IV層を直床としており、炉の東側南北幅約1.45mの範囲に硬化面が認められた。

**覆土** 2層に区分され、SI164J住居1層より焼土粒・炭化物粒を多く混じる第1層の暗褐色土が大部分を占めている。

**内部施設** 住居中央北西寄りに地床炉が設置されている。平面形は梢円形で、漏斗状に二段掘りされている。長軸約53cm、短軸48cm以上、深さ5cmの浅い窪みに、中央南寄りに径20cm強、深さ約23cmの

小穴を作り。小穴の上端周辺部は被熱で焦げている。炉の北側を覆うようにほぼ完形の浅鉢が伏せた状態で出土している。小穴は住居内の南北端で2基（P1～2）検出され、径45～60cmの円形平面で、深さ48～70cmである。2基とも規模・配置などから主柱穴と考えられる。

**出土遺物** 繩文土器396点、土製品2点、石器33点（打製石斧16点、スクレイバー1点、石皿1点、石鍤1点、調整剥片石器1点、剥片13点）、礫41点の計472点が出土した。繩文土器、土製品の時期別の内訳は、阿玉台式3点、勝坂式393点（勝坂1式1点、勝坂2式19点、勝坂3式61点、細別時期不明312点）、加曾利E式2点である。遺物は住居中心部に集中して出土している。覆土上部に出土量が多くみられ、床面付近では勝坂3式（9期）の遺物が主体を占める。第47図1の浅鉢（勝坂3式、9c期）は炉直上より逆位に出土しており、断面（第35図）をみると、炉が埋没する以前にこの位置に存在していたことが分かる。また、本遺物はSI162J堅穴住居の炉体土器（浅鉢）に文様・形状が近似する。

34点を図示した。1は勝坂3式（9c期）の浅鉢で底の粘土板部分を欠くのみで、ほぼ完形に近い。口縁端部は肥厚してほぼ直立する。口縁部には幅広で扁平な隆帯による満巻文と弧状文が連結した文様が4単位、S字状文が1単位みられる。内外面の一部に赤彩痕が残り、内外面全面が赤彩されていた可能性がある。外面には煤が付着し、器面が部分的に剥落する。2は勝坂3式（9c期）の深鉢で口縁部～底部である。口唇部は平坦で、やや内折する。口縁部は無文で内湾する。頸部に無文の隆帯が巡り、胴部には0段多条の縦文RLが施文される。底部付近は縦文を磨消して無文とする。外面は被熱により器面が荒れ、内面は底部付近に煮焦げが付着する。3は勝坂3式（9c期）の深鉢口縁部～胴部片である。口唇部は平坦でやや内折し、満巻状の突起が1単位残存しており、対面に一部突起基部が残存していることから、2単位であったものと考えられる。口縁部は無文地に満巻状の突起から垂下する縦位の隆帯による連結鎖状文、直立部分と内湾部分の境に巡る交互刺突による波状隆帯。胴部との境に巡る連結鎖状文がみられる。4は勝坂3式（9a期）の深鉢で胴部～底部である。胴部に0段多条の縦文RLが施文され、底部付近では磨消され無文となる。内面に煮焦げが付着する。5は勝坂3式（9a期）の大型の深鉢胴部である。パネル文崩れで、刻みのある隆帯により三角や四角状に区画される。隆帯脇には沈線が沿う。区内には粗雑で太い沈線による斜位集合沈線・交互刺突文・三叉文や円形刺突文が施される。縦位隆帯の上方では円形となって小突起状を呈する。胴下部では間隔の粗い縦位の撚糸文RLが施文される。6は阿玉台Ⅱ式（7a期）の深鉢口縁部片で、細い隆帯による区画文と半截竹管内側による2条1組の押引文が認められる。7は勝坂2式（7a期）の深鉢で胴上部片である。上方側面に三角押文の施された2条の隆帯が上下に並び三角状の区画を成す。区内には半截竹管内面による縦位集合沈線が施される。三角状の隆帯頂点には粘土紐による小突起が一つ付く。内外面ともに摩耗する。8は勝坂2式（8a期）の深鉢台状底部片で、縦位の平行沈線や半截竹管によるキャタピラ文が残存し、パネル文を構成しているとみられる。9・10は勝坂2式（8b期）の浅鉢で、調整や胎土が近似することから同一個体と考えられる。9は胴部片で、半截竹管による刻みのある隆帯とそれに沿う沈線による楕円区画文内に、半截竹管外側による縦位の集合沈線がみられ、区画下端以下は無文である。10は底部片で、幅の広い無文である。11は勝坂3式（9a期）の深鉢で、側面の一部に刻みのある環状突起部分である。12は勝坂3式（9a期）の深鉢胴部片で、半截竹管による横位と縦位の刻みのある太い隆帯と沈線による三叉文が施文される。13は勝坂3式（9a期）の深鉢胴部片で、幅広の刻みのある隆帯が並列する。14は勝坂3式（9b期）多喜窪タイプ土器の口縁端部の内折部分。扁平な隆帯と沈線により弧状の文様が描かれる。15～18は勝坂3式（9b期）の深鉢胴部片である。15は眼鏡状突起部分である。突起上には、ヘラ先状工具先端による刺突と刻み、円形の沈線が施文される。16は細かく刻まれた横位や満巻状の隆帯とそれに沿う沈線、沈線による三叉文がみられる。17は刻みのある波状の隆帯とそれに沿う沈線、波状部内側に縦位沈線文、沈線間に三角押文・横位の刻み、胴下部を画す隆帯上とその下部に縦文RLが施文される。18は0段多条の縦文RLが施文された地文に、厚い粘土紐による上方を向く蛇体の頭部

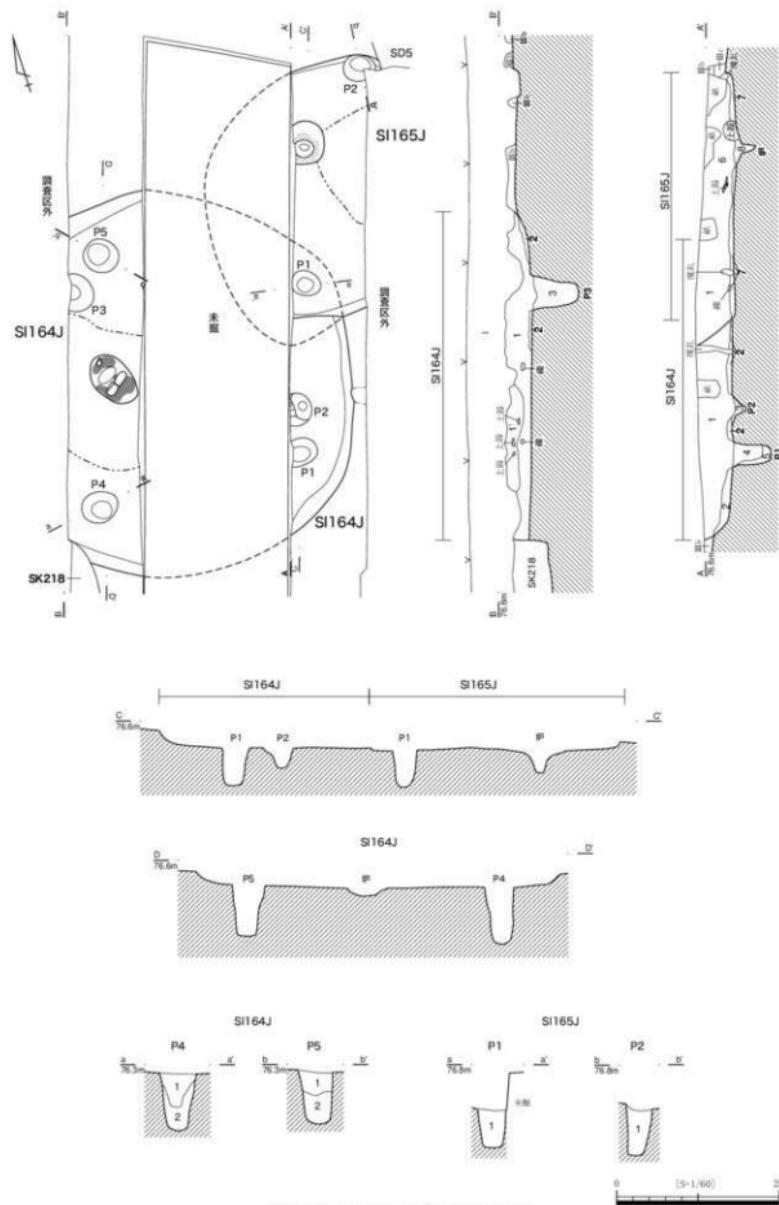
が付けられている。頭部の中央には交互刺突と綾杉状刺突が、側面には沈線が施される。**19**は勝坂3式（9c期）の深鉢口縁部～胴部で、平坦で肥厚する口唇部に小突起がみられる。突起から連結鎖状文隆帯が垂下しており、無文地である。胴部は刻みのある隆帯と太い沈線による満巻文がみられる。**20**は勝坂3式（9c期）の深鉢の口唇部に付く大型把手部分である。幅広で厚い粘土紐を巻き、中央に沈線を施することで、蛇体頭部を表現している。**21**は勝坂3式（9c期）多喜窪タイプの深鉢口縁部片である。刺突と綾杉状刺突のある隆帯がみられ、隆帯脇は沈線が沿う。**22**は勝坂3式（9c期）の深鉢で胴部片である。隆帯による縱位の連結鎖状文と刻みをもつ幅広の縱位の隆帯が無文地に間隔を空けて施される。**23**は勝坂3式（9c期）と思われる深鉢胴部片である。沈線によって縁取られた幅広で低平な半肉彫状の隆帯は波状の頂部部分とみられ、隆帶上には貝の背圧痕文が施される。**24**は勝坂式の深鉢底部片で、縦文RLが施される。また、器面外面は被熱による荒れが著しい。**25**は勝坂式の小型鉢または浅鉢で口縁部付近～底部片である。内湾する口縁部で、口唇部は直立するか。全面無文である。**26**は勝坂式の浅鉢で口縁部～肩部片である。口縁部はやや外傾し、肩部で屈曲する。口縁部は無文でやや幅が広く、一部に波状部がみられる。肩部には横位の沈線が1条巡らされ、直下には細い半截竹管による連続刺突文のある隆帯が施される。内面には赤彩文の痕跡とみられる波状の痕跡が残る。**27**は加曾利E1式（10c期）の深鉢口縁部片で、やや突出する満巻文、隆帯による区画内に縱位平行沈線を充填している。頭部は無文である。**28**は加曾利E2式（11c1期）の深鉢で口縁部片である。連弧文系土器。口縁端部に2条の横位沈線が巡り、その下部に2条の平行沈線により連弧文が2段に施される。地文に撚糸文Lがみられる。外面に煤が付着する。**29**は土製円盤で、勝坂式土器の無文の胴部片を利用している。平面形状はほぼ正円形を呈する。側縁は打ち欠きされ、研磨はみられない。**30**も土製円盤で、勝坂式土器の胴部片を利用している。平面形状はほぼ正円形を呈する。側縁は打ち欠きされ、研磨はみられない。文様は撚糸文Lが施される。

石器は4点を図示した。**31**は幅広の縱長剥片を素材とした扇状を呈するホルンフェルスのスクレイバー。三辺に刃部が作り出され、下端部の刃部のみ表裏に入念な調整が施されている。**32**は砂岩の石錐。両側縁に調整を施し若干抉りを入れている。上下両端には連続した剥離と潰れがみられることからスクレイバーの可能性もある。**33**は基部を一部欠損した短冊形の打製石斧。**34**は砂岩の短冊形打製石斧。基部と胴部両側縁に潰れがみられる。

**時期** 床面付近の出土遺物から、勝坂3式期（9c期）と考えられる。

#### SI164J・SI165J住居出土石器

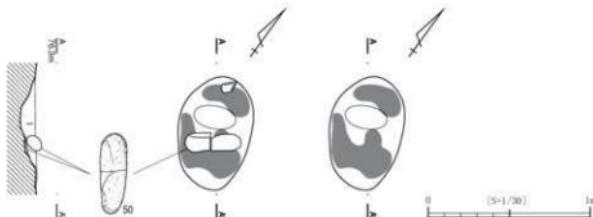
重複部分の出土位置からSI164JとSI165Jの遺物として明確に分けられなかった石器12点（打製石斧10点、剥片2点）をSI164J・SI165J住居出土遺物として報告する。3点を図示した。**1**は頁岩の短冊形打製石斧。全体に若干風化している。**2**は刃部が尖る砂岩の打製石斧。基部から刃部の周縁に潰れがみられる。**3**は砂岩の楕形打製石斧。胴部両側縁に潰れがみられる。



第33図 SI164J・SI165J 住居実測図

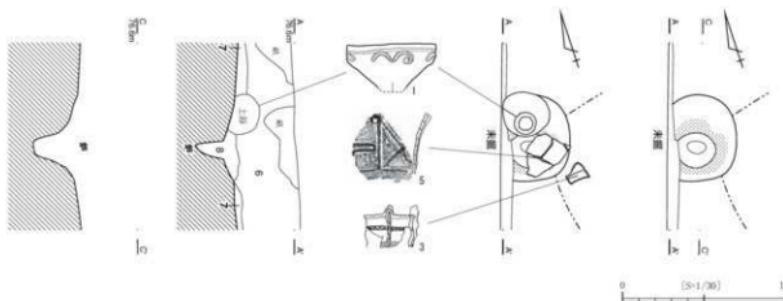
SI164J		
1	10W3/3	暗褐色土
1'	10W4/6	褐色土
2	10W4/3	「」ない黄褐色土
3	10W4/4	褐色土
4	10W3/3	暗褐色土
5	10W3/3	暗褐色土
P1		
1	10W3/2	黒褐色土
2	10W4/4	暗褐色土
P2		
1	10W3/3	暗褐色土
2	10W2/1	黒褐色土

SI165J		
6	10W3/3	暗褐色土
7	10W4/4	褐色土
8	10W4/4	褐色土
P1		
1	10W3/3	暗褐色土
P2		
1	10W3/3	暗褐色土

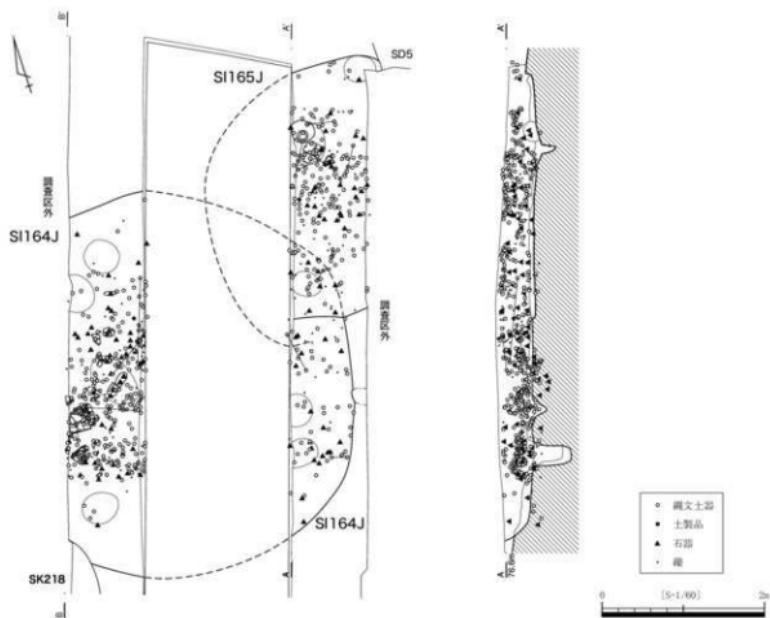


SI164J 仰視		
1	10W2/2	黒褐色土

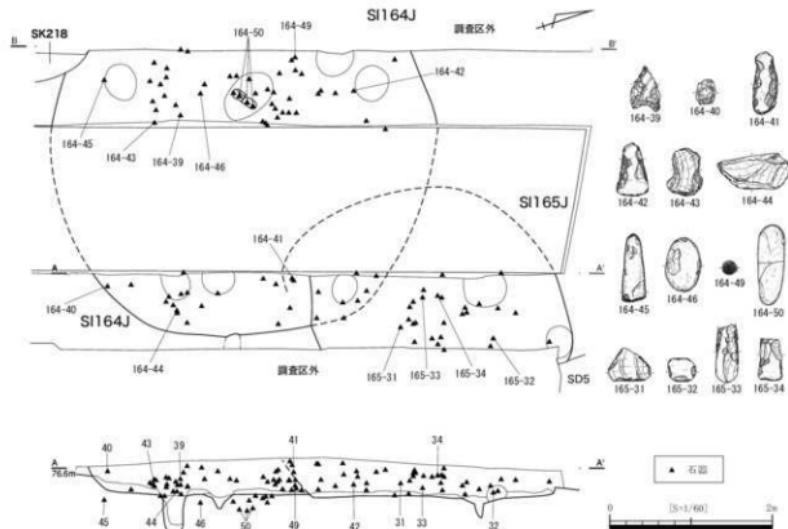
第34図 SI164J 住居炉実測図



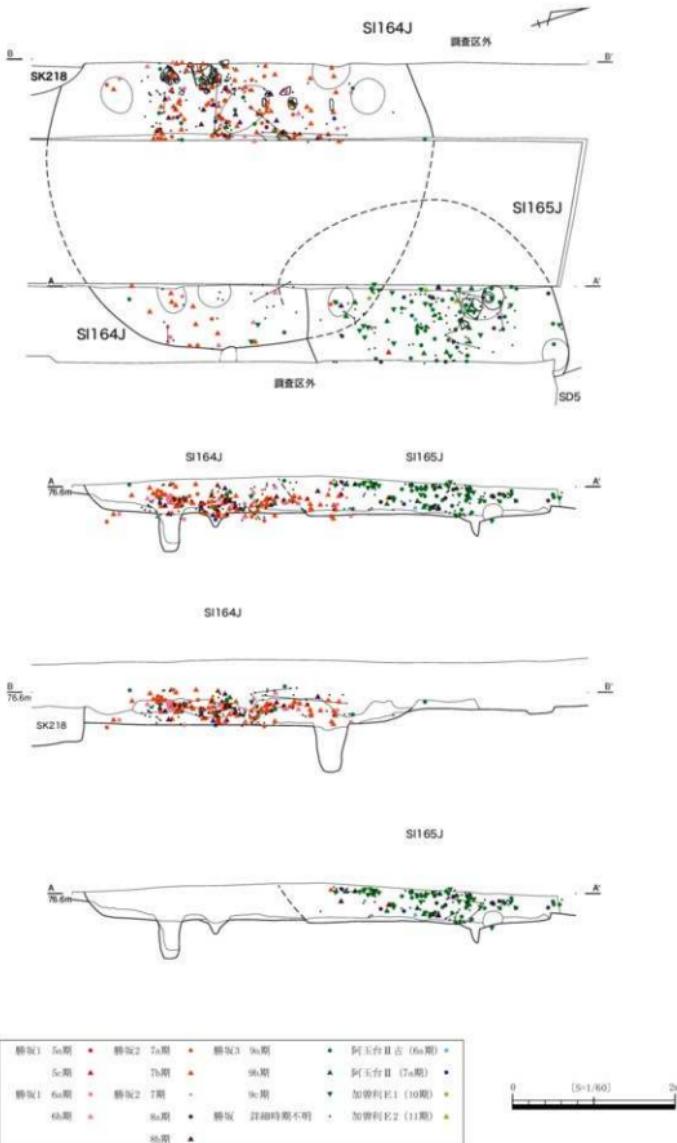
第35図 SI165J 住居炉実測図



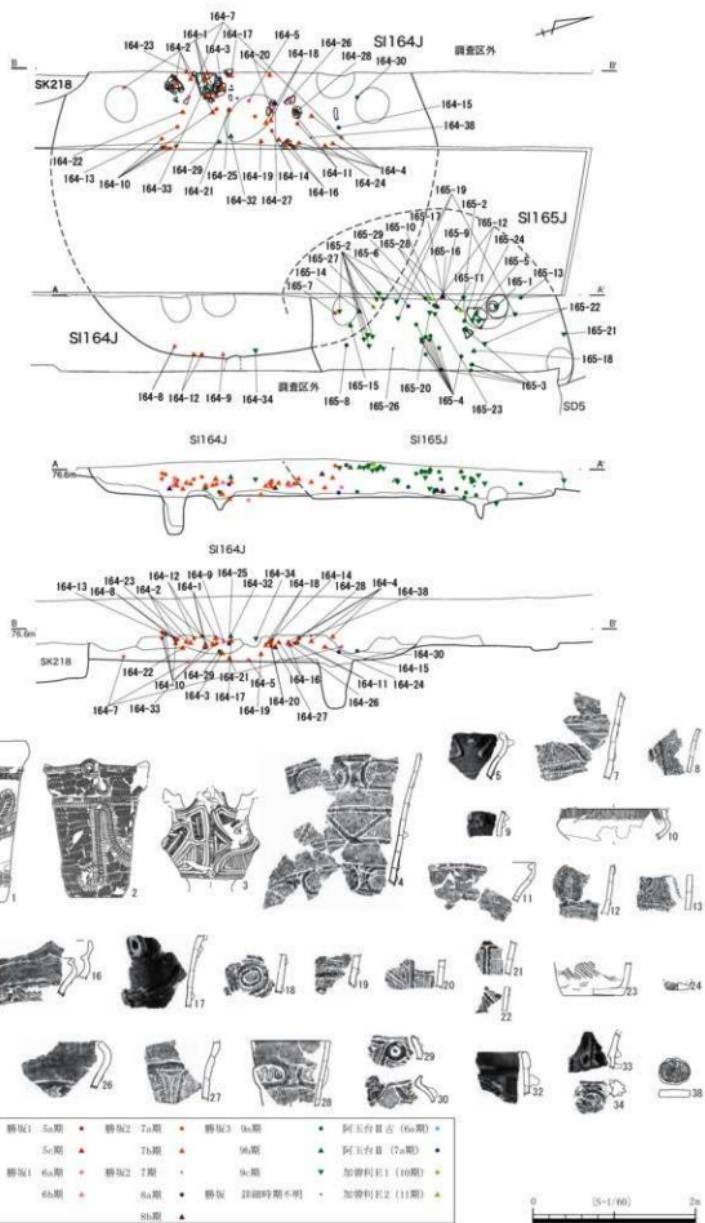
第36図 SI164J・SI165J 住居遺物分布図



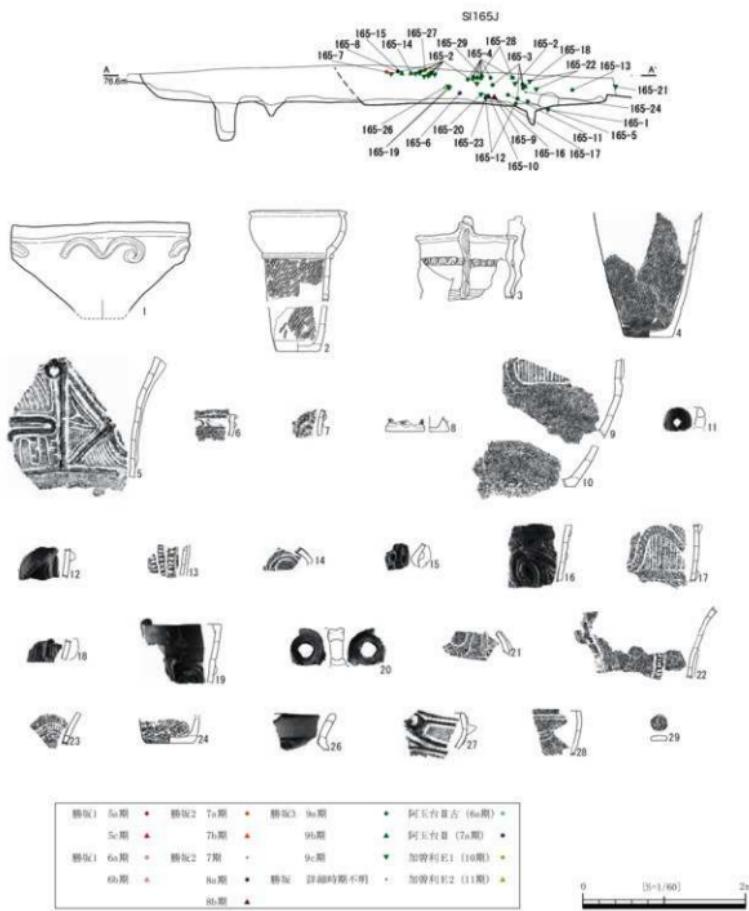
第37図 SI164J・SI165J 住居器分布図



第38図 SI164J・SI165J住居器分布図

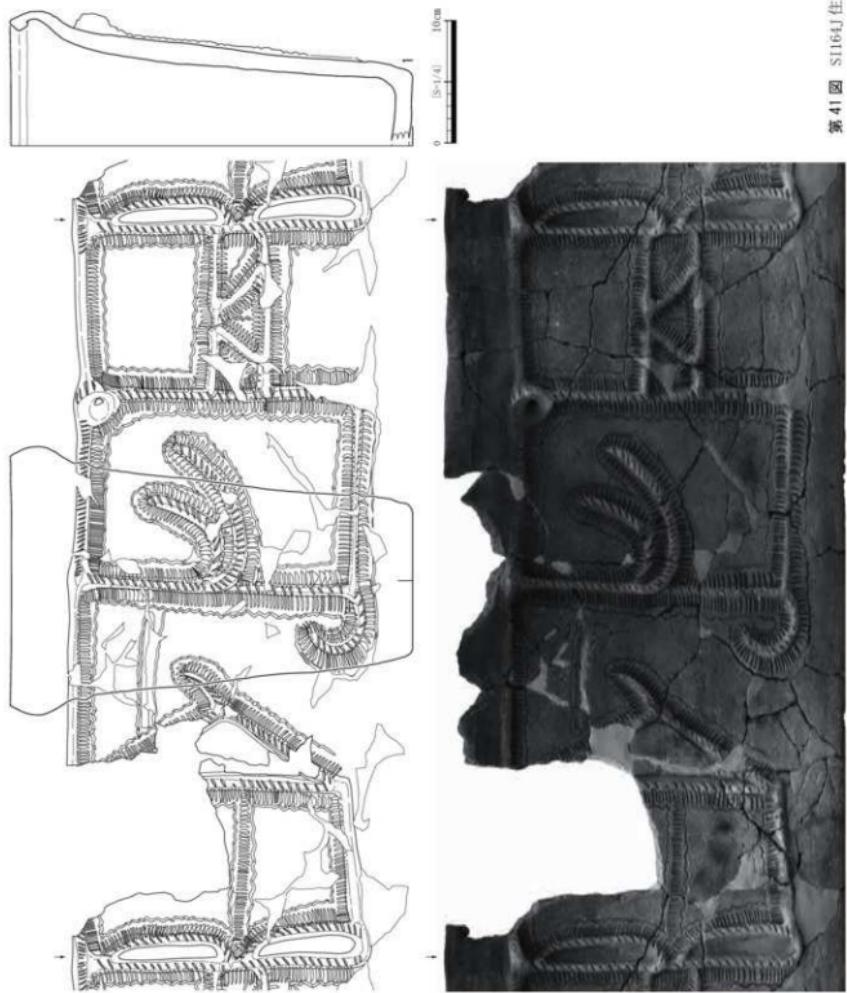


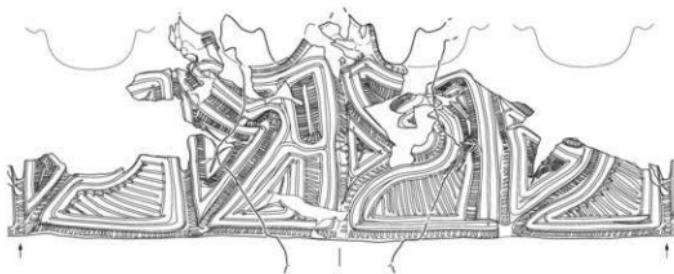
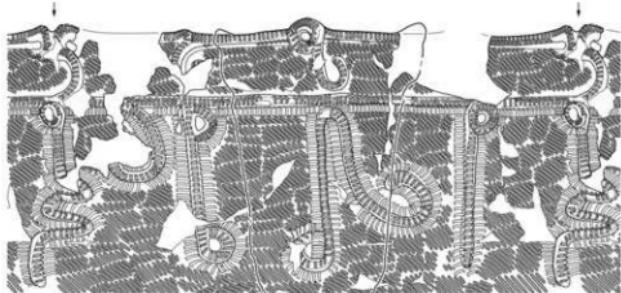
第39図 SI164J・SI165J 住居掲載土器分布図



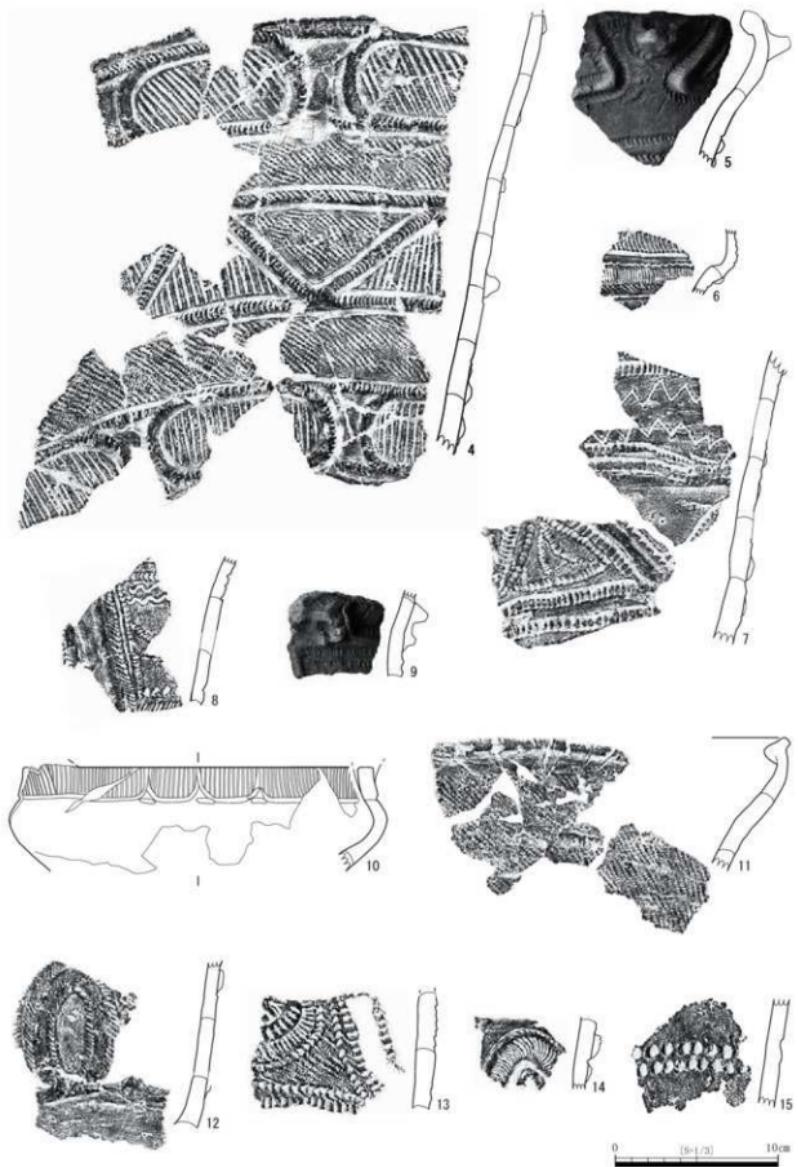
第40図 SI165J 住居掲載土器分布図

第41圖 S11641生活出土植物夾制圖(1)

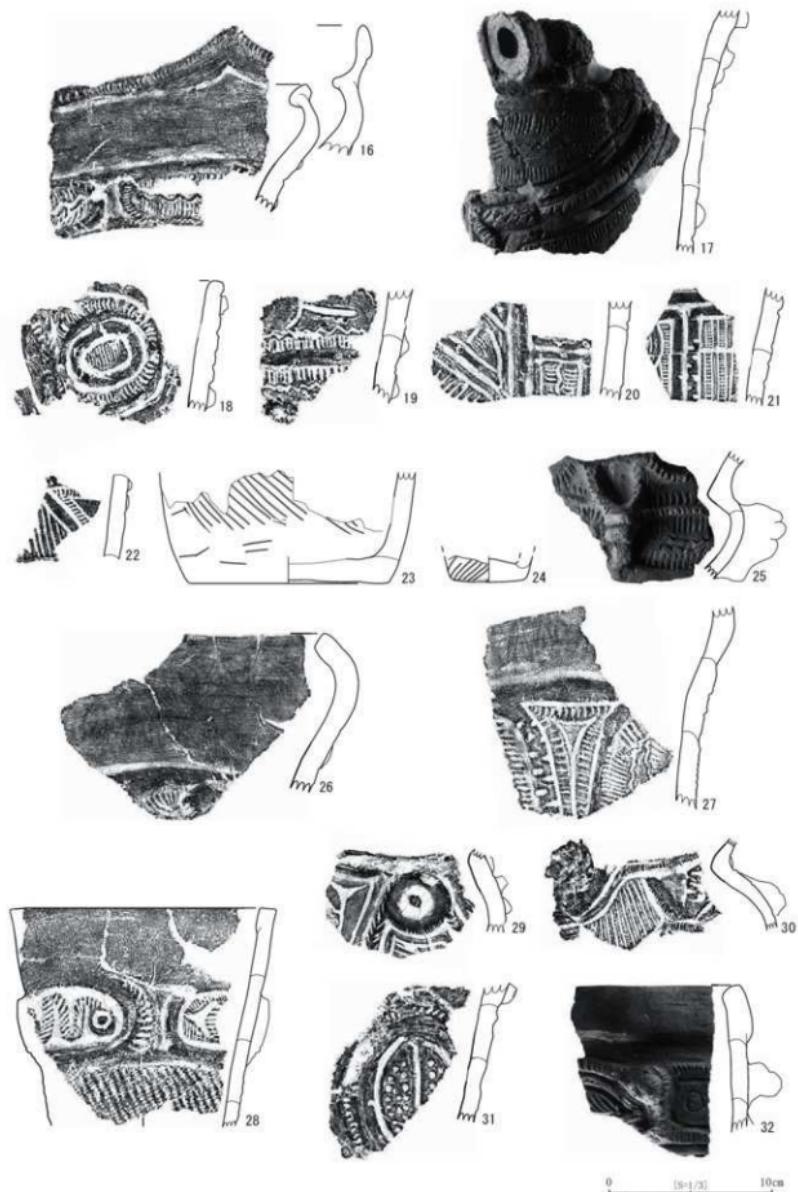




第42図 SI164J 住居出土遺物実測図 (2)



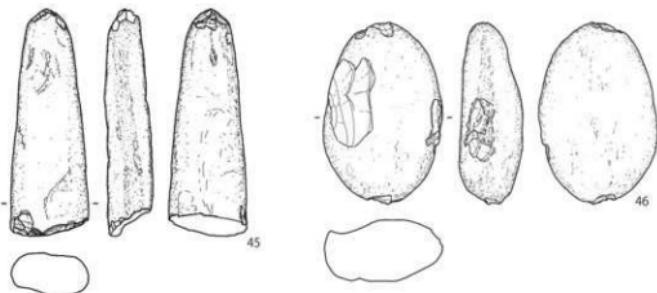
第43図 SI164J 住居出土遺物実測図（3）



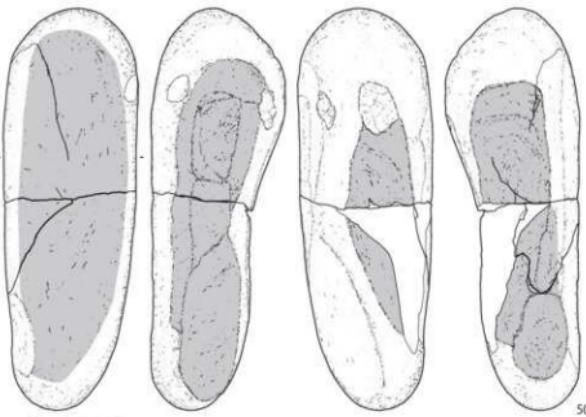
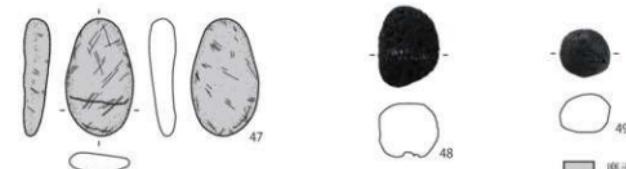
第44図 SI164J 住居出土遺物実測図 (4)



第45図 SI164J 住居出土遺物実測図 (5)



0 [5-1/2] 10cm



0 [5-1/2] 10cm

第46図 SI164J 住居出土遺物実測図 (6)

第12表 SI164]住居土器観察表(1)

辨認番号	出土位置	時期	器形・文様の特徴	胎土	色調	焼成	備考	
41-1 20-1-1	覆土下部	勝坂2 (新地平) 7b期	口縁部に内凹口縁、底面に円形突起と三字印文。底面に刻みのある降帯による8字字。J字状の側面文とそこから引くキャビラ文字。波状式縁。一部に方形凸面と三字印文。	長石。石英。シルト岩粒。砂粒。小石。赤褐色系。	外: 暗色。暗褐色。内: 小い黄褐色。	良		
42-2 21-1-2	覆土下部	勝坂2 (新地平) 7b期	口縁部に内凹口縁、底面に円形突起と三字印文。底面に刻みのある降帯による8字字。J字状の側面文とそこから引くキャビラ文字。波状式縁。一部に方形凸面と三字印文。	長石。石英。砂粒。小石。赤褐色系。	外: 暗色。暗褐色。内: 小い黄褐色。	良		
42-3 21-1-3	覆土下部	勝坂2 (新地平) 7b期	口縁部は刻みのある降帯と接着部の沈痕により凹面。小刻みで底面に円形突起2個。底面に刻みのある降帯と接着部の半周部による蓮華文。側面降帯は一部で突出して小突起状となる。	長石。石英。角閃石。砂粒。	外: 暗色。暗褐色。内: 小い黄褐色。	良		
43-4 22-1-4	覆土上部	勝坂2 (新地平) 7b期	深体 口縁部 側面 底面	刻みと爪形文のある降帯による蓮華円区文と蓋三字印文。蓮華円区降帯の一部間に彌字。半軽竹管による側面文。底面内に半軽竹管による蓮華文。側面降帯はJ字状。	長石。石英。シルト岩粒。砂粒。小石。	外: ぶい黄褐色。暗褐色。内: ぶい黄褐色。赤褐色。	良	
43-5 22-1-5	覆土下部	勝坂1 (新地平) 6a期	深体 口縁部 側面 底面	内側に口縁部に降帯とそれに沿う三角印文による蓮華と、側面の区画。次第に充てんする充てん部無文。側面降帯との間に三角印文の伴う降帯が広がる。	長石。石英。角閃石。砂粒。	外: ぶい赤褐色。暗褐色。	良	
43-6 22-1-6	覆土一括	勝坂1 (新地平) 6a期	小型深体 口縁部 側面 底面	キャビラ文字。三字印文。波状式縁。刻みのある降帯とその下に沿う三角印文。波状式縁。	長石。石英。砂粒。	外: 赤褐色。暗褐色。内: 赤褐色。暗褐色。	良	
43-7 22-1-7	覆土下部 二枚 直通上	勝坂1 (新地平) 6a期	深体 口縁部 側面 底面	降帯による蓮華三字印文。降帯間にキャビラ文字。三角印文。波状式縁。	長石。石英。砂粒。	外: ぶい黄褐色。暗褐色。内: ぶい黄褐色。暗褐色。	良	
43-8 22-1-8	覆土上部	勝坂1 (新地平) 6a期	深体 口縁部 側面 底面	降帯による区画内に三角印文。波状式縁。角印文。刻文。	長石。石英。砂粒。	内外: ぶい黄褐色。暗褐色。	良	
43-9 22-1-9	覆土上部	勝坂1 (新地平) 6b期	深体 口縁部 側面 底面	粘土結付による円形突起。降帯とそれに沿うキャビラ文字による蓮華三字印文。波状式縁。	長石。石英。砂粒。	外: 赤褐色。内: ぶい黄褐色。暗褐色。	良	
43-10 22-1-10	覆土上部	勝坂2 (新地平) 7a期	深体 口縁部 側面 底面	直立肥厚する口縁部に半軽竹管による集合泥文。一面に三字文状となる虎模様による切込み。口縁部無文。	長石。石英。雲母。砂粒。赤褐色系。	外: ぶい赤褐色。内: ぶい黄褐色。暗褐色。	良	
43-11 22-1-11	覆土下部	勝坂2 (新地平) 7a期	深体 口縁部 側面 底面	口縁部は内側へ折り返す。口縁部内面。地文に彌文。Rc. 地文。	長石。石英。シルト岩粒。砂粒。小石。赤褐色系。	内外: 暗色	良	
43-12 22-1-12	覆土上部	勝坂2 (新地平) 7a期	勝坂帶に三角印文。波状式縁	長石。石英。砂粒。	外: 暗色。内: 黒褐色	良	内面に青黒け付着	
43-13 22-1-13	覆土上部	勝坂2 (新地平) 7a期	深体 口縁部 側面 底面	刻みのある降帯間にキャビラ文字。三字印文。地文に彌文。Rc. 地文。勝坂一部削除	長石。石英。角閃石。砂粒。小石。赤褐色系。	外: ぶい褐色。暗褐色。	良	
43-14 22-1-14	覆土上部	勝坂2 (新地平) 7a期	深体 口縁部 側面 底面	半軽竹管内面による連続爪形文と側面に彌文による虎模様。内側化やや墨脱無文の降帯	長石。シルト岩粒。砂粒。小石。赤褐色系。	外: ぶい黄褐色。内: ぶい黄褐色。暗褐色。	良	
43-15 22-1-15	瓦玉台II 下部	勝坂2 (新地平) 7a期	深体 口縁部 側面 底面	2段の爪形文	長石。石英。角閃石。雲母。砂粒。小石。	外: 明赤褐色。内: 黑褐色	良	
44-16 22-1-16	覆土上部	勝坂2 (新地平) 7b期	深体 口縁部 側面 底面	口縁部に連続爪形文。三字印文。口縁部内面充てん。底面に刻みのある降帯による格子状区画。區画内にキャビラ文字。波状式縁。	長石。石英。角閃石。砂粒。小石。赤褐色系。	外: 暗色。暗褐色。内: ぶい褐色。暗褐色。	良	
44-17 22-1-17	覆土上部	勝坂2 (新地平) 7b期	深体 口縁部 側面 底面	刻みのある爪形の突起。刻み。半軽竹管内面による連続爪形文のある廣底の降帯と半軽竹管内面の平行弦線による区画。区画内にキャビラ文字。波状式縁。	長石。石英。チャート。砂粒。小石。赤褐色系。	外: 黒褐色。ぶい褐色。暗褐色。内: ぶい褐色。暗褐色。	良	
44-18 22-1-18	覆土下部	勝坂2 (新地平) 7b期	深体 口縁部 側面 底面	半軽竹管内面による連続爪形文のある降帯とそれに沿う虎模様。剖み目	長石。石英。チャート。砂粒。小石。	外: 明赤褐色。暗褐色。内: 黑褐色	良	
44-19 22-1-19	覆土下部	勝坂2 (新地平) 7b期	深体 口縁部 側面 底面	勝坂帶にキャビラ文字。波状式縁。三字印文。	長石。石英。角閃石。砂粒。小石。赤褐色系。	外: ぶい褐色。暗褐色。内: ぶい黄褐色。	良	
44-20 22-1-20	覆土下部	勝坂2 (新地平) 7b期	深体 口縁部 側面 底面	バネル文。勝坂とそれに沿う平行式縁。区画内に爪形文。	長石。石英。角閃石。砂粒。小石。	外: 暗色。暗褐色。内: 黑褐色。暗褐色。	良	
44-21 22-1-21	覆土下部	勝坂2 (新地平) 7b期	深体 口縁部 側面 底面	バネル文。半軽竹管内面による降帯。一部に交差刻痕。区画内に彌文	長石。石英。砂粒。小石。赤褐色系。	外: 暗灰色。ぶい褐色。内: ぶい褐色。	良	
44-22 22-1-22	覆土下部	勝坂2 (新地平) 7b期	深体 口縁部 側面 底面	バネル文。半軽竹管内面による半隆起状の降帯による区画。区画内に彌文。剖み目	長石。石英。角閃石。砂粒。小石。赤褐色系。	外: ぶい赤褐色。内: ぶい褐色。	良	
44-23 23-1-23	覆土上部	勝坂2 (新地平) 7b期	深体 口縁部 側面 底面	剖み目。下部に半軽竹管による斜行式縁	長石。石英。チャート。砂粒。小石。	外: ぶい赤褐色。暗褐色。内: ぶい褐色。暗褐色。黒色。	良	内面剥離による器皿面

第13表 SI164J住居土器観察表(2)

辨認番号 図版番号	出土 位置	時期	器形 部位 断面	器形・文様の特徴	胎土	色調	焼成	備考
44 - 24 23 - 1 - 24	屢土 下部	勝坂2 7b期	小型土器 底部 1/3	斜肩沈縫	長石、石英、砂粒、赤褐色粒	外：にい、黒褐色、褐灰色、灰黃褐色 内：にい、黒褐色	良	
44 - 25 23 - 1 - 25	屢土 下部	勝坂2 8a期	深鉢 口縁部 破片	削りのある縦帶による区画。区画内にキャタピラ文と半円形乳突による蓮華文。粘土組三段による実底。口縁の突起痕	長石、石英、角閃石、雲母、砂粒、赤褐色粒	外：明赤褐色、灰褐色 内：灰褐色	良	
44 - 26 23 - 1 - 26	屢土 下部	勝坂2 8b期	深鉢 口縁部～ 底部 破片	口縁部～ 内側無文口縁。底上部は低い陰彫筋にキャタピラ文	長石、石英、角閃石、砂粒、小石、シート岩粒、赤褐色	外：暗褐色、明赤褐色、褐灰色 内：暗褐色	良	
44 - 27 23 - 1 - 27	屢土 下部	勝坂2 新地平 8b期	深鉢 口縁部 底部 破片	口縁部無文。底部は半軽竹筋による交差刻実のある陰彫筋にキャタピラ文。底付柱頭、三文文	長石、石英、角閃石、雲母、シート岩粒、砂粒、小石、赤褐色粒	外：暗褐色、暗褐色、褐灰色、にい、赤褐色 内：暗褐色、褐灰色	良	
44 - 28 23 - 1 - 28	屢土 下部	勝坂3 新地平 9a期	深鉢 口縁部 底部 破片	勝坂による勝田川面文。区画内に三叉支を交叉に施して描かれた約10cmの直線文、円形文、陰彫筋に細い字形の竹筋による刻実。0段多量重ね、RL	長石、石英、角閃石、雲母、砂粒、小石	外：明赤褐色、黒褐色、にい、赤褐色 内：黒褐色、にい、赤褐色	良	
44 - 29 23 - 1 - 29	屢土 下部	勝坂3 新地平 9a期	深鉢 口縁部 底部 破片	勝坂刻実文と側面に半軽竹管内面による連続爪形文のあら降帶による円形文。半軽竹管内面を使った並行沈跡で構成された区画内に刻された三叉文が集合体	長石、石英、砂粒、赤褐色粒	外：黒褐色、にい、赤褐色 内：灰褐色、黒褐色	良	30と同一個体か
44 - 30 23 - 1 - 30	屢土 下部	勝坂3 新地平 9a期	深鉢 口縁部 底部 破片	勝坂による円形の実底から半軽竹管内面による連続爪形文のあら降帶とそれに沿う沈跡。交叉刻実による波状文	長石、石英、角閃石、砂粒、小石	外：暗赤褐色、黒褐色 内：暗褐色	良	29と同じ個体か
44 - 31 23 - 1 - 31	屢土 一括	勝坂3 新地平 9a期	深鉢 底部 破片	削りのある縦帶、S文線、円形刻文	長石、石英、チャコット、砂粒、小石、赤褐色粒	外：にい、黒褐色 内：褐灰色、にい、黒褐色 内：暗褐色	良	
44 - 32 23 - 1 - 32	屢土 上部	勝坂3 新地平 9b期	深鉢 口縁部 底部 破片	口縁部無文。底部は削りのある降帶による区画。浅巻状の小実底。区画内に斜列集落式S縫、円形沈跡	長石、石英、角閃石、砂粒、赤褐色粒	外：にい、黒褐色、褐灰色、にい、黒褐色、褐灰色 内：にい、黒褐色、褐灰色	良	
45 - 33 23 - 1 - 33	屢土 下部	勝坂3 新地平 9b期	深鉢 口縁部 底部 破片	三角形突起から垂下する降帶による降帶式突起。削りのみの底降帶。底部集合体	長石、石英、砂粒	外：明赤褐色、褐褐色 内：暗色、黒褐色	良	
45 - 34 23 - 1 - 34	屢土 上部	勝坂3 新地平 9c期	深鉢 口縁部 底部 破片	降帶による屈曲文。地文織文 RL	長石、石英、角閃石、雲母、砂粒	外：暗褐色、黒褐色 内：黒褐色	良	
45 - 35 23 - 1 - 35	屢土 一括	勝坂3 新地平 9c期	深鉢 口縁部 底部 破片	半軽竹管内面を使った半肉型リ状の屈曲文	長石、石英、角閃石、砂粒	外：暗褐色 内：内外：暗褐色	良	
45 - 36 23 - 1 - 36	屢土 一括	加曾利E2 新地平 11c期	深鉢 底部 破片	2本の並行沈線による蓮弧文、地文織文 RL	長石、石英、砂粒	外：赤褐色、暗赤褐色 内：赤褐色	良	
45 - 37 23 - 1 - 37	屢土 一括	加曾利E4 新地平 13期	深鉢 底部 破片	指捺による凹線と地文織文 RL、崩落織文	長石、石英、砂粒	外：暗褐色 内：黒褐色、にい、黒褐色	良	

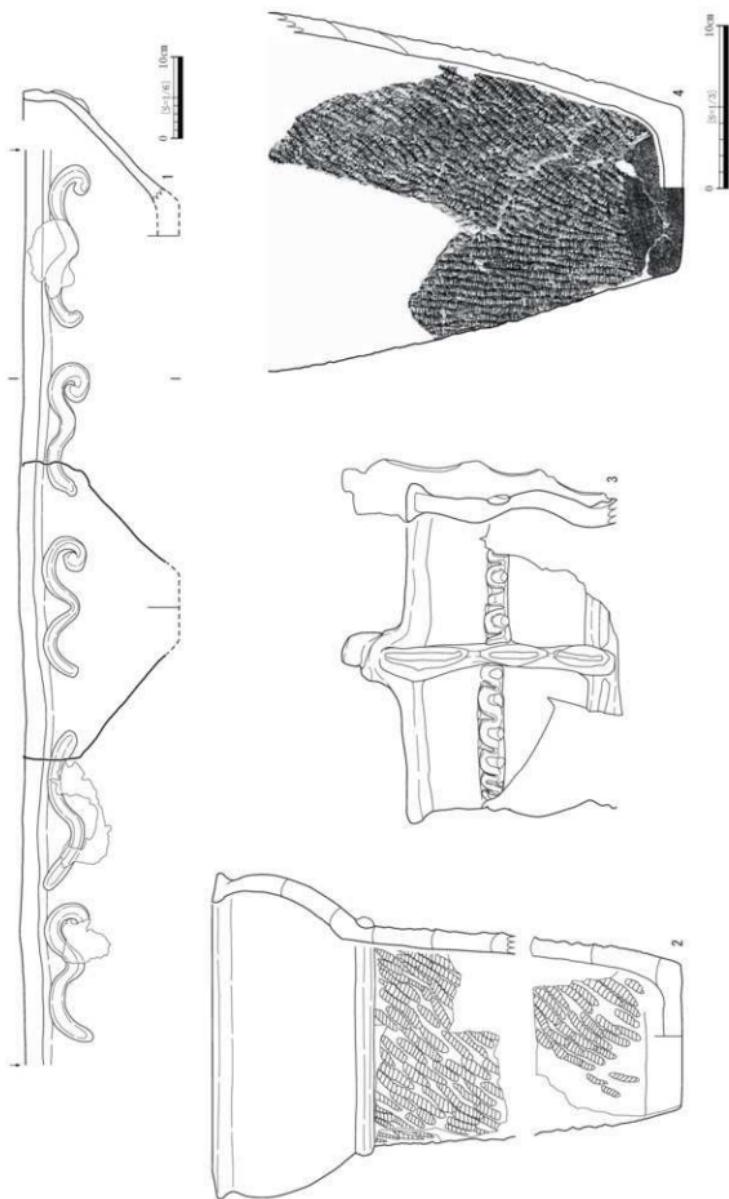
第14表 SI164J住居土製品観察表

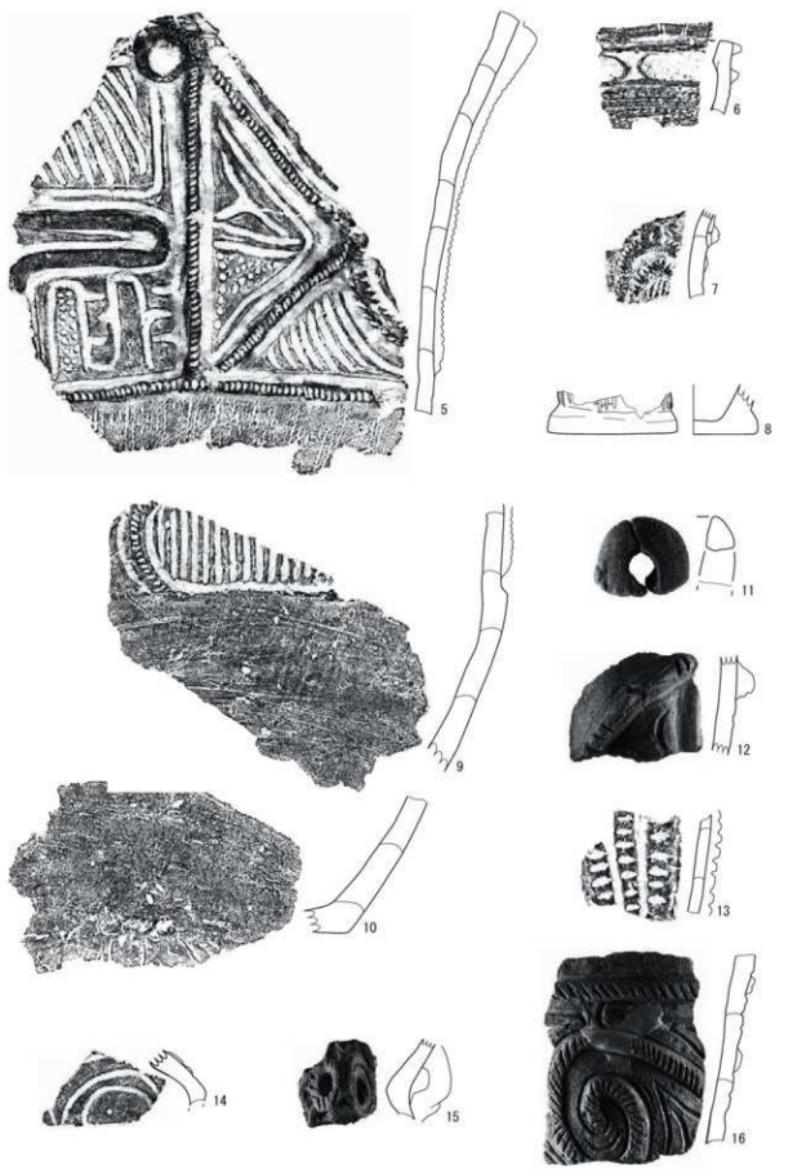
辨認番号 図版番号	出土 位置	時期	器種	法量(cm)			打ち欠き 底部片	胎土	色調	焼成	備考	
				最大長	最大幅	最大厚						
45 - 38 23 - 1 - 38	屢土 上部	勝坂式	土製円盤	6.3	5.3	1.5	49.5	打ち欠き 底部片	長石、石英、角閃石、砂粒、シルト鉱物	外：褐色 内：にい、黄褐色、褐灰色	良	

第15表 SI164J住居石器観察表

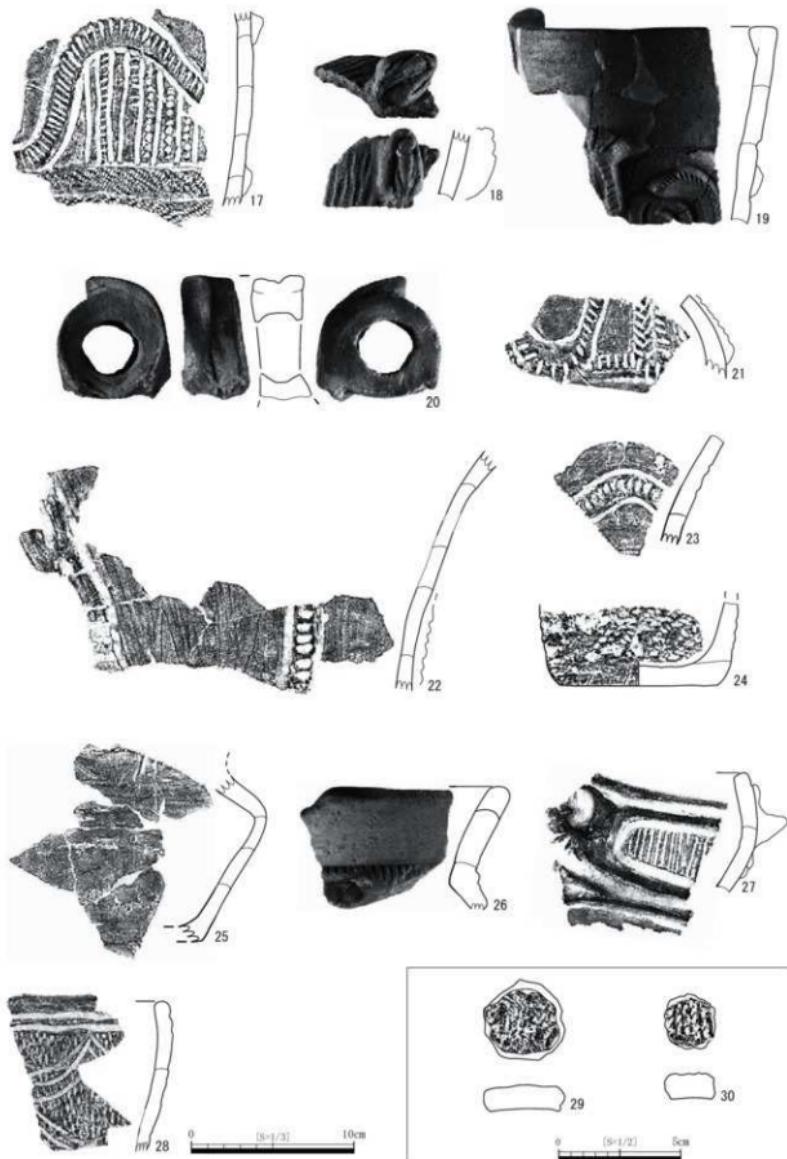
辨認番号 図版番号	種類	石質	出土位置	法量(cm)			重量(g)	備考
				最大長	最大幅	最大厚		
45 - 39 23 - 1 - 39	石頭	黒曜石	屢土上部	2.8	1.9	0.8	2.8	田基無茎根
45 - 40 23 - 1 - 40	ピエス、エスキュー	黒曜石	屢土上部	1.5	1.2	0.4	0.7	
45 - 41 23 - 1 - 41	打製石斧	砂岩	屢土一括	12.9	5.1	2.2	165.8	
45 - 42 23 - 1 - 42	打製石斧	砂岩	屢土下部	11.1	6.5	2.1	145.4	圓形
45 - 43 23 - 1 - 43	打製石斧	砂岩	屢土下部	9.9	7.4	2.9	213.5	
45 - 44 24 - 1 - 44	礫器	砂岩	屢土下部	7.5	15.4	4.6	606.7	
46 - 45 24 - 1 - 45	敲石	凝灰岩	屢土下部	14.1	4.9	3.0	290.5	光は磨耗表面
46 - 46 24 - 1 - 46	敲石	砂岩	屢土下部	11.2	7.5	4.0	439.9	裏面に被磨痕あり
46 - 47 24 - 1 - 47	磨石	砂岩	屢土一括	7.3	4.2	1.6	71.5	砾石として使用された可能性あり
46 - 48 24 - 1 - 48	磨石	安山岩	屢土下部	5.1	3.8	3.5	64.4	
46 - 49 24 - 1 - 49	磨石	チャコット	屢土下部	3.1	3.0	2.4	31.8	
46 - 50 24 - 1 - 50	硃石	閃長岩	伊	33.0	11.2	11.0	(5450.0)	砾石として二次利用

第47図 S1165.1生居出土遺物実測図(1)

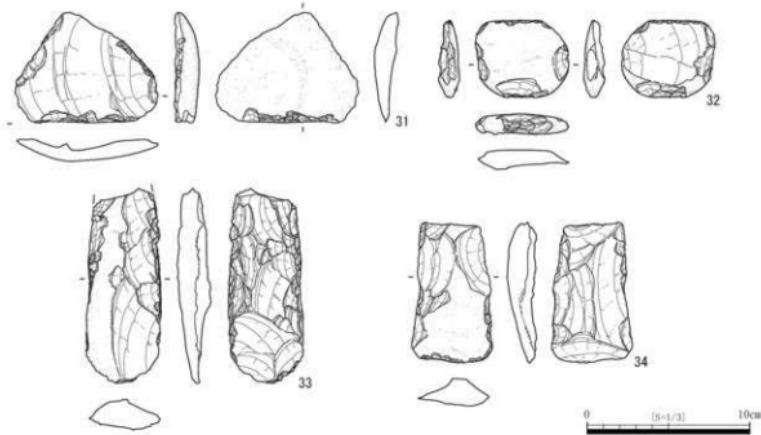




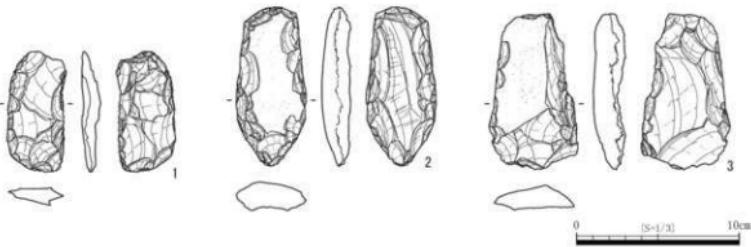
第48図 SI165J 住居出土遺物実測図 (2)



第49図 SI165J 住居出土遺物実測図 (3)



第50図 SI165J 住居出土遺物実測図(4)



第51図 SI164J・SI165J 住居出土遺物実測図

第16表 SI165J 住居土器観察表(1)

検査番号 回収番号	出土位置	時期	器形 部付 残存率	器形・文様の特徴	胎土	色調	焼成	備考
47-1 25-1-1	床面 直上	腰坂3 (新地平) 9c 斧	浅鉢 口縁部～ 頭部 全周	口縁部肥厚、口縁部に残存による波状文と弧状文の複合文4単位、5字状文1単位	長石、石英、チャート、 シリト岩粒、砂粒、 赤褐色粒	外：にじい黄褐色、 橙色、純白色 内：褐色、にじい褐色、 黒褐色	R	底の土 板欠失。 内面裏 部に赤 色(全面 赤色か)、 外邊縁付 着、一部 器底剥落
47-2 25-1-2	覆土 上部	腰坂3 (新地平) 9c 斧	深鉢 口縁部～ 頭部 1/2強 頭部1/3 頭部1/2弱	口縁部内折、無文の内溝する口縁、頭部に隆起、頭部に0段多条の纏文 RL。底部付近纏文を削消して無文	長石、石英、角閃石、 磁石、シリト岩粒、 チャート、砂粒、小石、 赤褐色粒	外：にじい褐色、 純白色、黒褐色 内：褐色、にじい赤褐色、 赤褐色、黒褐色	R	外面被熱 により器 底剥落。 内面裏部 付近に著 赤化付着
47-3 25-1-3	覆土 下部	腰坂3 (新地平) 9c 斧	深鉢 口縁部～ 頭部 破片	渦巻状突起が1単位残存(刃面に一部基部残存)、頭・ 横幅の複合文陣帶、互瓦列文による波状陣帶	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石、赤褐色粒	外：褐色、 にじい黄褐色 内：にじい赤褐色	R	
47-4 25-1-4	覆土 上部	腰坂3 (新地平) 9a 斧	深鉢 頭上部～ 頭部 1/8 頭下部 1/4 頭部全周	頭部に0段多条の纏文 RL	長石、石英、角閃石、 チャート、シリト岩粒、 砂粒、小石、赤褐色粒	外：褐色、 にじい黄褐色、純灰色 内：にじい褐色、 灰褐色、黒褐色	R	内面に著 赤化付着

第17表 SI165J住居土器観察表(2)

辨団番号 固版番号	出土 位置	時期	器形 部位 残存率	器形・文様の特徴	胎土	色調	紙成	備考
48 - 5 26 - 1 - 5	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 崩部 破片	刻みのある障壁による区画と円形の小突起、区画内に斜面集合沈鉢・円形刻文変・交叉刻文変・三叉文。崩下部に撲糸文L	長石、石英、角閃石、砂粒、チャート、シルト岩粒、砂粒。赤褐色	外：にぶい黄褐色、灰褐色。黒褐色 内：にぶい黄褐色、褐色	良	
48 - 6 26 - 1 - 6	覆土 II (新地平) 7a期	深鉢 口縁部 破片	後側による区画文。半軽竹管内側による2条1組の押引文	長石、石英、角閃石、雲母、砂粒。	外：に、い、葉緑色、 灰褐色、黒褐色、胡桃色	良		
48 - 7 26 - 1 - 7	覆土 上部	勝坂2 (新地平) 7a期	深鉢 崩部 破片	三角押文による障壁による三角形区画。区画内半軽竹管による集合沈鉢、粘土紐による小突起	長石、石英、角閃石、砂粒。	外：浅黄色、褐色 内：にぶい黄褐色	良	内部器皿 摩耗
48 - 8 26 - 1 - 8	覆土 上部	勝坂2 (新地平) 8a期	深鉢 崩部 破片	台形底部。半軽竹管による横位平行沈鉢と、半軽竹管によるキャビラ文によるバブル文。	長石、石英、角閃石、砂粒。	外：明褐色、黒褐色 内：にぶい黄褐色、黑褐色	良	
48 - 9 26 - 1 - 9	覆土 下部	勝坂2 (新地平) 8b期	深鉢 崩部 破片	半軽竹管による刻みのある障壁による規円柱文、区画内半軽竹管外側による規面集合沈鉢。区画下部以下は幅広い底部の無文部	長石、石英、角閃石、砂粒、小石	外：褐色 内：に、い、葉緑色、 灰褐色、黒褐色、胡桃色	良	10と同一 個体
48 - 10 26 - 1 - 10	覆土 上部 ~下 三	勝坂2 (新地平) 8b期	浅鉢 底部 破片	無文	長石、石英、角閃石、砂粒、小石	外：褐色、 内：にぶい黄褐色、 黑褐色	良	9と同一 個体
48 - 11 26 - 1 - 11	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 口縁部 破片	一部に刻みのある障壁式起	長石、石英、角閃石、雲母、砂粒	外：に、い、葉緑色 内：にぶい黄褐色	良	
48 - 12 26 - 1 - 12	床面 上部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 崩部 破片	半軽竹管による横位・縦位の刻みのある障壁。沈線による三叉文	長石、石英、角閃石、雲母、砂粒	外：赤褐色、 内：に、い、葉緑色	良	
48 - 13 26 - 1 - 13	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 崩部 破片	崩のあとの段位の捺印障壁	長石、石英、角閃石、雲母、砂粒、小石	外：明褐色、 黒褐色 内：黒褐色	良	
48 - 14 26 - 1 - 14	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 口縁部 破片	扁平な障壁と沈線文	長石、石英、雲母、シルト岩粒、チャート、砂粒。	外：褐色 内：褐色、 に、い、葉緑色、胡桃色	良	
48 - 15 26 - 1 - 15	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 崩部 破片	版状沈突式。刻突・刻突・沈線	長石、石英、チャート、砂粒。赤褐色	外：褐色 内：褐色、 に、い、葉緑色	良	
48 - 16 26 - 1 - 16	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 崩部 破片	別みのある障壁とそれに沿う沈線。沈線による三叉文	長石、石英、角閃石、砂粒、小石	外：に、い、葉緑色、 黒褐色	良	
49 - 17 26 - 1 - 17	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 崩部 破片	刻みのある障壁とそれに沿う沈線。沈線内側に擬似沈線文。沈線間に折み、三角押文変文。崩下部に面す障壁上とその下部に撲糸文RL。	長石、石英、角閃石、雲母、シルト岩粒。砂粒。小石	外：明褐色、 黒褐色 内：明褐色、 に、い、葉緑色	良	
49 - 18 26 - 1 - 18	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9b期	深鉢 崩部 破片	沈線式刻突・交叉刻突・沈線のある粘土紐による粘土紐による障壁と沈線による渋巻文。地文に8段多目字の攝文丸	長石、石英、角閃石、チャート、砂粒。赤褐色	外：に、い、葉緑色、 黒褐色 内：褐色	良	
49 - 19 26 - 1 - 19	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縁部～ 崩部 破片	小突起1単位残存。小突起下に連絡線状障壁帶下。半軽竹管による刻みのある障壁と沈線による渋巻文。	長石、石英、チャート、角閃石、砂粒、小石	外：に、い、葉緑色、 黒褐色 内：黒褐色	良	
49 - 20 27 - 1 - 20	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縁部 破片	幅広の粘土紐による蛇体部頸もチーフの大型把手	長石、石英、角閃石、雲母、砂粒。赤褐色	外：褐色、 内：褐色	良	
49 - 21 27 - 1 - 21	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縁部 破片	刻突と建設式刻突のある障壁と沈線	長石、石英、シルト岩粒、砂粒。赤褐色	外：明褐色、 に、い、葉緑色、 褐色 内：に、い、葉緑色、 褐色	良	
49 - 22 27 - 1 - 22	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 崩部 破片	無文地に連絡線状障壁。刻みのある障壁	長石、石英、雲母、砂粒。	外：に、い、葉緑色 内：黒褐色	良	
49 - 23 27 - 1 - 23	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9c期	深鉢 崩部 破片	沈線によって繋がられた幅広平な波状障壁上に貝の置き文	長石、石英、シルト岩粒、砂粒。赤褐色	外：褐色、 に、い、葉緑色 内：黒褐色、褐色、 褐色	良	
49 - 24 27 - 1 - 24	覆土 下部	勝坂式	深鉢 底部 破片	無文 RL	長石、石英、角閃石、砂粒、小石	外：褐色、明褐色 内：黒褐色	良	外面部 剥落
49 - 25 27 - 1 - 25	覆土 一括	小型鉢土 はたは 浅鉢	口縁部～ 崩部 破片	口縁部内窓、無文	長石、石英、角閃石、砂粒。赤褐色	外：明褐色、褐色、 に、い、葉緑色 内：黒褐色	良	
49 - 26 27 - 1 - 26	覆土 上部	勝坂式	口縁部～ 崩部 破片	無文の波状口縁。翼部に縫い半軽竹管による刻突のある障壁	長石、石英、シルト岩粒、砂粒。赤褐色	外：褐色 内：明褐色、 灰褐色、褐色	良	内面口縁 部に波状 の赤彩文 跡跡合
49 - 27 27 - 1 - 27	覆土 一括	深鉢 (新地平) 10c期	口縁部 破片	やや突出する渋巻文と障壁による区画内に屋根沈鉢誤、部は無文部	長石、石英、砂粒。	外：に、い、葉緑色、 褐色	良	
49 - 28 27 - 1 - 28	覆土 上部	加賀利E2 (新地平) 11c1期	深鉢 口縁部 破片	淡乳白色、口縁部に模倣沈鉢による2条の平行沈線による2段の連弧文。地文に撲糸文 L	長石、石英、角閃石、砂粒。赤褐色	外：に、い、葉緑色、 褐色	良	外面部 剥落

第18表 SI165J 住居土製品観察表

辨認番号 回収番号	出土 位置	時期	種類	法量 (cm)			重さ (g)	形跡加工	文様	治土	色調	現成	備考
				最大長	最大幅	最大厚							
49-29 27-1-29	覆土 上部	勝坂	土製円盤	3.2	3.1	1.0	12.0	打ち欠き	無文	良石、右側、 角削り、砂粒、 凹穂部	外：明赤褐色 内：黒褐色	良	
49-30 27-1-30	覆土 一括	勝坂	土製円盤	2.1	2.0	1.0	5.7	打ち欠き	地文に柳条文	良石、右側、 ノット押粒、 砂粒、赤褐色粒	外：橙色 内：黒褐色	良	

第19表 SI165J 住居石器観察表

辨認番号 回収番号	種類	石質	出土位置	法量 (cm)			重さ (g)	備考
				最大長	最大幅	最大厚		
50-31 27-1-31	スクレイバー	ホルンフェルス	覆土下部	6.8	8.9	1.6	84.3	
50-32 27-1-32	石錐	砂岩	覆土下部	4.7	5.8	1.3	46.1	スクレイバーの可能性あり
50-33 27-1-33	打製石斧	頁岩	覆土下部	(32.1)	4.7	2.1	(120.1)	短曲形、基部一部欠損
50-34 27-1-34	打製石斧	砂岩	覆土上部	8.7	5.0	1.8	79.0	短曲形

第20表 SI164J・SI165J 住居石器観察表

辨認番号 回収番号	種類	石質	出土位置	法量 (cm)			重さ (g)	備考
				最大長	最大幅	最大厚		
51-1 27-2-1	打製石斧	頁岩	覆土一括	7.4	3.7	1.2	32.3	短曲形
51-2 27-2-2	打製石斧	砂岩	覆土一括	9.8	4.3	1.8	96.9	
51-3 27-2-3	打製石斧	砂岩	覆土一括	9.7	5.5	2.0	105.6	橢形

### SI166J住居（第52～61図、第21～24表、図版11～13・28～31）

**位置・確認面** 調査区北側の2区H-3・4、I-4グリッドに位置し、確認面はIII c層である。本住居中央部（最大幅1.70m）を中心に掘り下げを行った。住居西側および東側部分は調査区域外に延びるが、重複する遺構もなく遺存状態は良好である。

**規模・形態** 径約5.20mの平面形がほぼ円形の住居と考えられる。壁は40°ほどの傾きで内湾気味に立ち上がり、遺構確認面からの壁高は最大30cm（断面図IIIb層上面からは40cm）ほどである。周溝は北壁と南西壁の一部に認められ、全周はしていないようである。幅10～12cm、深さ5～7cmを測る。床面は、IV層を直床としており、炉を中心にして2.80mの範囲に硬化面が認められた。

**覆土** 3層に区分され、炭化物粒および焼土粒を混じる第1・2層の暗褐色土が大部分を占めている。炉の周囲では土器が多く包含している。

**内部施設** 住居中央西寄りに炉が設置されている。平面形が楕円形で、長軸93cm、短軸58cm、深さ5cmを測る。炉の浅い内面は被熱赤化あるいは焦げているが、東端には上端部のみが被熱赤化した長軸64cmの二段掘り小穴があり、特に中央の小穴は径40cm、深さ25cmほどで埋甕が入る大きさであることから、恐らく使用時は埋甕炉であったが住居廃棄時に埋甕を持ち去ったものと推察される。

小穴は5基（P1～5）検出され、規模・配置などからP1・2・4が主柱穴と考えられる。P1・4は径35cm、深さ70～75cmほどであり、P2は長軸70cm、短軸60cm、深さ75cmの二段掘り柱穴で建て替えの可能性がある。

**出土遺物** 繩文土器641点、土製品1点、石器64点（打製石斧20点、石皿3点、石錐1点、調整剥片石器2点、磨石2点、敲石1点、剥片35点）、礫57点の計763点が出土した。繩文土器、土製品の時期別の内訳は、諸磯b式1点、五領ヶ台式1点、阿玉台式1点、勝坂式638点（勝坂1式6点、勝坂2式66点、勝坂3式108点、細別時期不明458点）、加曾利E式1点である。遺物は住居中心部に集中してみられる。また、覆土上部

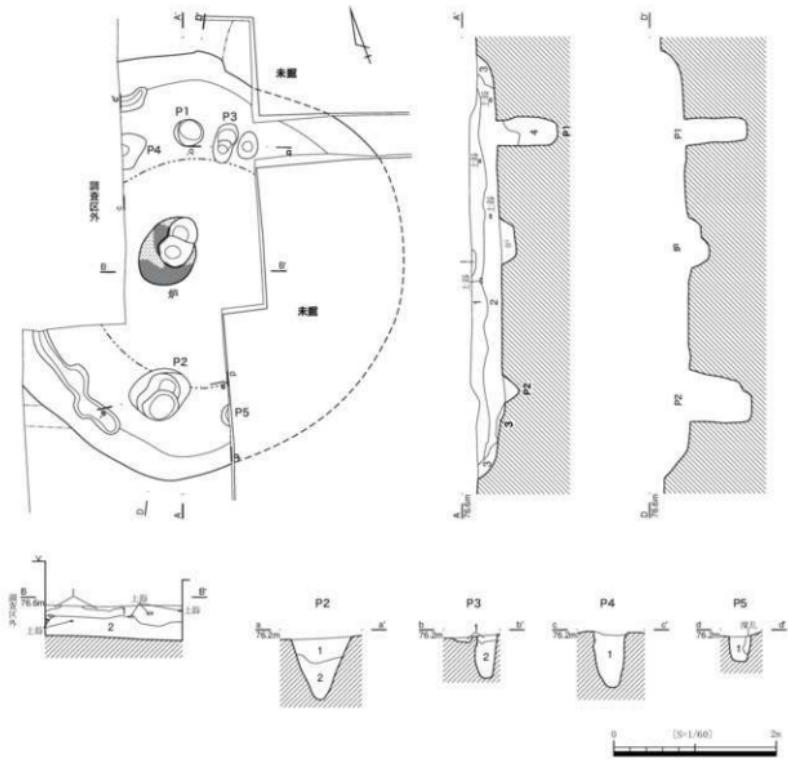
～中部に遺物が多くみられ、中でも勝坂3式（9a期）の割合が高い。床面付近ではほぼ完形のものを含む遺存状態の良い勝坂3式（9a期）の土器が潰れた状態で出土しており、炉直上からも同様に出土している。

37点を図示した。1は勝坂3式（9a期）の深鉢のほぼ完形で、口縁部は波状口縁である。文様は細かい刻みのある隆帯が蛇行するように展開し、隆帯に沿う沈線によって三角状の区画を形成する。区画内は半截竹管による縦位集合沈線や三叉文、円形文、交互刺突文がみられる。頭部以下は丁寧に磨かれた無文地で、胴部には刻みのある隆帯による4単位の弧状文とその下部に沿って波状文が施文される。2は勝坂3式（9a期）の深鉢で、円筒形土器である。口縁部や胴部は部分的に欠損するが、ほぼ完形である。口唇部は平坦で肥厚してやや内折する。胴上部では、竹管による交互刺突と刻みが施された並行する低平な隆帯により区画される。区画は縦位の集合沈線と半肉彫状満巻文、陰刻三叉文が施文される大区画2単位と、縦位集合沈線区画2単位、満巻文区画3単位によって構成される。胴下部には0段多条の縄文RLが施文される。内面の胴下部から底部にかけて被熱により部分的に剥離する。3は勝坂3式（9a期）の深鉢のほぼ完形で、円筒形土器である。口唇部はやや肥厚しており、口縁部は無文である。半截竹管内側による半隆起線によって胴上部文様帶と下部の無文部を画する。文様帶は縦位平行沈線により、大・中・小5単位の区画に分割し、区画内に対弧文、三叉文、中央に刺突のある連続方形文、S字状文などが施文される。また器面外面は被熱により荒れている。4は勝坂3式（9a期）の深鉢で円筒形土器の口縁部～胴部である。口縁部は刻みのある隆帯により2単位に区画され、口唇部上に小突起を形成する。区画内には太めの平行沈線により縦位沈線文と対弧文が交互に施文され、対弧文の一部には左右に三叉文の回みがみられる。また、対弧文の内側に縦位集合沈線が施される部分もある。胴部には縦位の撚糸文Lが施文される。内面底部と外面口縁部の付近に煮焦げが付着する。5は勝坂3式（9a期）の深鉢で口縁部～胴上部片である。口唇部は平坦でやや内折する。無文のほぼ直立する口縁部から胴上部がやや膨らむ器形で、文様帶との境には浅い沈線が巡る。胴上部には半肉彫状の低平な隆帯により弧状文や満巻文が描かれ、隆帯には刻みと半截竹管による交互刺突文が施文される。沈線による三叉文やベン先状工具による縦位の連続刺突文がみられる。6は勝坂2式（8b期）のいわゆるバケツ形の深鉢で口縁部～胴上部片である。多段楕円区画文土器。口縁部は幅の狭い無文帶で、直下に1条の沈線が巡る。口縁部以下には刻みをもつ隆帯による楕円区画文が巡られ、交互に配される。区画内には、隆帯に沿う平行沈線により縁取られ、その内側に連続爪形文と横位沈線が施文されるものと、連続爪形文と半截竹管による蓮華文と横位沈線が施文されるものとがみられる。7は諸磧b式の深鉢胴部片で、縄文を押捺した浮線文に地文は縄文RLが施文される。8は阿玉台Ia式（5a期）の深鉢口縁部片で、口縁上端でY字状となる隆帯がみられる。9は勝坂2式（7a期）の深鉢胴部片で、半截竹管による刻み、三角押文、沈線による波状文が施文される。10は勝坂2式（8a期）の深鉢口縁部～胴部片で、全面に地文として0段多条縄文RLを施文している。口縁部は内湾し、口唇部は内削ぎ状となる。口縁部と胴部の境には半截竹管による連続爪形文のある隆帯がみられる。胴部は半截竹管内側の平行沈線による区画とそれに沿うキャタピラ文、波状沈線が認められる。11は勝坂2式（8b期）の深鉢で口縁部片である。口唇部は平坦で、口縁端部はやや肥厚し無文である。2段の隆帯が巡り、上段には竹管による交互刺突文が、下段には密な刻みが施文される。内外面共に被熱により器面が荒れる。12～21は勝坂3式（9a期）の深鉢で把手と口縁部片である。12は三角に尖る眼鏡状把手の一部分。側面に沈線による三叉文と刻みが施文される。13は楕円形の大型把手。中央に楕円形の回みがみられ、その外側をなぞるように沈線が施文される。内外面の縁と内面中央の隆帯には刻みが施され、内面先端部にはベン先状工具による5条の縦位連続刺突文と両側面には沈線による三角状文がみられる。14は口唇部には刻みがみられ、口縁端部には耳形の突起が付く。突起の外面縁に刻みが施文され、中央付近に円形の回みが施される。15は円形の突起。外面の中央付近には円形の回みがみられ、その外側

をなぞるよう2条の沈線と刻みが施文される。16は内側上部に刻みのある眼鏡状突起部である。器面には精緻な磨きが認められる。17は緩やかに内湾する口縁部で、口唇部に円形突起がみられ、突起から隆帯が垂下する。口縁部の上下は突起から出た刻みのある隆帯により画され、内側は無文である。18は刻みのある隆帯による三角状突起、突起内側には三角状の窪みが認められる。突起から連鎖状隆帯が垂下し、突起の片側には沈線による三角状の開みと内側に三叉文がみられる。19は円筒形土器の口縁部片である。口縁端部は無文で肥厚する。以下はやや太く深い沈線による文様帶がみられ、刺突のある方形文、沈線による三叉文、半截竹管内側による斜位集合沈線が認められる。20は口唇部に爪形の刻みがみられ、刻みのある隆帯による渦巻状となるであろう小突起は剥離している。口唇部以下は無文で内湾する。21は沈線と刻みのある隆帯による重三角状文がみられる。沈線による区画内には爪形文と沈線による三叉文を施文している。刻みのある隆帯による区画内は半截竹管内側による縦位集合沈線が認められる。22～24は勝坂3式(9a期)の深鉢で胴部片である。22は粘土紐による人体モチーフの手の部分で、沈線により3本指を表出している。23は沈線による半肉彫形状の弧状の文様がみられる。24はC字形の連続刺突文が施文された1条の隆帯と、縦位の沈線文がみられる。25は勝坂3式(9a期)の深鉢で胴下部～底部片である。胴下部には刻みのある隆帯により楕円区画文が施文され、隆帯脇には沈線が沿う。無文の底部はやや屈折する。内面に煮焦げが付着する。26は勝坂3式(9a期)の浅鉢で口縁部～胴部片である。口唇部は内削ぎ状で口縁部はやや屈曲する。肩部に幅広い凹線が巡る。内外面共に摩耗する。27は勝坂3式(9a期)の浅鉢で肩部～胴部片である。屈曲する肩部に扁平な隆帯による波状文が施される。外面は丁寧に磨かれている。28は土錐で、勝坂式土器の胴部破片を利用している。平面形状は楕円形を呈すると思われる。側縁は打ち欠きされ、研磨はみられない。楕円の短辺に浅い切り込みがみられるが、片側が欠損するため、一箇所の確認にとどまる。撲糸文Lが施文されている。

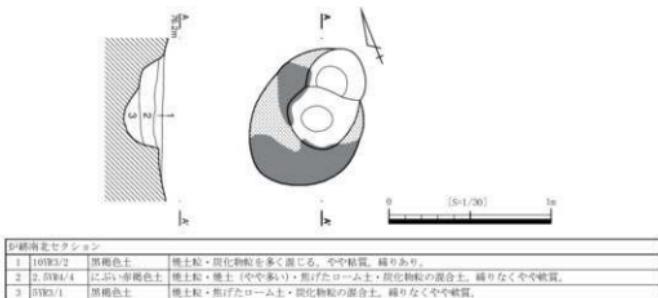
石器は9点を図示した。29は頁岩の短冊形打製石斧。刃部は非常に薄く調整は見られない。30は砂岩の短冊形打製石斧。基部から刃部の周縁に潰れと若干の磨耗がみられる。31は安山岩の短冊形打製石斧。全体に風化している。32は砂岩の短冊形打製石斧。胴部両側縁に潰れがあり左側縁の一部に磨耗がみられる。33は砂岩の横長剝片を素材とし、両側縁に緩やかに抉りを入れた打製石斧。形態としては分銅形に近い。34はホルンフェルスの石錐。全体に風化が著しい。35は全体を磨面としたチャートの磨石。36は左半分を欠損した閃綠岩の磨石。全体によく磨りこまれている。上下・右側面には敲打による剥離と潰れがみられる。全体に被熱し煤けている。37は欠損した安山岩の石皿。表面は非常によく磨りこまれ中央に向かって窪み、裏面には径1cm程の窪みが3ヶ所あり、現存する側縁部分には若干の磨りこみがみられる。

時期 床面付近の出土遺物から、勝坂3式期(9a期)と考えられる。

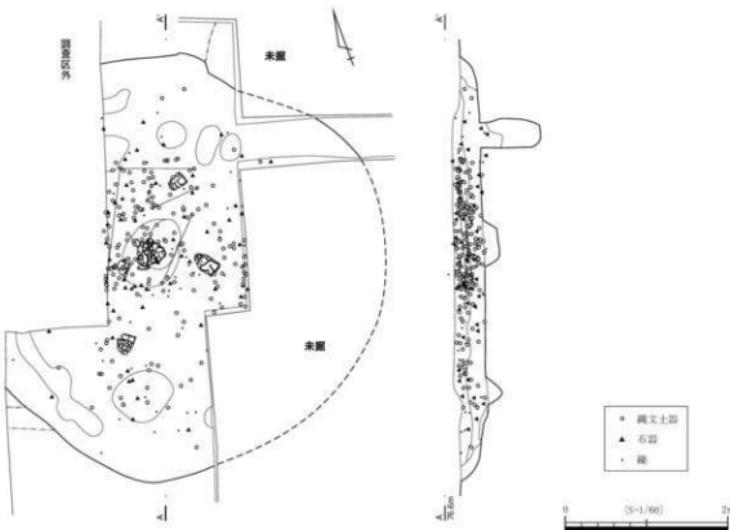


S1166J		
1	10YR3/3	暗褐色土 細かいローム粒・スコリア粒・炭化物粒を少し混じる。粘質。繊りあり。土部分を多く包含する。
2	10YR3/3	暗褐色土 ローム粒(φ 1~2 mm)・スコリア粒・礁土粒・炭化物粒をやや多く混じる。粘質。よく締まっている。
3	10YR4/6	褐色土 ローム粒・スコリア粒を僅かに混じる。粘質。繊りあり。
4	10YR3/3	暗褐色土 P1。ローム粒・汚れたローム土を多く。スコリア粒・炭化物粒を僅かに混じる。粘質。繊りあり。
P2	1	10YR3/3 暗褐色土 住居跡セクション2層と同じ。
	2	10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・汚れたローム土を多く。ロームブロック(φ 3~5 cm)を僅かに混じる。粘質。繊りなくやや軟質。
P3	1	10YR3/3 暗褐色土 住居跡セクション2層と同じ。
	2	10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・汚れたローム土を多く。スコリア粒・炭化物粒を僅かに混じる。粘質。繊りあり。
P4	1	10YR5/6 黄褐色土 ローム粒・汚れたローム土を多く混じる。粘質。やや軟質。
P5	1	10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ローム土をやや多く混じる。粘質。繊りあり。

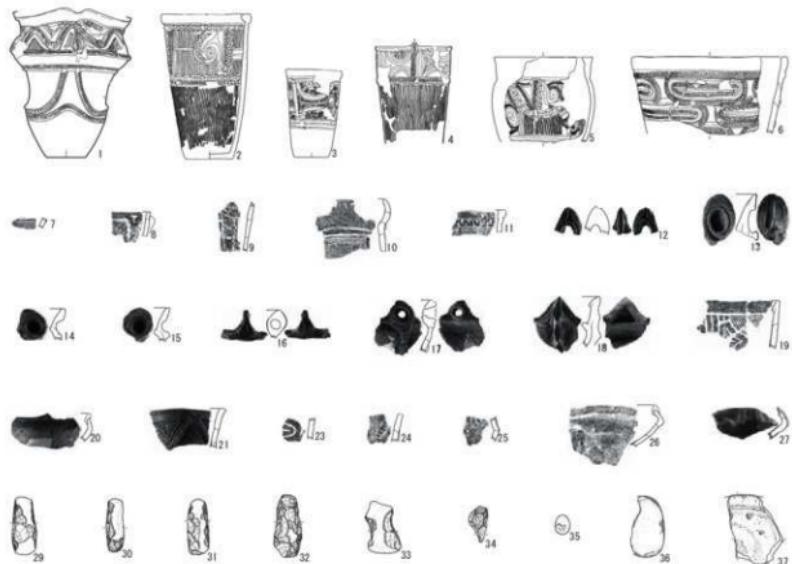
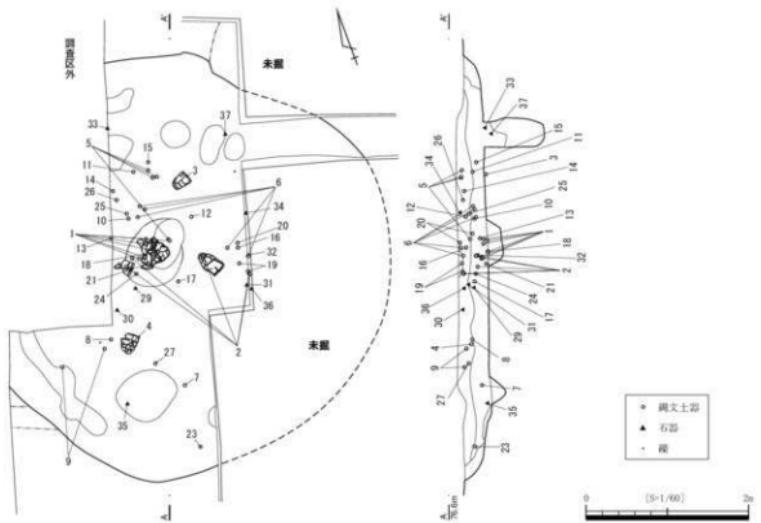
第 52 図 S1166J 住居実測図



第 53 図 SI166J 住居炉実測図

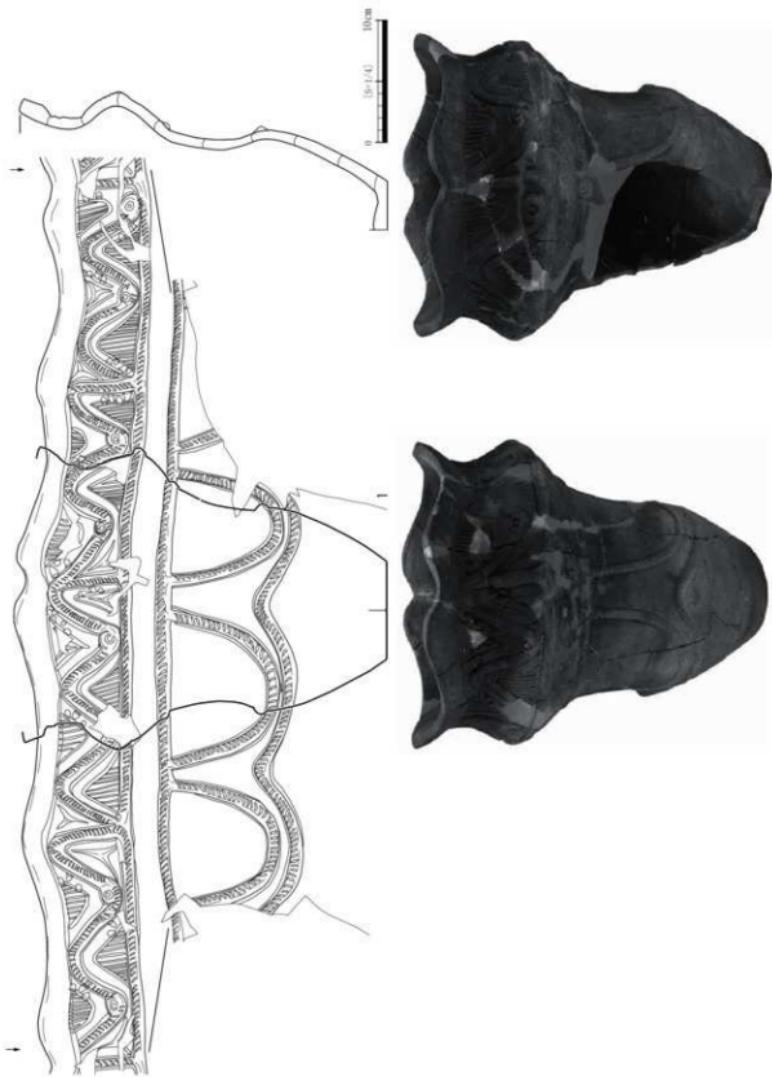


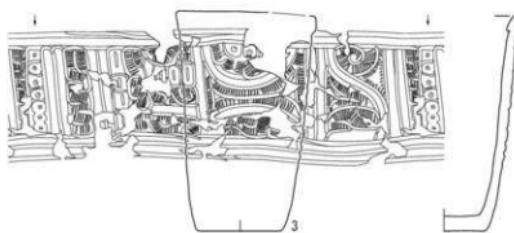
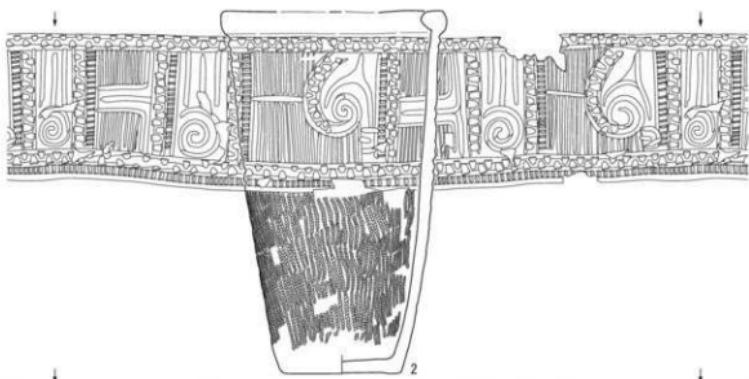
第 54 図 SI166J 住居遺物分布図



第 55 図 SI166J 住居掲載遺物分布図

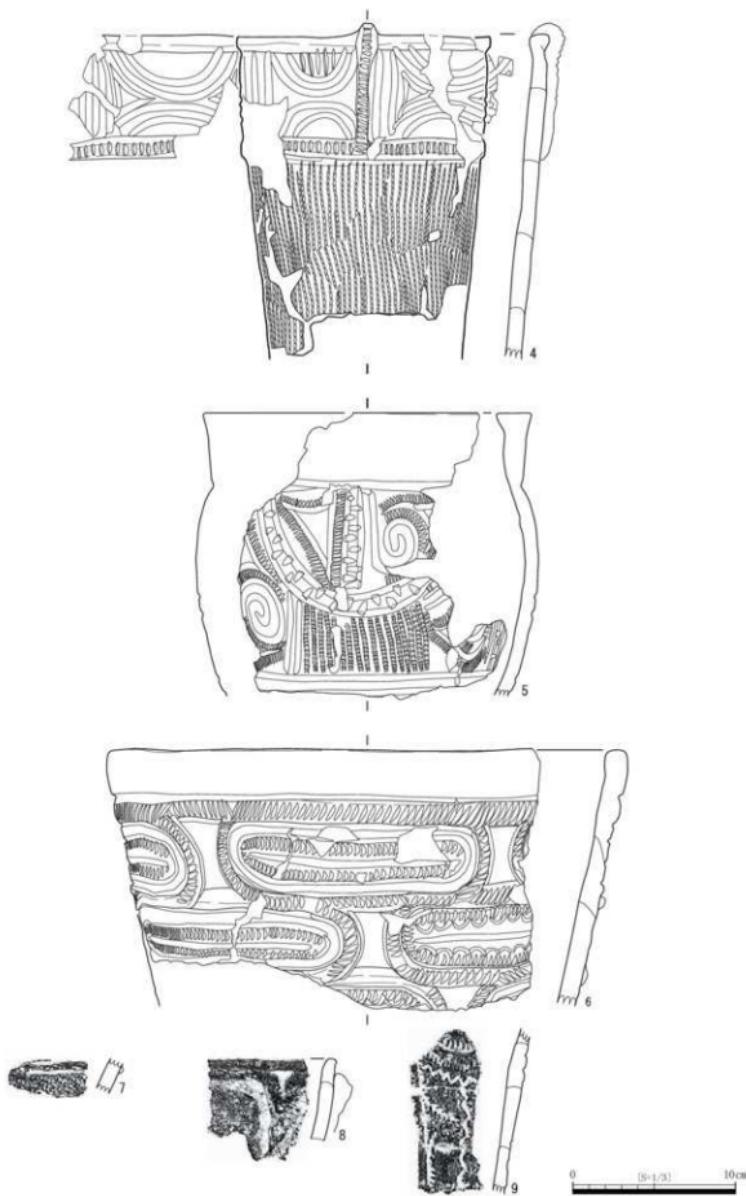
第56圖 S11661住居出土遺物素測圖（1）





0 [S-1/4] 10cm

第 57 圖 SI166J 住居出土遺物実測図 (2)



第 58 図 S1166J 住居出土遺物実測図 (3)



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24

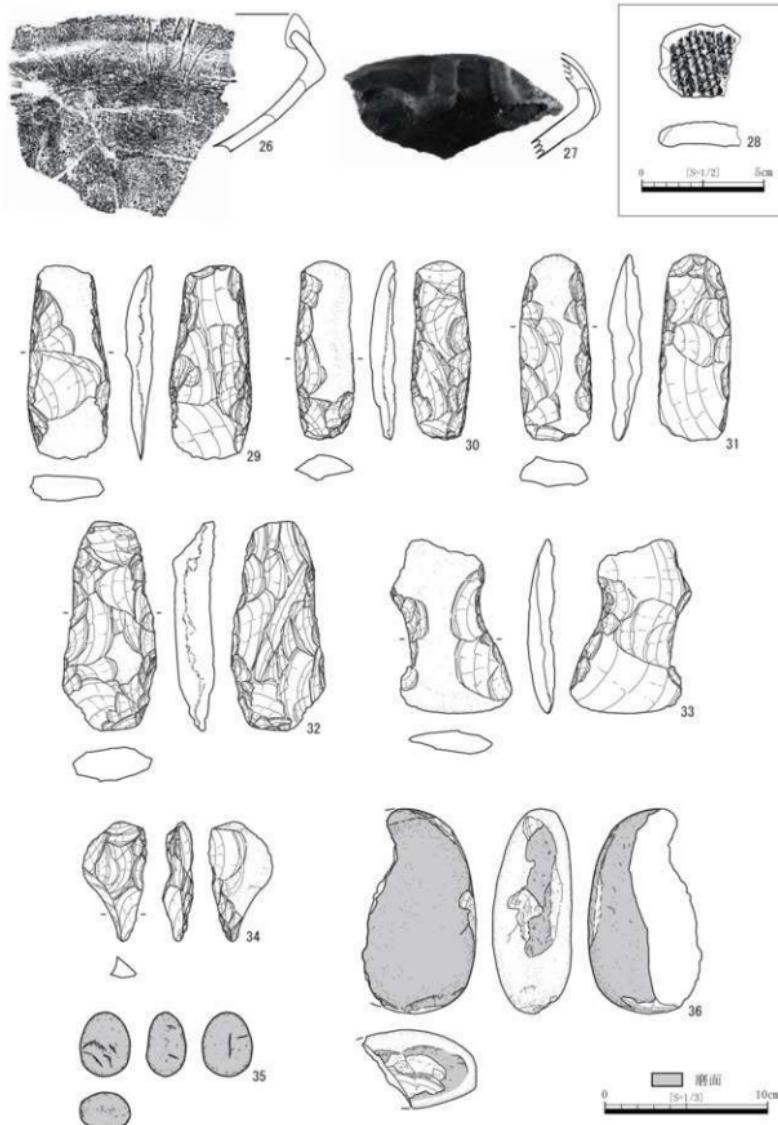


25

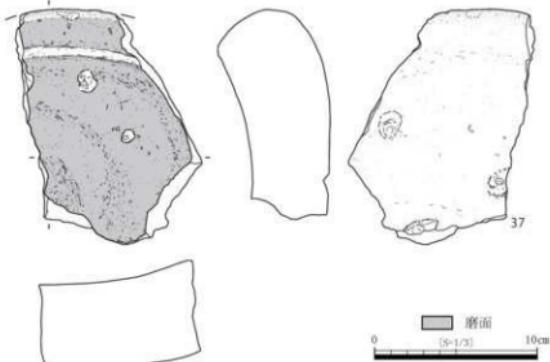
0 [S-1/2] 5cm

0 [S-1/3] 10cm

第 59 図 SI166J 住居出土遺物実測図 (4)



第 60 図 SI166J 住居出土遺物実測図 (5)



第 61 図 SI166J 居住出土遺物実測図 (6)

第 21 表 SI166J 居住土器観察表 (1)

調査番号 回収番号	出土 位置	時期	器形 部位 性質	器形・文様の特徴	胎土	色調	焼成	備考
57-1 28-1-1	床 面上	勝坂 3 (新地平) 9a 期	深鉢 ほぼ完全 断面完形	浅伏口縁、口縁部は削りする刻みのある階帶と文様による2重の区画文。区画内には半乾竹筒による階位集合文。内:三文式、円形文。斜交刻文。底部は刻みのある階位集合文。	長石、石英、霰母、砂粒	外:暗赤、ぶい黄褐色、黒褐色 内:ぶい黄褐色、暗褐色	良	
58-2 28-1-2	覆土 下部	勝坂 3 (新地平) 9a 期	深鉢 ほぼ完全 断面完形	円筒形口縁、口蓋部は平坦でやや内折、肩上部は梯帯部は均等な隆起による凸面、階帶には文と斜交する刻み、区画内には半円形の階位集合文。底面には斜交刻文。底面は8段多層の織目状文。	長石、石英、角閃石、チャート、砂粒	内外:浅黄褐色、橙色、黒褐色	良	内部側下 へ落部被 熱により 一部剥離
58-3 29-1-3	床面 上面	勝坂 3 (新地平) 9a 期	深鉢 口縁部 3/4 肩部 ほぼ完全 断面完形1/2	円筒形口縁、口蓋部は平坦でやや内折、肩上部は梯帯部は均等な隆起による凸面、文と斜交する刻み、区画内には半円形の階位集合文。底面には斜交刻文。底面は8段多層の織目状文。	長石、石英、角閃石、シリトス粘土、砂粒	外:ぶい黄褐色、黒褐色、橙色 内:ぶい黄褐色、黒褐色	良	外部被熱 による器 面焼れ
59-4 29-1-4	覆土 上部	勝坂 3 (新地平) 9a 期	深鉢 口縁部 肩上部 口縁部 1/2弱 肩上部 1/2	円筒形口縁、口縁部は削りのある階帶による2重の区画文と小突起。区画内に斜めによる2重文と三文式。底部は纏条文。	長石、石英、シリトス粘土、砂粒	外: 暗赤、灰褐色、褐灰色 内: 明赤褐色、ぶい黄褐色、褐灰色	良	内部底部 付近と外 部口縁部 付近に著 意に行き
59-5 29-1-5	覆土 上部	勝坂 3 (新地平) 9a 期	深鉢 口縁部 肩上部 口縁部 1/8弱 肩上部 1/6	口蓋部内折、口縁部は厚ぼ、無文、底部は削りと斜交刻文のなる牛頭彫状の均等な隆起による凸面文と渦巻文。底面による三文式。ペン先付工具による縫合部の連続刻文	長石、石英、角閃石、チャート、砂粒、赤褐色粒	外:ぶい褐色、ぶい黄褐色、黒褐色 内:褐色、ぶい黄褐色、褐灰色	良	
59-6 29-1-6	覆土 上部	勝坂 2 (新地平) 8b 期	深鉢 口縁部 肩上部 1/3	多段階円内凹文と蓋文。口縁部は幅狭の無文。以下は削りのある階帶による凸面文と渦巻文。底面には連続彫形文と梯位比較、渦巻文と換位渦巻文	長石、石英、シリトス粘土、砂粒、赤褐色粒	内外:ぶい黄褐色、褐灰色	良	
59-7 29-1-7	覆土 下部	諸文 b	諸文 RL	RL の地文に纏条文を押印した浮文	長石、石英、角閃石、砂粒	外:ぶい黄褐色 内:褐色	良	
59-8 29-1-8	覆土 上部	阿玉台 I a (新地平) 5a 期	深鉢 口縁部 破片	口縁部上端で二字状となる階帶	長石、石英、角閃石、霰母、砂粒	外: 暗赤、黒褐色、ぶい黄褐色 内: 黑褐色	良	
59-9 29-1-9	覆土 上部	勝坂 2 (新地平) 7a 期	深鉢 肩部 破片	三角印文。比縫による波状文、半乾竹筒による削り	長石、石英、角閃石、砂粒、小石	外: 褐褐色、ぶい黄褐色、黒褐色 内: 黑褐色、ぶい黄褐色	良	
60-10 29-1-10	覆土 下部	勝坂 2 (新地平) 7a 期	深鉢 口縁部 破片	口縁部内凹、地文による多條文 RL。口縁部と肩部の場に半乾竹筒による連続竹筒文のある階帶。肩部は半乾竹筒による平行比縫による区画、底面内にキャラヒツ文。	長石、石英、角閃石、砂粒	外:暗赤褐色、黒褐色 内:赤褐色	良	
60-11 29-1-11	覆土 下部	勝坂 2 (新地平) 8b 期	深鉢 口縁部 破片	口縁部はやや削して無文、2段の階帶。上段は竹筒による文と斜交刻文。下段は削みが施される	長石、石英、霰母、砂粒、赤褐色粒	外:ぶい褐色、黒褐色 内:黒褐色	良	外面部被 熱による器 面焼れ
60-12 29-1-12	覆土 上部	勝坂 3 (新地平) 9a 期	深鉢 口縁部 破片	筋状肥手(一部欠損)、側面に削みと比縫による三文式	長石、石英、角閃石、霰母、砂粒、赤褐色粒	内外:ぶい黄褐色、褐灰色、ぶい赤褐色	良	

第22表 SI166J 住居土器観察表 (2)

辨認番号 回収番号	出土 位置	時期	器形 部位 残存率	器形・文様の特徴	胎土	色調	焼成	備考
60 - 13 30 - 1 - 13	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 口縁部 破片	堆円形の大形把手。中央に輪内形の凹み。芯縫・刻み、ベン先状工具による輪縫の連続刻文。沈縫による三角彫文	長石。石英。角閃石。チャート。シリト岩粒。砂粒。赤褐色	外：暗色。淡黃褐色。 内：灰白色。	良	
60 - 14 30 - 1 - 14	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 口縁部 破片	口縫部に刻み。口縫底部に突起。突起の中央に円形の凹みと縁に刻み	長石。石英。角閃石。チャート。砂粒。赤褐色	外：暗色。淡黃褐色。 内：灰白色。	良	
60 - 15 30 - 1 - 15	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 口縁部 破片	口縫底部に付く円形の変形部。円形の凹みを中心にして沈縫による円形のなぞりと刻み	長石。石英。角閃石。チャート。砂粒。小石。赤褐色	外：暗色。赤褐色。 内：明赤褐色。	良	
60 - 16 30 - 1 - 16	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 口縁部 破片	銀錐状突起。突起内側上面に刻み	長石。石英。砂粒	内外：明赤褐色。黒褐色	良	全体によく割かれている
60 - 17 30 - 1 - 17	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 口縁部 破片	内黄口縫と円形突起。突起から垂下する降帶	長石。石英。角閃石。砂粒。小石	外：暗赤褐色。 内：暗赤褐色。 に付いた黄色	良	
60 - 18 30 - 1 - 18	鉢直 上	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 口縁部 破片	三角状突起。口縫部降帶外縫に刻み。突起部から連続下降帶垂下。三叉文	長石。石英。砂粒。赤褐色	外：に付いた黄褐色。 内：暗赤褐色。	良	
60 - 19 30 - 1 - 19	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 口縁部 破片	切跡する無文口縫。口縫内面に段。やや太く深い沈縫による文様解。削突のある方舟文。三叉文。半載竹管による複合集合三脚	長石。石英。角閃石。砂粒。砂粒	内外：赤褐色。黒褐色	良	
60 - 20 30 - 1 - 20	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 口縁部 破片	口縫部に爪形の刻み。刻みのある降帶による渦巻状の小升かく	長石。石英。角閃石。砂粒。小石	外：暗赤褐色。黒褐色。 内：暗赤褐色。赤褐色	良	
60 - 21 30 - 1 - 21	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 口縁部 破片	削突のある降帶と沈縫による重三角文。区面内は爪形文。三叉文。半載竹管による複合集合三脚	長石。石英。角閃石。砂粒。小石	外：暗褐色。黒褐色。 内：に付いた黄褐色。	良	
60 - 22 30 - 1 - 22	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 肩部 破片	人字形モチーフの3本指を出した手	長石。石英。蜜母。砂粒。赤褐色	内外：暗色。黒褐色	良	
60 - 23 30 - 1 - 23	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 肩部 破片	沈縫による半舟形状の文様	長石。石英。蜜母。角閃石。シリト岩粒。砂粒。赤褐色	外：に付いた黄褐色。 内：灰褐色。	良	
60 - 24 30 - 1 - 24	覆土 下部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 肩部 破片	連続刻文のある降帶と肩部沈縫文	長石。石英。角閃石。砂粒。小石。赤褐色	外：暗色。に付いた褐色。 内：灰褐色。黒褐色	良	
60 - 25 30 - 1 - 25	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 肩部 破片	肩下部は刻みのある降帶と降帶に沿う沈縫による横円柱彫文。底部は無文で折断する	長石。石英。砂粒。赤褐色	外：暗色。明赤褐色。 内：暗色。灰褐色	良	内面に焼け付着
61 - 26 30 - 1 - 26	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 肩部 破片	口縫部内削ぎ、底部屈曲し凹縫迫る	長石。石英。片岩。シリト岩粒。砂粒。小石	内外：暗色。灰褐色	良	内部裏面摩耗
61 - 27 30 - 1 - 27	覆土 上部	勝坂3 (新地平) 9a期	深鉢 肩部 破片	肩部に扁平な降帶による波状文	長石。石英。角閃石。シリト岩粒。砂粒。赤褐色	外：に付いた黄褐色。 内：灰褐色。	良	

第23表 SI166J 住居土製品観察表

辨認番号 回収番号	出土 位置	時期	器種	法量 (cm)			重量 (g)	側縫	文様の特徴	胎土	色調	焼成	備考
				最大長	最大幅	最大厚							
61 - 28 30 - 1 - 28	覆土 下部	勝坂	土罐	3.3	2.9	0.9	10.9	打ち欠き 切り込み	地文に縦幅の擦れ文	長石。石英。	外：暗色。 内：に付いた黄褐色	良	外表面 摩擦

第24表 SI166J 住居石器観察表

辨認番号 回収番号	種類	石質	出土位置	法量 (cm)			重量 (g)	備考
				最大長	最大幅	最大厚		
61 - 29 30 - 1 - 29	打製石斧	頁岩	覆土下部	12.0	5.2	1.7	117.5	細曲形
61 - 30 30 - 1 - 30	打製石斧	砂岩	覆土上部	11.0	3.7	1.6	70.1	細曲形
61 - 31 30 - 1 - 31	打製石斧	安山岩	覆土上部	11.5	4.5	2.1	125.9	細曲形
61 - 32 31 - 1 - 32	打製石斧	砂岩	覆土下部	13.0	5.9	2.6	219.4	細曲形
61 - 33 31 - 1 - 33	打製石斧	砂岩	床面底土	10.8	7.6	1.7	116.7	分岐形
61 - 34 31 - 1 - 34	石鎚	ホルンフェルス	覆土上部	7.4	4.0	1.9	45.6	
61 - 35 31 - 1 - 35	磨石	チャート	床面底土	4.0	3.2	2.5	43.5	
61 - 36 31 - 1 - 36	磨石	閃綠岩	覆土上部	12.7	(7.1)	4.9	(503.4)	半球分欠頭。全体に被熱跡がある。 底付着
62 - 37 31 - 1 - 37	石皿	安山岩	床面底土	(14.7)	(11.7)	(7.1)	(1462.7)	

## (2) 土坑

### SK216J土坑（第62図、図版13）

**位置・確認面** 調査区南東端の1区C-3グリッドに位置し、確認面はIIIc層である。本土坑の東端部分が調査区域外に延びる。

**規模・形態** 平面形は不整円形をなし、長軸1.00m以上、短軸0.90m、深さ34cmを測る。底面はIV層中にあって円形に窪み、壁は緩やかに立ち上がる。

**覆土** 第1・2層の暗褐色土を主体に3層に区分される。

**出土遺物** 繩文土器1点（中期細別時期不明）が出土した。

**時期** 繩文中期（詳細時期不明）

### SK219J土坑（第62図、図版13）

**位置・確認面** 調査区北側の2区H-I-4・5グリッドに位置し、確認面はIIIc層である。本土坑東端の一部分が調査区域外に延びる。また、北端部でSK217が重複している。

**規模・形態** 平面形は円形をなし、径1.50m、深さ60cmを測る。底面はIV層の下部にあって平坦で、壁は直立気味に立ち上がり、断面は箱型を呈する。

**覆土** 暗褐色土を主体に3層に区分される。第2・3層はロームブロックや汚れたローム土を混じる縮まった層であり、埋め土と考えられる。第1層は炭化物粒や大き目の礫を混じる。

**出土遺物** 繩文土器23点（阿玉台II式（7a期）1点、勝坂3式（9a期）5点、勝坂式細別時期不明16点、加曾利E2式（11期）1点）、石器1点（調整剥片石器）が出土した。

**時期** 出土遺物から勝坂式期～加曾利E式期と考えられる。

### SK220J土坑（第62図、図版13）

**位置・確認面** 調査区中央部東側の2区F-4・5グリッドに位置し、確認面はIIIc層である。

**規模・形態** 平面形は梢円形をなし、長軸約1.45m、短軸0.85m、深さ最大30cmを測る。底面はIII～IV層中にあって、皿状に窪んだ底面の西端に径50cmほどの小穴を伴う。

**覆土** 第1層の暗褐色土を主体に3層に区分される。

**出土遺物** 石器1点（剥片）が出土した。

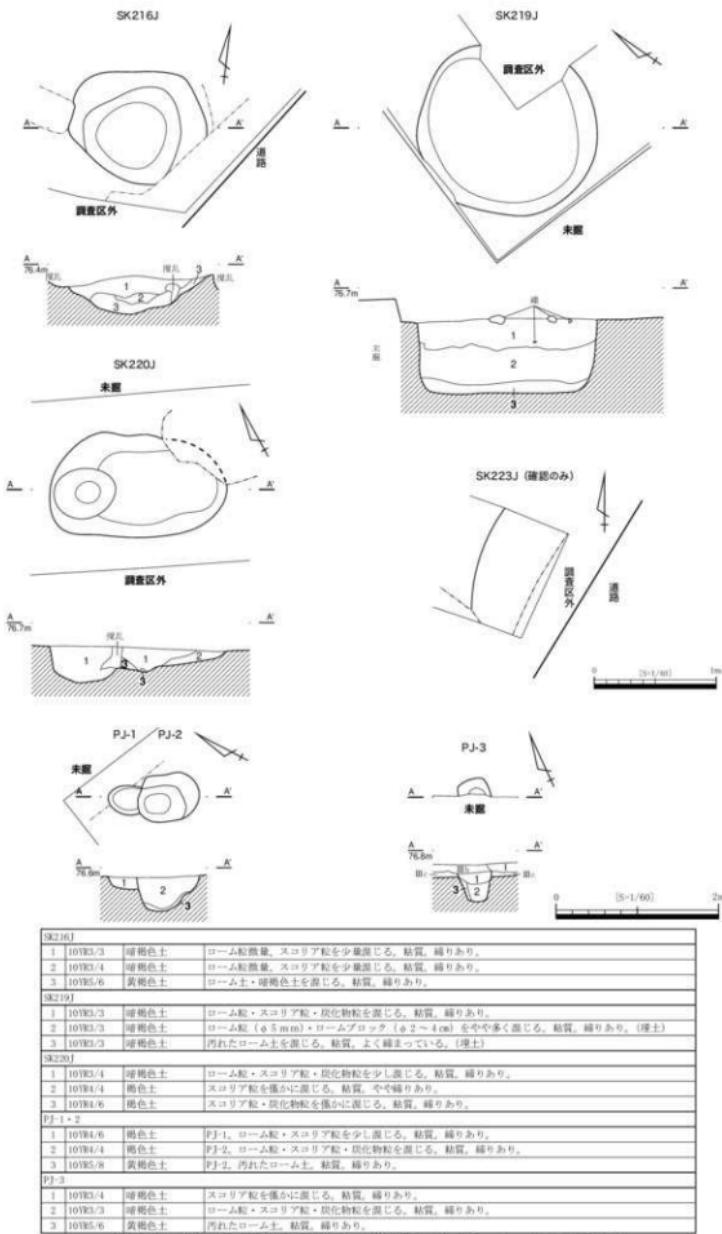
**時期** 詳細時期不明

### SK223J土坑（第62図、図版13）

調査区北側東端の2区H-6グリッドに位置し、確認面はIIIb層である。東接道路部分の第40次調査区（本調査区の東約1.70mに位置する）で検出されているSI142J住居の一部でないことは明らかで、遺構の延びもないことから土坑と考えられる。建築計画の設計深度との関係で確認にとどめた。

## (3) 小穴（第62図、図版14）

小穴は3基（PJ-1～3）を検出した。何れも調査区中央部東側の2区F-4グリッドに位置し、確認面はIIIc層である。PJ-1とPJ-2は新旧関係があり、後者が新しい。大き目のPJ-2は梢円形平面で、長軸約80cm、深さは43cmを測る。その他は径40cm、深さ16～38cmほどである。遺物は出土していない。



第 62 図 SK216J・SK219J・SK220J・SK223J 土坑・PJ-1~3 小穴実測図

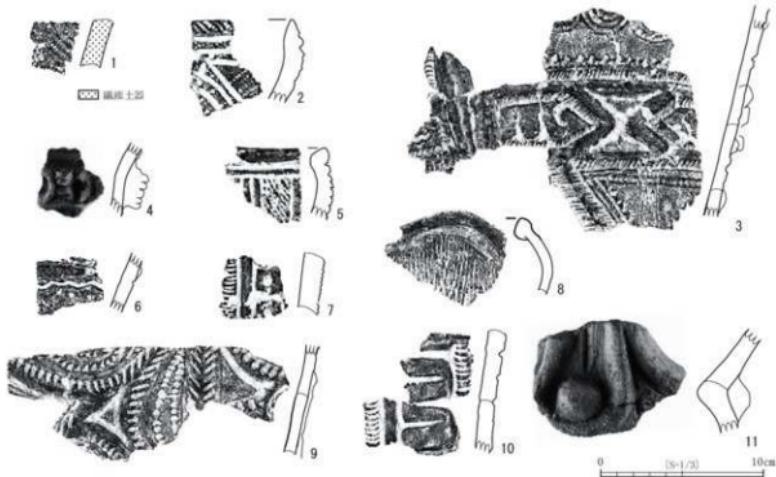
#### (4) 遺構外出土遺物 (第63～65図、第25～27表、図版31・32)

遺構外出土遺物は縄文土器830点、土製品3点、石器49点（打製石斧26点、磨製石斧1点、磨石3点、石皿3点、器種不明1点、調整剝片石器1点、剝片14点）、礫2点の総計884点が出土した。縄文土器、土製品の時期別の内訳は、前期羽状縄文系の黒浜式1点、五領ヶ台式1点、阿玉台式1点、勝坂式769点（勝坂1式10点、勝坂2式32点、勝坂3式111点、細別時期不明616点）、加曾利E式30点、曾利式4点、中期別時期不明11点、中期中葉～後葉8点、時期不明8点である。

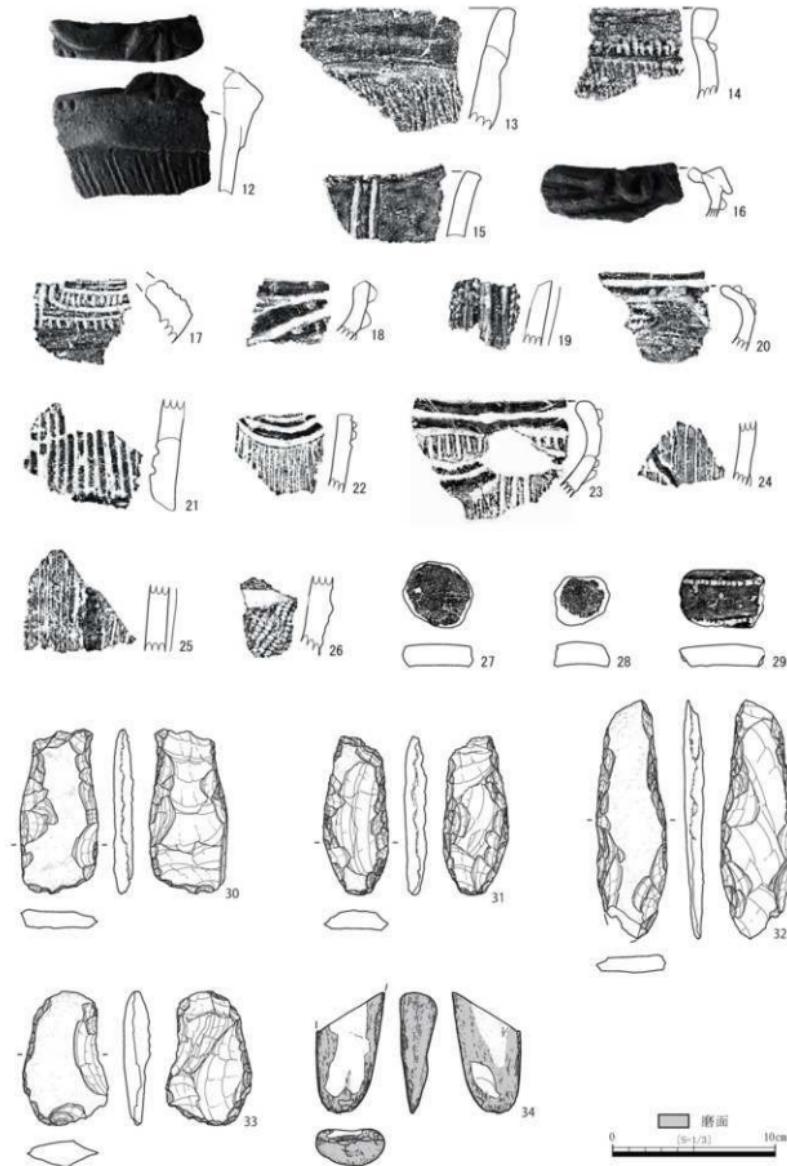
38点を図示した。1は前期羽状縄文系の黒浜式の深鉢胴部片である。文様は地文縄文LRで、胎土に繊維が含まれる。2は五領ヶ台式（4b期）の深鉢のやや内傾する口縁部で、地文縄文RLに3条1組の弧状沈線文と交互刺突文がみられる。3は勝坂1式（6a期）の深鉢胴部片で、半截竹管内側による連続押引き円弧文、隆帶による重三角文・横帶文、区画内に連続三角押文、沈線文、波状沈線や無文部の縁に刺突文が施文される。4は勝坂1式（6b期）の深鉢胴部片で、粘土紐貼付による眼鏡状突起、突起回部と周間に三角押文とキャタピラ文がみられる。5は勝坂2式（7a期）の深鉢口縁部片で、パネル文土器である。口縁部はやや内湾し、口唇部は外側へ屈曲する。半截竹管内側による横位・縦位の平行沈線による区画内に斜位集合沈線が施文される。6は阿玉台II式（7a期）の深鉢胴部片で、断面三角状の隆帯脇に角押文と波状沈線が施される。7は勝坂2式（8a期）の深鉢胴部片で、半截竹管内側による中に刺突のある方形文に沿うようにキャタピラ文が施文される。8は勝坂2式（8b期）の深鉢の内湾する波状口縁部で、口縁に沿うように太い波状沈線、波状部内には細い縦位集合沈線がみられる。9は勝坂3式（9a期）の深鉢胴部片で、半截竹管による刺突や綾杉状刺突のある隆帶、粗いベン先状工具による連続押捺文、沈線による三叉文が施文される。10は勝坂3式（9a期）の深鉢胴部片で、一部間隔の乱れた連続爪形文、三叉状沈線を交互に施文した縦位波状文がみられる。11は勝坂3式（9b期）の深鉢突起部で、半球状貼付文、縦位隆帶と沈線、沈線による三叉文が施文される。12～14は勝坂3式（9b期）の深鉢口縁部へ胴上部片である。12は口縁部の蛇頭状になると思われる突起基部に、半截竹管による沈線の三叉文を施文。扁平な隆帶による円形文（渦巻文か）。口縁部の内折部は欠損しており、口唇部下は無文である。胴部は地文0段多条縄文RLが強弱をつけて施文される。13は幅広の口縁部無文、頸部に浅く太い横位沈線、胴部に縦位・斜位の撚糸文Lがみられる。14は肥厚した無文の口縁部で、口唇部は平坦である。頸部に隆帶を1条巡らせ、撚糸文による刺突が加えられる。以下、胴部に地文撚糸文Rが縦位に認められる。15は勝坂3式（9c期）の深鉢波状口縁部で、半截竹管内側による縦位平行沈線が垂下する。16は勝坂3式（9c期）の深鉢の内湾する口縁部で、口唇部は内折している。外面に隆帶による褶曲文、三角状の区画内と胴部に横位の地文撚糸文（か？）が施文される。17は加曾利E式（10期）の浅鉢で、肩部へ胴上部片である。肩部は沈線により横位の方形に区画され、区画内には縦位の短沈線が施文される。屈曲部には刻みがみられる。18は加曾利E1式（10b期）の深鉢で、口縁部片である。口縁端部に1条の隆帶が巡る。口縁部には斜位の平行する2条の隆帶が施されており、S字状文の一部とみられる。地文には撚糸文Lが横位に施文される。19は加曾利E1式（10b期）の深鉢で、胴部片である。2条の隆帶による懸垂文が施文され、隆帶脇は太めの沈線が沿う。地文には縦位の撚糸文Lが施される。20は加曾利E2式（11a期）の深鉢で、口縁部片である。口縁端部に横位隆帶とそれに沿う沈線が1条巡っており、口縁部文様帶を区画している。区画内には劍先状の隆帶がみられ、S字状文に付いていたものと推測される。地文には横位の撚糸文Lが施される。器面の摩耗が著しい為、全体的に文様が判然としない。21は曾利II式（11a期）の深鉢で、胴部片である。地文に半截竹管内面による縦位の集合沈線が施文される。隆帶の痕跡がみられ、形状から渦巻文が施されていたとみられる。22は曾利II式（11b期）の深鉢で、胴部片である。地文には縦位の集合沈線が施文される。細い隆帶と太めの沈線によって描出される渦巻文の一部が確認できる。23は加曾利E2式（11c2期）の深鉢で、口縁部へ胴上部片である。口縁部は隆帶により横位の梢円状に区画され、隆帶脇には沈線が沿う。区

画内にはやや間隔の広い縦位の集合沈線が充填される。区画間に設けられた渦巻状と思われる隆帯が剥離する。胴部は3本の沈線による懸垂文と、地文に縦位の細い条線が施される。外面の器面が荒れる。24は曾利III式(12a期)の深鉢で、胴部片である。地文に半截竹管内面による縦位の集合沈線が施され、その上から細い粘土紐による蛇行隆線が貼り付けられる。25は曾利III式(12a期)の深鉢で、胴部片である。縦位の条線が施された地に、隆帯が垂下する。内外面共に器面が荒れる。26は加曾利E式(13期)の深鉢で、口縁部へ胴上部片である。口縁部は無文帶で、直下に回線が巡る。回線の下端はやや微隆起状となる。回線以下には縫文RLが施される。27は土製円盤で、加曾利E式期の無文の土器胴部片を打ち欠いたものを利用している。平面形状はほぼ正円形を呈する。側縁は部分的に研磨がみられる。28は土製円盤で、縄文時代中期の無文の土器胴部片を打ち欠いたものを利用している。平面形状はほぼ正円形で一部欠損する。側縁は部分的に研磨がみられる。29は土錘で、勝坂I式(5c期)深鉢口縁部片を利用している。平面形状は隅丸長方形を呈するが、短辺の片側外面がやや欠損するが、内側の浅い切り込み部分は遺存する。口唇部側を除いた3辺が打ち欠きされ、研磨はみられない。横帯区画文の一部で、幅の狭い横位の角押文2条が区画内の上下に施文されている。

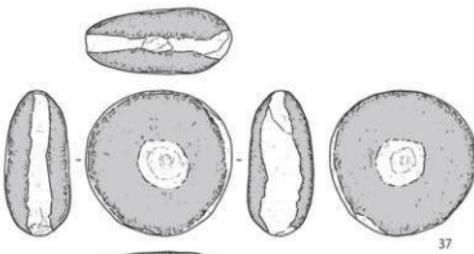
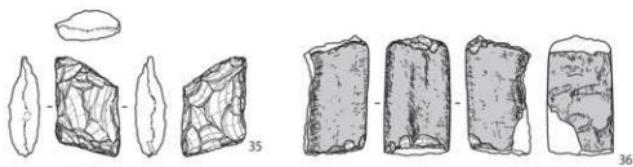
石器は9点を図示した。30は砂岩の短冊形打製石斧。胴部両側縁と刃部の一部に潰れがみられる。31は砂岩の打製石斧。胴部両側縁と刃部に潰れがみられる。32は刃部を一部欠損したホルンフェルスの打製石斧。胴部両側縁上部は潰れ、両側縁下部から刃部にかけて磨耗がみられる。33は砂岩の撥形打製石斧。左側縁に連続した細かな剝離と若干の潰れがみられる。34は基部から胴半部を欠損した砂岩の磨製石斧。刃部稜線部分には使用による微細な剝離と磨耗がみられる。全体に被熱している。35は性格不明な砂岩の石器。四辺に調整が施され、使用による潰れがみられる。欠損した打製石斧の胴部を転用した石器と考えられる。36は凝灰岩の磨石。上面以外は光沢を帯びるほどよく磨りこまれている。下面の縁辺には敲打による剝離と潰れがみられる。37は閃緑岩の磨石(凹石)。表裏の中央に窪みがあり、周囲には若干の敲打と潰れが見られ、全体に被熱し煤けている。38は欠損した閃緑岩の石皿。表面は緩やかに窪むように磨りこまれ、裏面は平滑に磨りこまれている。全体に被熱し煤けている。



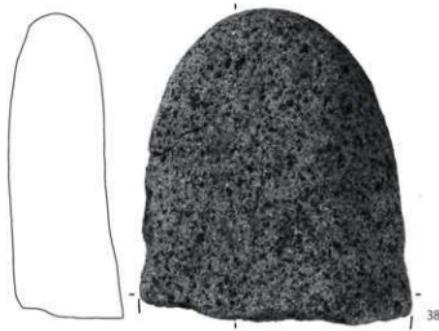
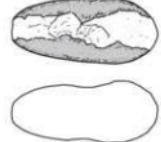
第63図 遺構外出土遺物実測図(1)



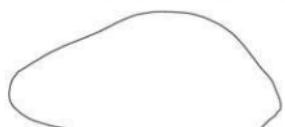
第64図 遺構外出土遺物実測図(2)



37



38



第 65 図 遺構外出土遺物実測図 (3)

第25表 構造外土器觀察表

標印番号 回収番号	出土 位置	時期	器形 部位 既存文	器形・文様の特徴	胎土	色調	焼成 備考
63-1 31-1-1	SD2	前期 羽状織文系	深鉢 口縁部 破片	萬文 LR	褐鐵、長石、石英、角閃石、砂粒	内外：にぶい黃褐色 内：明赤褐色、黒褐色、 にぶい黃褐色、 黒褐色	良
63-2 31-1-2	2区 南側 表土	五輪台 4b期	深鉢 口縁部 破片	萬文 RL 地文による。半載竹管外側による3本の並行沈継文 と文瓦割交文	長石、石英、砂粒、小石	外：地色、 にぶい黃褐色、黒褐色、 内：にぶい黃褐色、 黒褐色	良
63-3 31-1-3	2区 II b層	腰坂1 (新地平) 6a期	深鉢 脚部 破片	半載竹管内側による連続押引き凹弧。隆起による垂三角 文・横帶文。画面内に連続三角押文。沈継文、波状文跡、 例文	長石、石英、角閃石、砂粒、 砂程	外：地色、 にぶい黃褐色、黒褐色、 内：にぶい黃褐色、 黒褐色	良
63-4 31-1-4	2区 北側 表土	腰坂1 (新地平) 7a期	深鉢 脚部 破片	粘土結付による順調状突起、突起凹部と周囲に三角押 文・文キタララ文	長石、石英、角閃石、砂粒、 赤褐色	外：黄褐色、灰黃褐色 内：黄褐色	良
63-5 31-1-5	1区 表土	腰坂1 (新地平) 7a期	深鉢 口縁部 破片	「ルル文」。半載竹管内側による横揃・履位沈継による区 画内に斜位集合沈継	長石、石英、角閃石、砂粒、 砂程	外：赤褐色、黒褐色 内：にぶい黄褐色、 黒褐色	良
63-6 31-1-6	1区 表土	阿玉台II (新地平) 7a期	深鉢 脚部 破片	角押文。波状沈継	長石、石英、角閃石、雲母、 砂程、小石	外：赤褐色 内：にぶい黄褐色	良
63-7 31-1-7	2区 南側 表土	腰坂2 (新地平) 8b期	深鉢 脚部 破片	キャットピラ文。半載竹管内側による平行沈継による斜列 文のある方文形	長石、石英、角閃石、砂粒、 砂程	内外：黒褐色	良
63-8 31-1-8	表坪	腰坂2 (新地平) 8b期	深鉢 脚部 破片	波状口縁。波状内溝、外面部口縁に沿う太い波状沈継と 斜位集合沈継	長石、石英、角閃石、砂粒、 小石	内外：明赤褐色	良
63-9 31-1-9	1区 表土	腰坂3 (新地平) 9a期	深鉢 脚部 破片	蝶形状突起・半載竹管による刺突のある陣帯。粗いベン 先伏工具による連続押文。三文交	長石、石英、角閃石、 砂程	内外：暗褐色、黒褐色	良
63-10 31-1-10	1区 表土	腰坂3 (新地平) 9a期	深鉢 脚部 破片	連続波形文。三文状沈継を交叉に施文した複雑波状文	長石、石英、砂粒、小石、 赤褐色粒	外：地色、 にぶい黄褐色、地色 内：にぶい黄褐色、 地色	良
63-11 31-1-11	2区 表土	腰坂3 (新地平) 9b期	深鉢 口縁部 破片	突起部・半波状波突付文、陣帯、沈継による三文交、履位 沈継	長石、石英、雲母、角閃石、 砂程	外：赤褐色、 にぶい黄褐色、 黒褐色 内：明赤褐色、 にぶい黄褐色	良
64-12 31-1-12	2区 北側 表土	腰坂3 (新地平) 9b期	深鉢 口縁部～ 脚部上 部 破片	口縫部突起基部半載竹管外側による沈継の三文交・渾書 文? 2号? 2脚内折部アラム。脚部下無文。脚部D段多様 文 RL	長石、石英、角閃石、 砂程	外：赤褐色、 暗赤褐色 内：赤褐色、 黒褐色	良
64-13 31-1-13	1区 表土	腰坂3 (新地平) 9b期	深鉢 口縁部 脚部上 部 破片	口縫部無文、脚部浅く太い横位沈継。脚部腹側・斜位の標 文 L	長石、石英、角閃石、砂程、 赤褐色粒	外：にぶい黄褐色、 地色 内：にぶい黄褐色、 地色	良
64-14 31-1-14	1区 表土	腰坂3 (新地平) 9b期	深鉢 口縫部上 部 破片	口縫部平出で肥厚。口縫下降帶を返し燃木による刺突、 下部位然文 R	長石、石英、砂程、小石 内：暗褐色	外：地色、 内：暗褐色	良
64-15 31-1-15	2区 表土	腰坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縫部 破片	波状口縁。口縫部から半載竹管内側の並行沈継による短 幅位沈継が垂下する	長石、石英、角閃石、砂程、 小石	外：赤褐色、 黒褐色 内：赤褐色、 暗褐色	良
64-16 31-1-16	2区 表土	腰坂3 (新地平) 9c期	深鉢 口縫部 破片	口縫部内折、口縫部屈曲文。地文横位の標示文	長石、石英、角閃石、砂程、 赤褐色粒	外：にぶい黄褐色、 地色 内：暗褐色、 黒褐色	良
64-17 31-1-17	2区 表土	切削印E (新地平) 10期	深鉢 脚部上 部 破片	切削による區面と區面内に履位沈継充填。屈曲部に剖文 L	長石、石英、チャート、 砂程、赤褐色粒	外：にぶい黄褐色 内：褐色	良
64-18 31-1-18	2区 表土	切削印E I (新地平) 10期	深鉢 口縫部 破片	2条の隆帯による5字状文が、地文は横位燃系文 L	長石、石英、角閃石、 チャート、砂程、 赤褐色粒	外：地色、 褐色	良
64-19 31-1-19	2区 II b層	切削印E I (新地平) 10期	深鉢 脚部 破片	2条の慈恵帶・陣帯に沈継が汨る。地文は履位燃系文 L	長石、石英、チャート、 砂程、赤褐色粒	外：地色、 にぶい黄褐色	良
64-20 32-1-20	2区 北側 表土	加賀利E (新地平) 11a期	深鉢 口縫部 破片	捲帶とそれに沿う沈継による区画。隆帯による刺先の付 くS字状文が、地文は横位燃系文 L	長石、石英、砂程、 赤褐色粒	外：にぶい黄褐色、 地色 内：にぶい褐色、 地色 暗褐色	良 外器表面 摩耗
64-21 32-1-21	2区 表土	厚利E II (新地平) 11b期	深鉢 脚部 破片	半載竹管内による履位集合沈継地に隆帯による渾書文 か	長石、石英、砂程、小石	外：にぶい黄褐色、 地色 内：にぶい黄褐色、 地色 暗褐色	良
64-22 32-1-22	2区 II b層	厚利E II (新地平) 11b期	深鉢 脚部 破片	履位集合沈継地に隆帯と沈継による渾書文	長石、石英、砂程、小石、 赤褐色粒	外：地色、 暗褐色	良 外器表面 摩耗
64-23 32-1-23	2区 II b層	加賀利E II (新地平) 11c期	深鉢 脚部上 部 破片	口縫部は隆帯と沈継による区画。区画内に履位集合沈 継、渾書文が形成される隆帯一部斜崩、崩壊は沈継による移 動文。地文に履位燃系	長石、石英、砂程、 赤褐色粒	外：にぶい黄褐色、 地色 暗褐色、淡黃褐色 内：にぶい黄褐色、 地色 暗褐色	良 外器表面 摩耗
64-24 32-1-24	2区 北側 表土	厚利E II (新地平) 12a期	深鉢 脚部 破片	半載竹管内による履位沈継地に隆帯による蛇形隆 帶	長石、石英、砂程、 赤褐色粒	外：にぶい黄褐色、 地色 内：にぶい褐色、 地色	良
64-25 32-1-25	2区 南側 表土	厚利E II (新地平) 12a期	深鉢 脚部 破片	履位燃帶地に隆帯が垂下	長石、石英、砂程、 赤褐色粒	外：地色、 褐色	良 内外器面 面剥離
64-26 32-1-26	2区 表土	加賀利E IV (新地平) 13期	深鉢 口縫部 破片	口縫部無文帶下に凹彎、凹彎下端はやや渾隆起となる。 凹彎以下は萬文 RL	長石、石英、砂程、 赤褐色粒	外：にぶい黄褐色、 地色 内：褐色	良

第26表 遺構外土製品観察表

辨認番号 同様番号	出土 位置	時期	器種	法量(cm)			重量(g)	側縫	文様の特徴	泥土	色調	焼成	備考
				最大長	最大幅	最大厚							
64 - 27 32 - 1 - 27	2区 Ⅲ b層	加賀町 E	土製円盤	4.1	3.8	1.2	26.1	打ち欠き一部研磨	無文	貝石、石英、 角閃石、砂粒、 赤褐色粒	外：にごい黄褐色、 内：褐色	良	
64 - 28 32 - 1 - 28	2区 表土	中期	土製円盤	3.4	3.0	1.4	15.2	打ち欠き一部研磨	無文	貝石、石英、 角閃石、砂粒、 赤褐色粒	外：褐色、 内：浅黄褐色	良	
64 - 29 32 - 1 - 29	1区 表土 (新地平) 5c層	土器	5.0	3.4	1.8	25.3	打ち欠き 辺に切り込み	横帶区文土器、区面 内に横位磁鉄角印文	貝石、石英、砂粒、 赤褐色粒	外：明褐色、 内：明赤褐色	良		

第27表 遺構外石器観察表

辨認番号 同様番号	種類	石質	出土位置	法量(cm)			重量(g)	備考		
				最大長	最大幅	最大厚				
64 - 30. 32 - 1 - 30	打製石斧	砂岩	2区 北側表土	10.2	4.9	1.2	82.0	短曲形		
64 - 31. 32 - 1 - 31	打製石斧	砂岩	2区 北側表土	9.8	4.1	1.4	68.4			
64 - 32. 32 - 1 - 32	打製石斧	ホルンフェルス	1区表土 (14.8)	4.5	1.3		(99.4)	刃部一部欠損		
64 - 33. 32 - 1 - 33	打製石斧	砂岩	2区 北側表土	8.3	5.3	1.7	68.9	扇形		
64 - 34. 32 - 1 - 34	磨製石斧	砂岩	1区表土 (7.4)	(4.2)	(2.3)		(71.0)	基部～鶲半部欠損。 全体に被熱痕跡 あり		
65 - 35. 32 - 1 - 35	基盤不明	砂岩	2区表土	6.2	4.0	1.9	52.0	打製石斧断部を転用か		
65 - 36. 32 - 1 - 36	磨石	凝灰岩	2区 南側表土	7.5	4.1	4.0	242.9			
65 - 37. 32 - 1 - 37	磨石	閃緑岩	110次 Dトレンチ	9.0	9.1	4.1	474.2	凹石、全体に被熱痕跡あり。煤付着		
65 - 38. 32 - 1 - 38	石皿	閃緑岩	1区表土 (39.7)	17.0	8.1		(3350.0)	全体に被熱痕跡あり。煤付着		

第28表 石器集計表

器種 出土位置	スクレ イバー	ピエス・ エスキュー	器種 不明	石皿	石錐	砾石	石鍤	石鏃	打製 石斧	台石	調整剝片 石器	磨製 石斧	磨石	敲石	礫器	剝片	合計	
																	1	2
SI143J																	15	25
SI162J																	4	9
SI163J																		
SI164J	1			1		1		1	20				3	4	2	35	68	
SI164J・165J										10							2	12
SI165J	1			1		1		1	16		1						13	33
SI166J				3	1				20	2		2	1				35	64
SK219											1						1	
SK220																	1	1
SD2																	1	1
2区Ⅲ b層										3							3	
1区表土					1					2							2	5
2区表土				1	2				15	1	2					4	25	
SI162J 撥乱 表採									1		1						5	7
第109・110次 表採									2								2	
第110次 Cトレンチ									1								1	2
第110次 Dトレンチ									1				1			1	3	
合計	1	1	1	8	1	1	1	2	104	2	5	1	8	5	2	119	262	

第29表 繩文土器集計表(トーン部分は住居跡の帰属時期を示す)

型式	新地平 出土位置	諸磯 b 黒瓦 1~5期	五瀬ヶ台 5~8期	阿玉台 5~6期	勝坂 1 5~8期	勝坂 2 5~9期	勝坂 3 (施設 不明)	勝坂 5~9期 (施設 不明)	加曾利 E1 (細列時期 不明)				加曾利 E2 (細列時期 不明)				加曾利 E3 (細列時期 不明)				加曾利 E4 (細列時期 不明)				合計							
									10期	11期	12期	13期	10~13期	11期	12期	13期	10~13期	11期	12期	13期	10~13期	11期	12期	13期	10~13期	11期	12期	13期	10~13期	11期	12期	13期
SI143J	0 0	0 0	0 0	0 0	8	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
SI162J	0 0	1 1	4 5	28	96	332	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	472
SI163J	0 0	0 0	0 0	0 1	12	55	21	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	
SI164J	0 0	0 0	4 27	196	27	479	5	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	742	
SI165J	0 0	0 3	1 19	61	312	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	398	
SI166J	1 0	1 6	66	108	458	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	642	
SD2	0 1	0 0	0 0	0 0	5	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	
SD5	0 0	0 0	0 0	1 1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	
SK216J	0 0	0 0	0 0	0 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SK219J	0 0	1 0	0 0	5	16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	
2区III b層	0 0	0 0	3 4	0	38	1	4	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	
1区表土	0 0	0 1	1 2	16	89	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	113	
2区表土	0 0	1 0	3 12	32	308	3	2	1	1	4	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	371	
SI162埋乱	0 0	0 0	2 1	47	97	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	149	
表層	0 0	0 0	0 3	2	42	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	
第109・110次表面	0 0	0 0	0 3	5	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	
第109次Aトレンド	0 0	0 1	6 3	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	
合計	1 1	3 14	49	350	421	269	44	18	1	2	6	2	2	12	8	8	8	321														

## 第3節 奈良・平安時代～中世以降

検出された奈良・平安時代～中世以降の遺構は、道路遺構（東山道武藏路）側溝2条（SD2・5）、土坑4基[SK217・218・221・222（221・222は平面プランの確認のみ）]、小穴1基[P-4（平面プランの確認のみ）]である（第66・67図）。遺物は表土から古代の武藏型土師器甕1点、古代～中世の土師質土器1点が出土している。

### （1）道路遺構

#### SF1道路（東山道武藏路）

##### SD2溝（西側溝）（第68・69図、図版14・15）

**位置・確認面** 本溝は調査区の中央を南北に貫くSF1道路（両側溝の心々距離約12.00m）の西側溝に当たり、北端の2区H-3グリッドから南端の1区C-2・3グリッドまで延長約23.7mが検出された。溝の長軸は座標経線に対して2°東偏する。確認面はⅢbおよびⅢc層である。建築計画の設計深度との関係から、給排水埋設部分を中心に4ヶ所の掘り下げを行った。遺構上面は全面にわたり、歓などの搅乱を受けているものの全体的に浅く、遺存状態は良好である。

**形状** D-2・3グリッド付近で、幅2.30m以上にわたって土橋状に掘り残された部分が検出され、土坑連結式であることが分かる。調査区内の全長は約23.7mで、上面幅60～80cm、底面幅30cm、深さ50～66cmを測る。断面形は、調査区北半部は底面がやや広い逆台形状、同南半部は上部が広く底面がやや狭い「V」字状を呈する。

**覆土** 断面A-A'（全3層）と断面C-C'・D-D'・E-E'（全4層）に2区分される。これらは、最下層のロームブロックを主体とした埋め土である前者の第3層と後者の第4層、および暗褐色ブロックを混じる前者の第1層と後者の第2層が土層比較の際の鍵層になりうるが、これらを手掛かりに土層の堆積状態を観察すると、前者では第1層より上層が削平されていること、後者では上層（第1層）が遺存していることが分かる。しかし、この第1層は締りが無く、SD5溝の第I層（硬化面や硬化面支持層）とは異なる。

**出土遺物** なし

**時期** 奈良・平安時代

##### SD5溝（東側溝）（第68・70図、図版15・16）

**位置・確認面** 本溝は同じSF1道路（両側溝の心々距離約12.00m）の東側溝に当たり、北端の2区J-5グリッドから南端の1区F-5グリッドまで延長約21.8mが確認された。溝の長軸は座標経線に対して1°30'東偏する。確認面はⅢb・Ⅲc層である。SD2溝と同様に、給排水埋設部分を中心に4ヶ所の掘り下げを行った。遺構上面は全面にわたり歓などの搅乱を受けているものの全体的に浅く、遺存状態は良好である。

**形状** G-5グリッド付近で、幅1.90mほど土橋状に掘り残された部分が検出され、SD2溝と同様に土坑連結式であることが分かる。調査区内の全長は約21.8mで、上面幅56～84cm、底面幅20～40cm、深さ55～72cmを測る。断面形は、調査区北半部はSD2溝と同様の底面がやや広い逆台形状、同南半部は上部がやや広がる箱形を呈する。

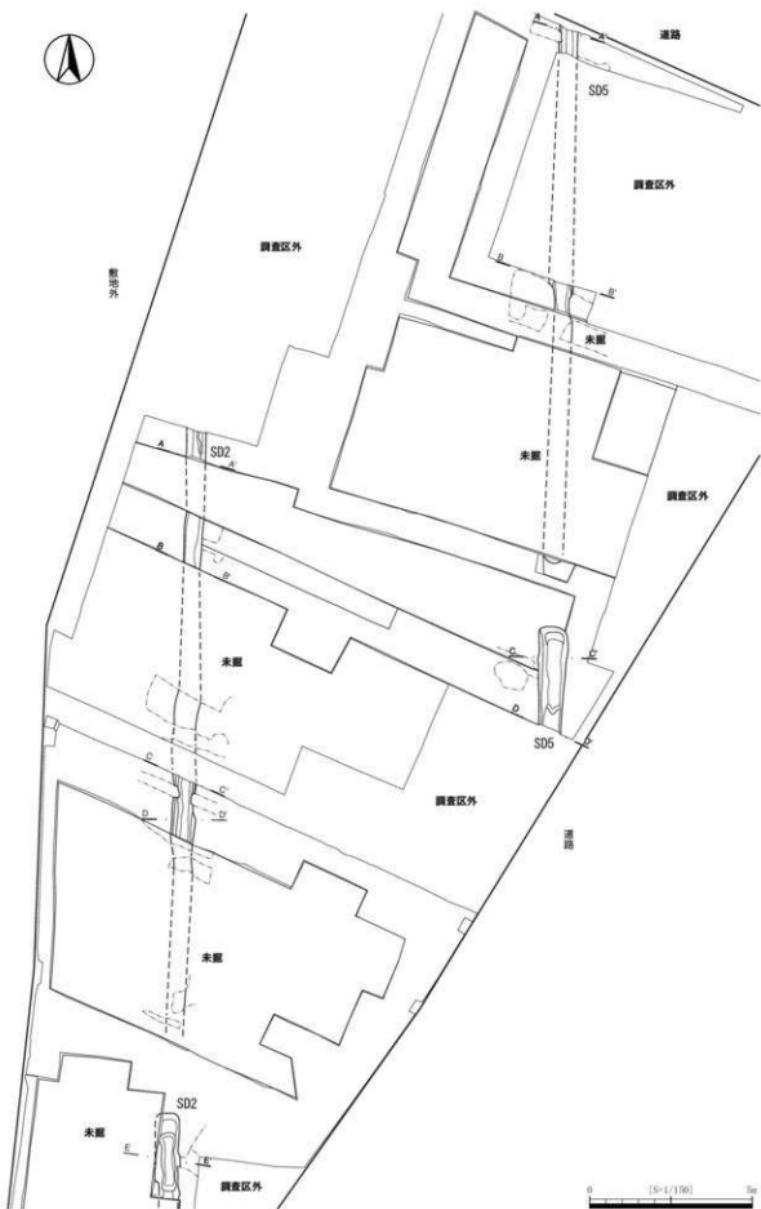
**覆土** 断面A-A'（全3層）、断面B-B'（全7層）、断面C-C'・D-D'（全4層）に3区分される。これらはSD2溝と同様に、最下層のロームブロックを主体とした埋め土であるA-A'の第3層、B-B'の第6・7層、C-C'・D-D'の第4層、および暗褐色ブロックを混じるA-A'の第1層、B-B'の第4層、C-C'・D-D'の第3層が土層比較の際の鍵層になりうるが、これらを手掛かりに観察するとA-A'では第1層より上層が削平されていること、B-B'では第1層の硬化面と第2層の硬化面支持層が認められるなど最も遺存状態が良いこと、



第 66 図 奈良・平安時代～中世以降構造配置図(1)



第67図 奈良・平安時代～中世以降遺構配置図(2)（第30次調査を合成）

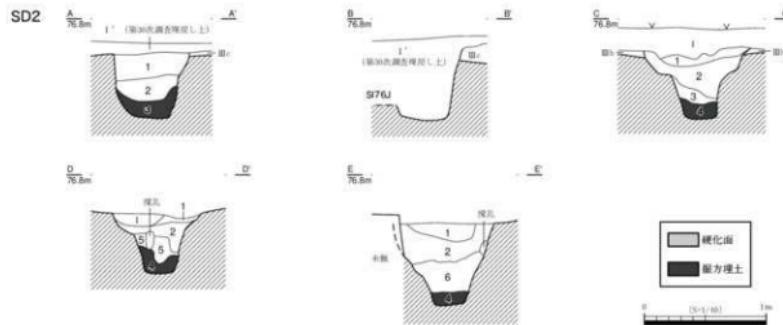


第 68 図 奈良・平安時代～中世以降遺構配置図（3）（第 30 次調査を合成）

C-C'・D-D'では硬化面が削平されているものの硬化面支持層（第1層）が遺存していることなどが分かる。なお、第30次調査のSD5溝東西セクション図（第13図）では、層厚40～50cmの第4層が大粒のローム粒や暗褐色土ブロックを含むとされているが、これは近接するC-C'・D-D'の第2・3層を一つの土層として区分したものと思われる。

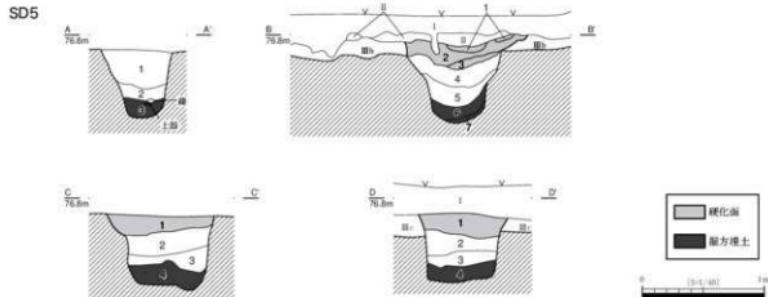
**出土遺物 なし**

**時期 奈良・平安時代**



SF2 SB 2 (西側溝)	
<b>A-A' セクション</b>	
1	10YR2/3 黒褐色土 ローム微粒を含み、粒子が粗くボソボソしている。暗褐色土ブロックをやや多く混じる。縫りあり。C-C' の2層に対応。
2	10YR2/2 黒褐色土 ローム微粒を含み、粒子が粗くボソボソしている。ロームブロックを僅かに混じる。縫りあり。A-A' の6層に対応。
3	10YR6/8 明黄褐色土 混在したローム土とロームブロックの混合土。粘質。やや縫りあり。C-C' の4層に対応。
<b>C-C' セクション</b>	
1	10YR2/1 黒色土 ローム微粒をやや多く含み、粒子が粗くボソボソしている。均一。(自然堆積)。
2	10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土ブロック (φ 5 cm) 主体で、黒色土、混在したローム土を少し混じる。やや縫りあり。(埋土)。
3	10YR2/1 黑色土 1層+少量の混在したローム土 (自然堆積)。
4	10YR6/8 明黄褐色土 混在したローム土とロームブロックの混合土。粘質。やや縫りあり。(埋土堆積)。
<b>D-D' セクション</b>	
1	10YR2/1 黒色土 C-C' セクション1層と同じ。
2	10YR3/3 暗褐色土 C-C' セクション2層と同じ。
4	10YR6/8 明黄褐色土 C-C' セクション4層と同じ。
5	10YR2/1 黑色土 大きい暗褐色土ブロックおよびロームブロック (φ 5 ~ 7 cm) を混じる。やや縫りあり。
<b>E-E' セクション</b>	
1	10YR2/1 黒色土 C-C' セクション1層と同じ。
2	10YR3/3 暗褐色土 C-C' セクション2層と同じ。
4	10YR6/8 明黄褐色土 C-C' セクション4層と同じ。
6	10YR2/1 黑色土 ローム微粒をやや多く含み、粒子が粗くボソボソしている。ロームブロック (φ 1 cm) を極少混じる。やや縫りあり。(自然堆積)。

第 69 図 SD2 溝断面図



第 70 図 SD5 溝断面図

SF1	SD6 (東側面)	
A-E' セクション		
1	10WR2/1 黒褐色土	B-B' セクション4層と同じ。
2	10WR2/1 塗褐色土	ローム土(多く)と塗褐色土ブロック(φ 5cm)の混合土。粘質。やや縫りあり。(解方土)。
3	10WR2/3 塗褐色土	ロームブロックと塗褐色土ブロック(φ 5cm)の混合土。粘質。やや縫りあり。(解方土)。
B-B' セクション		
1	10WR2/4 黑褐色土	黒褐色土を多く覆じる。粘質。よく縫り硬質。(硬化面)。
2	10WR2/2 黑褐色土	汚れたローム土と褐色土を多く混じる。縫りあり。1層直下は硬質。
3	10WR2/1 黑褐色土	ローム地盤を含み、粒子が軽くボソボソしている。縫りあり。
4	10WR2/1 黑褐色土	ローム地盤を含み、粒子が軽くボソボソしている。塗褐色土ブロックをやや多く混じる。よく縫まっている。
5	10WR2/1 黑褐色土	3層と同土質。
6	10WR2/2 黑褐色土	ローム粘。汚れたローム土を混じる。よく縫まっている。(解方土)。
7	10WR6/ 明黄褐色土	汚れたローム土とロームブロックの混合土。粘質。縫りあり。(解方土)。
C-C' セクション		
1	10WR2/2 黑褐色土	汚れたローム土を多く混じる。縫りあり。B-B' セクション2層に対応。
2	10WR2/1 黑褐色土	ローム地盤を含み、粒子が軽くボソボソしている。塗褐色土ブロックをやや多く混じる。よく縫まっている。
3	10WR2/1 黑褐色土	ローム地盤を含み、粒子が軽くボソボソしている。ロームブロックを僅かに混じる。縫りあり。B-B' セクション5層に対応。
4	10WR6/ 明黄褐色土	汚れたローム土とロームブロックの混合土。粘質。縫りあり。(解方土)。
D-D' セクション		
1	10WR2/2 黑褐色土	C-C' セクション1層と同じ。
2	10WR2/1 黑褐色土	C-C' セクション2層と同じ。
3	10WR2/1 黑褐色土	C-C' セクション3層と同じ。
4	10WR6/ 明黄褐色土	C-C' セクション4層と同じ。

## (2) 土坑

### SK217土坑（第71図、図版16）

**位置・確認面** 調査区北側の1区I-4・5グリッドに位置し、確認面はIIIb層である。本土坑の東側が調査区外に延びており、また、SK219J土坑の北半に重複する。遺構上面に歓の擾乱を受けていることや、掘り込みが全体的に浅いものもあって、遺構検出段階で南側55cmほどを削平してしまい遺存状態は悪い。

**規模・形態** 平面形は隅丸長方形をなし、長軸約1.30m、短軸0.65m以上、深さ約8cmを測る。底面は非常に浅くIIIb層中にあって、ほぼ平坦である。

**覆土** 第1層の黒褐色土のみである。

**出土遺物** なし

**時期** 中世以降の所産と考えられる。

### SK218土坑（第71図、図版16）

**位置・確認面** 調査区北側の1区I-4グリッドに位置し、確認面はIIIc層である。西側の大部分が調査区外に延びており、また、SI1164J住居の南壁を切っているが、遺存状態は良好である。

**規模・形態** 平面形は梢円形をなし、長軸約1.35m以上、短軸0.40m以上、深さ約50cmを測る。箱形の底面はIIIc層中にあって、ほぼ平坦である。

**覆土** 第1層の黒褐色土のみで、縫まりがなく軟質である。

**出土遺物** なし

**時期** 近現代の所産と考えられる。

### SK221土坑（第71図）

**位置・確認面** 調査区北側の1区I-4グリッドに位置し、確認面はIIIb層である。SI1164J住居の直上に築造されている。本土坑の中央部に歓の擾乱があるが、遺存状態は良好である。建築計画の設計深度との関係から、平面プランの確認にとどめたため、詳細は不明である。

**規模・形態** 平面形は隅丸長方形をなし、長軸約1.70m、短軸1.18m、深さ約10cm（ボーリング調査による）を測る。

**覆土** 詳細は不明であるが、確認面の覆土はSK217J土坑第1層の黒褐色土と同質土である。

**出土遺物** なし

**時期** 中世以降の所産と考えられる。

### SK222土坑（第71図）

**位置・確認面** 調査区北側の1区I-4グリッドに位置し、確認面はIIIc層である。西側の大部分が調査区外に延びており、また、SI164J住居の南壁を切っているが、遺存状態は良好である。建築計画の設計深度との関係から、平面プランの確認にとどめたため、詳細は不明である。

**規模・形態** 平面形は長円形をなし、長軸約1.15m、短軸約0.40m以上、深さ約0.40mを測る（ボーリング調査による）。

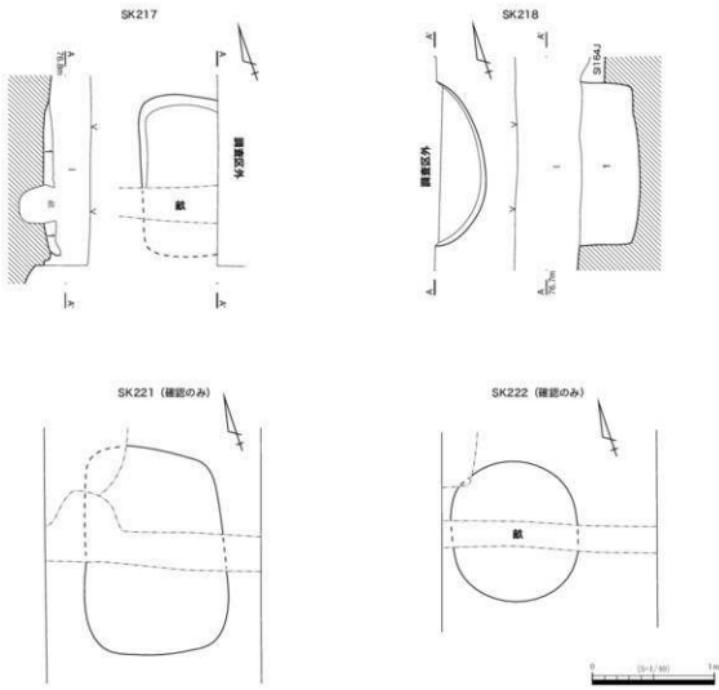
**覆土** 詳細は不明であるが、確認面の覆土はSK218土坑第1層の黒褐色土と同質土である。

**出土遺物** なし

**時期** 近現代の所産と考えられる。

### （3）小穴

調査区北側の1区I-4グリッドの古代の土坑群に挟まれるように1基（P-4）が検出された（第66図）。確認面はIIIb層で、径30cmほどである。建築計画の設計深度との関係から、平面プランの確認にとどめたため、詳細は不明である。



SK217 および P-4 (平面プランの確認のみ) の覆土も1層に同じ。	
1. 10YR2/1 黒褐色土	ラーモ敷板を含み、粒子が粗くボコボコしている。堆積色土を僅かに覆する。やや暗りあり。
SK218 および SK222 (平面プランの確認のみ) の覆土も1層に同じ。	
1. 10YR2/2 黒褐色土	ラーモブロック (φ 0.5 ~ 2 cm) を多く、堆積色土ブロック (φ 2 cm) を少し混じる。繰りなく鉢質。

第71図 SK217・SK218・SK221・SK222 土坑実測図

## 第5章 総括

### 第1節 繩文時代

#### (1) 今次調査で新たに検出された竪穴住居について

恋ヶ窪遺跡は、これまでの調査によって住居跡や土坑等の各種遺構が多数存在する集落中心域が形成されており、その範囲は東西300m×南北200mで、台地地形に沿って梢円形を呈することが明らかにされている（広瀬 1988）。

既に述べたように、今次調査地区の西隣接地では昭和56（1981）年に第15次調査が実施され、不明瞭ながら2軒の住居跡（SI143J住居は勝坂3式期、SI144J住居は時期不明）と、陥し穴状土坑（Tピット）5基などが検出され、遺構・遺物の希薄性から集落の西側外縁部に当たるのではないかとの想定がなされた。さらに、昭和62（1987）年に集落西辺域の様相把握のための第30次調査が実施され、勝坂2式期の住居1軒（SI176J住居）が確認されたが、遺構・遺物の希薄性に大きな変化はなく、集落居住域の西側周縁部に当たることが再確認されている。

さて、今次調査では新たに5軒の住居跡が検出されたが、隣接地を含む既往の調査で検出した2軒（SI143J・SI176J住居）を含むその位置（第72図）と所属時期は次の通りである。

勝坂2式期 …… SI176J、SI143J、SI164J

勝坂3式期 …… SI162J、SI165J、SI166J

加曾利E式期 …… SI163J

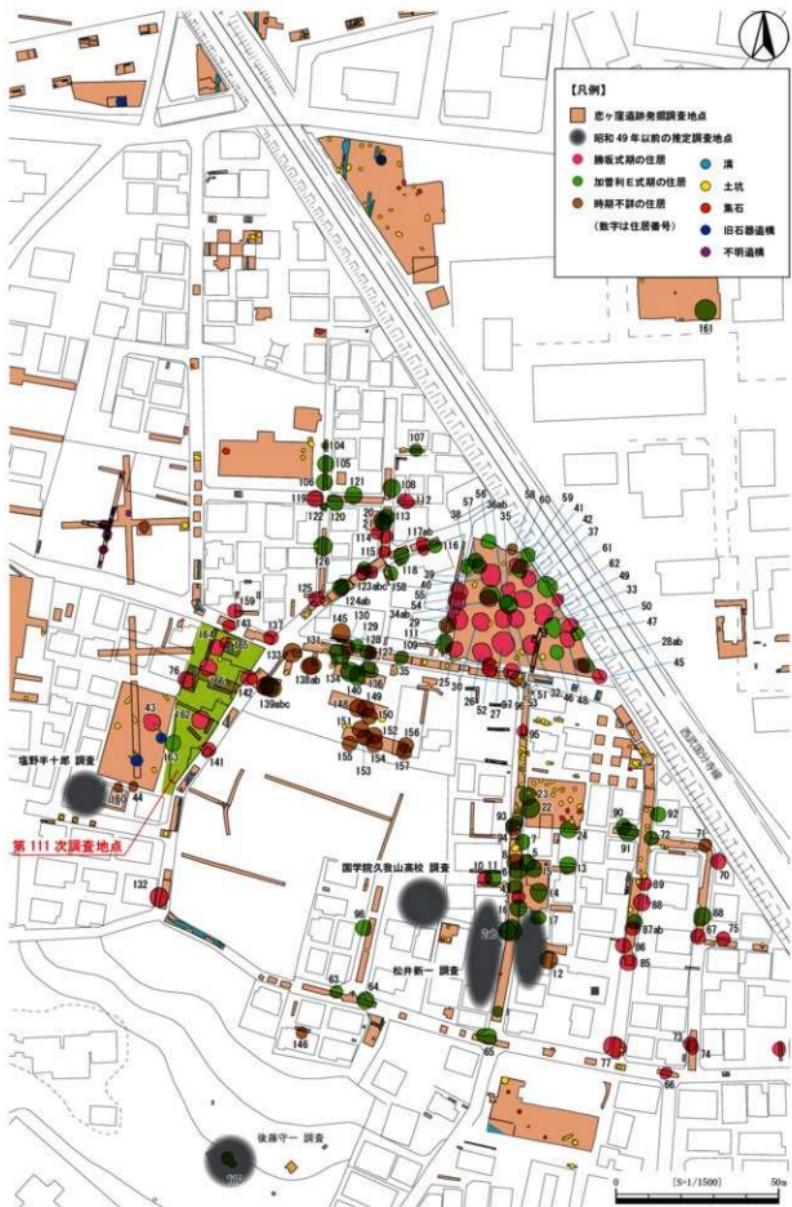
勝坂式期については、SI143J住居は報告書では勝坂3式期としていたが、同時期のSI165J住居との位置関係が接近し過ぎることから、改めて出土器を検討したところ、勝坂2式期とするのが妥当であるとの判断になったものである。勝坂式期では、2・3式期ともに住居が一定の間隔を置いて南北に分布しており（第72図）、その南端は、今次調査区南方約33.0mの市道南端分岐地点で検出された勝坂3式期のSI132J住居（上村 1997）付近まで及ぶと考えられる。これらから居住域の西側周縁部に当たることは間違いなく、このことが追認された。

加曾利E式期については、当期としたSI163J住居は出土遺物の量が極端に少なく、当期と断定するには不安が残る。元々当該期の集落域は、勝坂式期の集落域よりも、より内側に形成される傾向が捉えられており、SI163J住居周辺でも該期の住居は確認されていない。最も近いものは、北東約66.0m付近のSI131J・134J～136J住居（以上時期不明）、およびSI128J・129J住居（以上3式期）の一群と、南東約80m付近のSI163J（時期不明）・64J（5式期）・98J住居（2式期）の一群であり、居住域の西側周縁部に当たるのかの判断は今後の調査の進展に待つところが大きい。

#### (2) 勝坂式期・加曾利E式期の炉について

本遺跡においては、これまで実施された110次に及ぶ調査によって勝坂式期・加曾利E式期の竪穴住居161軒が検出されているが、これまでには主に集落構造の究明に重きが置かれてきた。また、今回の調査で検出された勝坂3式期のSI162J住居に伴う埋甕炉は、浅鉢を用いた特殊なものであり、本遺跡では2例目となるが、住居に設置されている炉跡についても同様に調査事例が蓄積されてきている。そこで、この機会をとらえて今次調査の成果も含めて炉跡の集成を行い、その様相を見てゆくことにしたい。なお、両期の時期区分については各報告書記載の時期区分とした。

炉自体が無設置のものも勝坂式期に3例認められるが、これまでに確認されている炉の形態は地床炉・石圍炉・石圍埋甕炉・埋甕炉（埋甕炉Aとする）・浅鉢を用いた埋甕炉（埋甕炉Bとする）の5種がある。



第72図 恋ヶ丘遺跡内竪穴住居跡分布図

これらの検出状況を、勝坂式期と加曾利E式期ごとにまとめたものが第30～34表および第73～75図である。これによると、勝坂式期では炉総数72基から不明26基を除いた46基の炉形態が明らかになつておらず、地床炉が最多で半数に近い21基・45.7%を占め、次いで埋甕炉Aの9基・19.6%と石囲埋甕炉7基・15.2%が続き、これらが計80.5%を占めて主流である。加曾利E式期では炉総数76基から不明43基を除いた33基の炉形態が明らかになっており、石囲炉が最多の14基・42.4%、次いで地床炉が10基・30.3%であり、両者が他を圧倒して計72.7%を占めて主流となっている。両期の通算では炉の総数79基に対して、地床炉31基・39.3%、石囲炉18基・22.8%、石囲埋甕炉14基・17.7%、埋甕炉A11基・13.9%、無設置3箇所・3.8%、埋甕炉B2基・2.5%となる。これらから見える両期の様相を列記すると次のようになる。

#### 両期にまたがるもの

- ・勝坂式期では地床炉が主体で、この他に埋甕炉A・石囲埋甕炉を含めて主流である傾向から、加曾利E式期になると傍流であった石囲炉が一躍主体となり、地床炉を含めて主流になる傾向に変化していることが窺える。
- ・両期を通じては地床炉が主流の一翼を担っていることが分かる。

#### 勝坂式期のもの

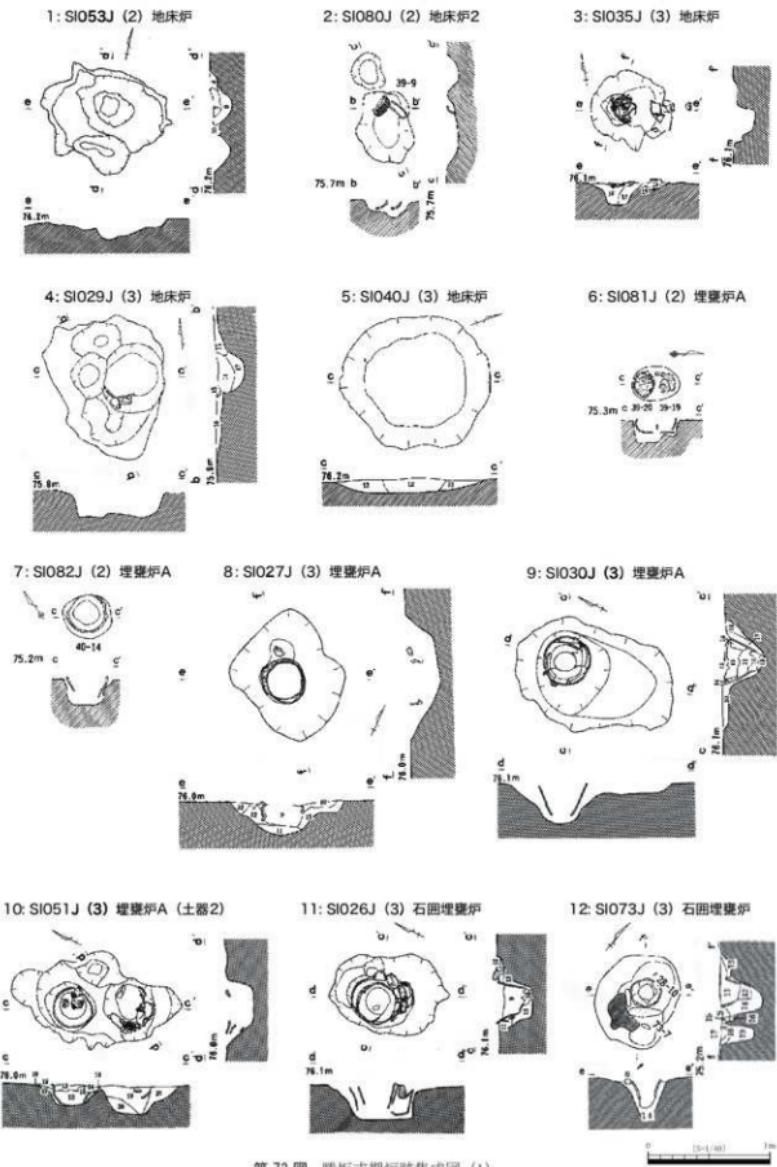
- ・埋甕を伴う埋甕炉A・石囲埋甕炉・埋甕炉Bは勝坂3式期に盛行するが、浅鉢を用いる埋甕炉B（第74図15）は他の時期になく特殊な事例と考えられる。
- ・勝坂3式期に盛行する埋甕炉Aは、2式期の埋甕より一回り大きい形態ものから土坑状の掘り込みを伴う形態になり、炉の規模が大型化する（第73図8・9）。中には土器を複数埋設するものもみられる（第73図10）。
- ・石囲炉（第74図14）・石囲埋甕炉（第73図11・12、第74図13）の炉石は、部分的で数も少なく貧弱である。
- ・勝坂式期には炉を設置しないものもみられる。

#### 加曾利E式期のもの

- ・当期に主流となる石囲炉は2～5式期の各期においても主流を占めている。2式期は炉石数も少なく貧弱であるが（第74図1・2）、4・5式期になると炉石が一・二周した堅固な作りのもの（第74図3・5）や、2段構造のもの（第74図4）がみられるようになるが、再び炉石が貧弱になる（第74図6・7）。
- ・地床炉は、各期を通して勝坂式期より小規模なものが多くなるが（第74図8～10）、中には大型のものもみられる（第75図11）。
- ・石囲埋甕炉は、勝坂式期のものより炉石数もやや多くなり、しっかりした作りになる（第75図12～14）。
- ・勝坂式期に主流であった埋甕炉Aは当期になると激減する。

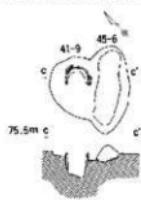
以上、今回の調査を含めて住居に設置された炉跡の様相の一端が初めて明らかになった。しかしながら、下水道工事に伴う道路部分の調査で検出された住居や未報告の住居などに、炉跡不明のものが半数近くを占めていることもあり、今後の資料追加を待って再検証することが必要であろう。

勝坂式期

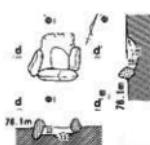


第 73 図 勝坂式期炉跡集成図 (1)

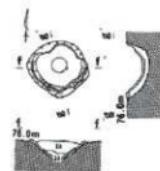
13: SI083J (3) 石圓埋甕爐



14: SI025J (2~3) 石圓爐



15: SI042J (3) 埋甕爐B (浅林)

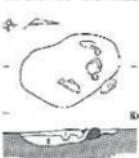


## 加曾利E式期

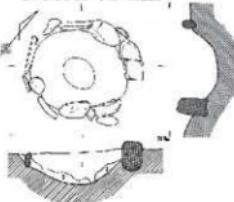
1: SI095J (2) 石圓爐



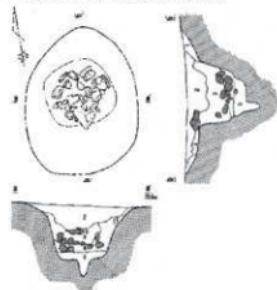
2: SI015J (2) 石圓爐



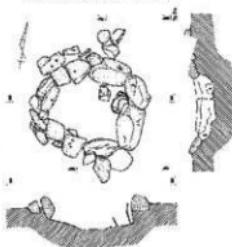
3: SI005J (4) 石圓爐



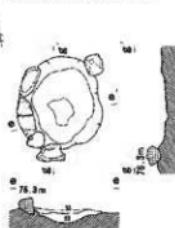
4: SI014J (4) 石圓爐 (2段構造)



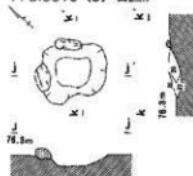
5: SI022J (5) 石圓爐



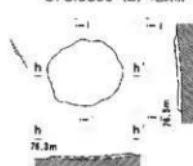
6: SI041J (5) 石圓爐



7: SI057J (5) 石圓爐



8: SI039J (2) 地床爐



9: SI087aJ (5) 地床爐



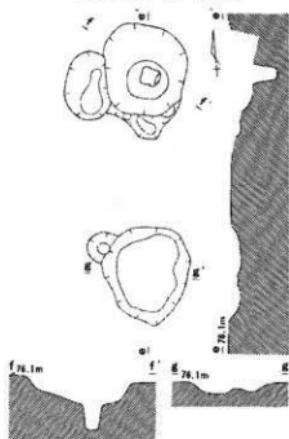
10: SI036bJ (5) 地床爐



0 [1/10] 1m

第74図 勝坂式期 (2)・加曾利E式期炉跡集成図 (1)

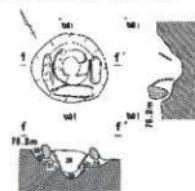
11: SI033J (5) 地床炉2



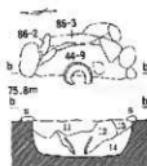
12: SI002bj (2) 石圓埋壠炉



13: SI038J (2) 石圓埋壠炉



14: SI093J (5) 石圓埋壠炉



15: SI036J (1) 埋壠炉A



第75図 加曾利E式期炉跡集成図(2)

第30表 勝坂式・加曾利E式期の炉形態別数(トーン部分:各期の主体となる炉形態)

時期	炉形態						計
	地床炉	石圓炉	石理炉	埋炉 A	埋炉 B	無	
勝坂1	0	0	0	0	0	0	2
勝坂2	6	2	2	2	0	0	16
勝坂2~3	3	1	1	0	0	0	5
勝坂3	8	1	4	7	2	0	34
細別時期不明	4	0	0	0	0	3	15
小計	21	4	7	9	2	3	72
構成比 (%)	45.7	8.7	15.2	19.6	4.3	6.5	
加曾利E1	0	0	0	1	0	0	4
加曾利E2	1	4	3	0	0	0	13
加曾利E3	1	3	0	0	0	0	6
加曾利E4	1	2	1	1	0	0	9
加曾利E5	5	5	3	0	0	0	15
加曾利E6	0	0	0	0	0	1	1
細別時期不明	2	0	0	0	0	0	28
小計	10	14	7	2	0	0	76
構成比 (%)	30.3	42.4	21.2	6.1	0	0	
合計	31	18	14	11	2	3	148
構成比 (%)	39.3	22.8	17.7	13.9	2.5	3.8	

第31表 烟板式期住居炉跡集成(1)

図番号	住居番号	時期	炉形態						規模[長さ×幅×深(cm)]	報告書
			地床	石塀	石理	埋廐A	埋廐B	無		
	001J	2							○	報告 I
	003J	〃		○					85 × 70 × 20 の横円形 炉石 2 個残存	〃
	010J	不明							○	報告 II
	019J	〃							○	〃
第74図14	025J	2~3		○					60 × 40 × 17	報告 V
第73図11	026J	3			○				100 × 60 × 28、 埋設土器 4 個体	〃
第73図8	027J	〃				○			90 × 80 × 28	〃
	028J	2	○						60 × 50 × 12	〃
第73図4	029J	3	○						120 × 100 × 20	〃
第73図9	030J	〃				○			130 × 80 × 32、 広範囲に焼土	〃
	032J	2~3	○						70 × 60 × 10 の円形	〃
	034aJ	3			○				径 40 × 9 の円形	〃
第73図3	035J	〃	○						径 60 × 17 の円形	〃
	037J	〃	○						80 × 70 × 10	〃
第73図5	040J	〃	○						120 × 100 × 10 の横円形	〃
第74図15	042J	〃				○			50 × 40 × 18	〃
	043J	〃						○		報告 IV
	045J	1~2						○		報告 V
	048J	3	○						80 × 50 × 20	〃
	049J	〃				○			160 × 60 × 30、 埋設土器 2	〃
	050J	2~3	○						50 × 30 × 10	〃
第73図10	051J	3				○			140 × 60 × 20、 埋設土器 2	〃
	052J	2~3			○				70 × 40 × 15	〃
第73図1	053J	2	○						100 × 70 × 15	〃
	054J	3?						○		〃
	055J	3						○		〃
	060J	〃	○						長径 90 × 20、 1/3 撥乱	〃
	062J	不明						○		〃
	067J	3						○		報告 VII
	069J	〃						○		?
	070J	〃						○		報告 VII
第73図12	073J	〃			○				77 × 69 × 33	〃
	074J	2						○		〃
	075J	3						○		〃
	076J	2			○					?
	077J	2~3	○						76 × 43 以上 × 10	報告 VII
	078J	不明					○			報告 VI
第73図2	080J	2	○	2					大 (56 × 46 × 9.1)、 小 (30 × 9.6) 2 基	〃
第73図6	081J	〃	○			○			炉 2、埋廐 A 炉 (40 × 28 × 36)、埋設土器 2 地床炉 (径 50 × 28)	〃
第73図7	082J	〃				○			径 46 × 20 の円形	〃
第74図13	083J	3			○				径 70 × 23、 炉石 1 個残存	〃
	084J	不明	○						径 54 × 8	〃
	085J	2						○		報告 VII
	086J	〃						○		〃
	087bJ	2	○						88 以上 × 58 × 13	報告 VII
	088J	3						○		〃

第32表 鳩坂式期住居炉跡集成 (2)

図番号	住居番号	時期	炉形態						規模[長さ×幅×深(cm)]	報告書
			地床	石围	石理	埋甕A	埋甕B	無		
	089J	1						○		〃
	097J	2		○					94×57以上×22	報告VIII
	099J	3		○						〃
	101J	不明					○			報告VI
	102J	〃					○			〃
	111J	〃						○		報告VIII
	112J	3				○			径70×20	〃
	114J	不明	○?							〃
	115J	〃						○		〃
	119J	3			○				径70×8	〃
	123aJ	不明						○		〃
	123bJ	3	○						径60×20	〃
	125J	不明						○		〃
	132J	3						○		〃
	137J	不明						○		〃
	139J	3?						○		〃
	141J	不明	○						径80×20	〃
	142J	3?						○		〃
	143J	2						○		〃
	144J	不明	○							?
	159J	不明						○		概報H24
	162J	3				○			82×60×28	本報告
	164J	2		○					70×45×10	〃
	165J	3	○						53×48以上×5	〃
	166J	3			○?				93×58×24	〃

第33表 加曾利E式期住居炉跡集成 (1)

図番号	住居番号	時期	炉形態						規模[長さ×幅×深(cm)]	報告書
			地床	石围	石理	埋甕A	埋甕B	無		
第75図12	002J	2		○	○				a 期石圓炉→b 期石圓埋甕炉	報告I
	004J	4			○					
第74図3	005J	〃		○				○	不明→石圓埋甕炉 炉石14個、石皿転用	〃
	006J	3	○	○						
第74図4	007J	2						○	地床炉(径50~70)→石圓炉(85×70)	〃
	011J	1						○		
	013J	2						○		
第74図4	014J	4		○					2段構造、120×90×15の中央に径55×40の穴	〃
	015J	2		○						
第74図2	016J	4						○	80×50×15、炉石7個残存	〃
	020J	1						○		
	021J	2						○		
第74図5	022J	5			○				大型径100×20、炉石28個残存	報告IV
	023J	3		○						
	024J	5						○		
第75図11	033J	〃	○2						地床炉2、中央80×70×40南側80×70×10	報告V
	034J	〃		○						
第75図15	036J	1				○			110×90×17、炉石4個残存	〃
									40×30×20	〃

第34表 加曾利E式期住居炉跡集成 (2)

図番号	住居番号	時期	炉形態						規模[長さ×幅×深(cm)]	報告書
			地床	石圓	石理	埋甕A	埋甕B	無	不明	
第74図10	036bj	5	○						70×40×15	〃
第75図13	038j	2		○					50×40×23	〃
第74図8	039j	〃	○						60×50×2	〃
第74図6	041j	5		○					90×70×8	〃
	046j	不明	○						径50×10の円形	〃
	047j	〃						○		〃
	056j	4			○				50×40×13	〃
第74図7	057j	5		○					50×40×10、 炉石2個残存	〃
	059j	2						○		〃
	061j	5	○						130×100×22	〃
	063j	不明						○		報告VII
	064j	6						○		〃
	065j	不明						○		〃
	066j	〃						○		〃
	068j	5		○					87×43以上×16	〃
	072j	〃						○		〃
第74図9	87aj	〃	○						59×50×30	〃
	090j	4～5						○		〃
	091j	4	○						62×45×15の楕円形	〃
	092j	3						○		〃
第75図14	093j	5		○					95×41×以上×30、 石器を炉石に転用	〃
第74図1	095j	2		○					42×39×16、 底面被熱硬化	〃
	098j	〃						○		〃
	100j	不明						○		報告VIII
	104j	〃						○		〃
	105j	〃						○		〃
	106j	〃						○		〃
	107j	不明						○		報告VIII
	108j	4						○		〃
	109j	不明						○		〃
	110j	〃						○	敷石住居	
	113j	〃	○						100×70×30	報告VIII
	116j	〃						○		〃
	117aj	〃						○		〃
	117bj	〃						○		〃
	118j	2		○					径60×30	〃
	120j	5	○						径60×30	〃
	121j	不明						○		〃
	122j	〃						○		〃
	123cj	〃						○		〃
	124j	5～6		○					径110×20	〃
	126j	不明						○		〃
	127j	〃						○		〃
	128j	3		○					径70×20、 炉石2個残存	〃
	129j	〃						○		〃
	131j	不明						○		〃
	134j	〃						○		
	135j	〃						○		報告VIII
	136j	〃						○		
	140j	〃						○		
	158j	2		○						概報 H21
	161j	不明						○		
	163j	1						○		本報告

## 第2節 奈良・平安時代～中世以降

### (1) 恋ヶ窪遺跡内の東山道武藏路について

古代の駅場である東山道武藏路が本遺跡内を通過することが明らかになったのは、第13次調査の整理作業中に、検出遺構のSD5溝がSF1道路跡の東側溝と判明したことによる（広瀬他 1988）。

昭和50年前半に、武藏国分寺跡の僧尼寺中間地域や武藏国府跡で南北方向の平行する2条の溝の存在が注目され始め、国分寺市では「SF1道路跡」と呼称して調査を継続してきた。その間、同様の遺構が群馬県旧境町（現伊勢崎市）や東の上遺跡（所沢市）などの各所で確認されるに及んで、本道路跡が駅場である可能性が高くなったことから「推定東山道跡」と呼称し、さらに平成8年頃から東山道の上野国新田駅付近から分岐して武藏国府に至る往還路部分を学術的名称として「東山道武藏路」を使用するようになった。したがって、本遺構の調査報告における名称は、初見の第8次調査では「2条の溝状遺構」としていたが（広瀬他 1980）、第13次調査（広瀬他 1988）以降は、第27次調査（吉田 1996）、第36・40次調査（吉田 1997）を含めて「SF1道路跡」、最新となる第82・83次（小野本 2008）は「東山道武藏路」の呼称をそれぞれ使用している。

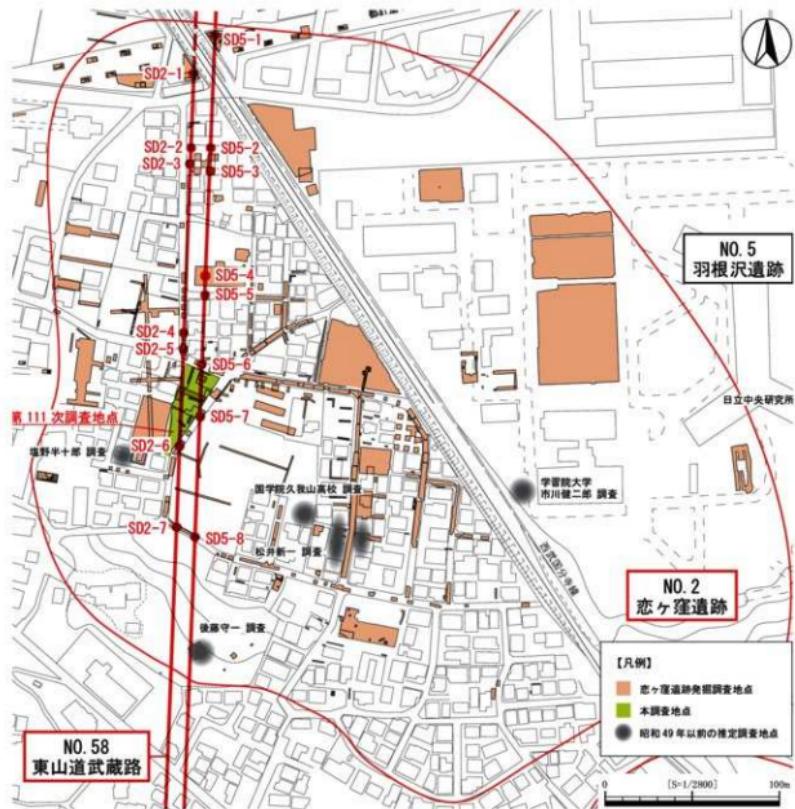
本遺跡内で検出されている東山道武藏路（西側溝はSD2溝、東側溝はSD5溝）は、本遺跡の南の恋ヶ窪谷を挟んで対峙する西国分寺地区で明らかになった東山道武藏路の4時期にわたる変遷（早川他 1999）と対比すると、第1期の「土坑連結式」の東西両側溝を伴う溝芯々距離12mの道路、第2期の第1期両側溝がある程度埋没した段階で、両側溝を埋めて数m幅の路面とした道路に相当すると考えられ、第3・4期の道路は検出されていない。恋ヶ窪遺跡内北端（第82・83次調査区）から南端（第27次調査区）までの道路延長は、SD2溝（西側溝）では約280.0m、SD5溝（東側溝）が約310.0mを測り（第76図）、各調査区検出の両側溝を集成したものが第77～79図である。

第1期の道路については、最大の特徴である「土坑連結式」と呼ばれる不連続の溝形状が、第82・83次調査区（第77図SD5-1）、第36次調査区（第77図SD2-1、SD5-2）、第8次調査区（第78図SD5-3）、今次調査区SD2・SD5の南端部分で確認された。掘り残された土坑間の幅は、SD5-1で約1.2m、SD5-3で約1.6m、今次調査区SD2溝で2.3m以上、同SD5溝で約1.9mを測る。

第2期の道路については、今次調査では、両側溝の覆土は最上層の褐色土が主体の硬化面と硬化面支持土（SD5溝のみ残存）、中間層の埋め土と考えられる暗褐色土ブロックを混じる黒色土、最下層のロームブロックを主体とした掘方埋土の3層に大別された。特に、最上層の硬化面と硬化面支持土とした土層は、西国分寺地区などで検出されている第2期の道路跡と考えられた「黄褐色粘質土層の硬化面」に対応するものである。これらを手掛かりに各調査区検出の両側溝を比較すると、特に最上層の硬化面および硬化面支持層が確認されているのは、北から硬質の暗褐色土層又は茶褐色土層が認められる第82・83次調査区（第77図SD2-1、SD5-1）および第13次調査区（第78図SD5-4）、硬質か否かは不明ながら茶褐色土ブロック層が認められる第36次調査区（第77図SD2-2、SD5-2・5）、などがあり、さらに今次調査のSD5溝を加えると、今次調査区より北側にかけては硬化面の遺存状況が良好であることが分かる。中間層の埋め土の土層の観察表現は、今次調査区に近い第36・40次調査区の黒色土と茶褐色土ブロックを混じる黒褐色土ないしは暗茶褐色土とあるが、第82・83次調査区と第27次調査区はローム粒を含む黒色土又は黒褐色土とあり、土層の観察表現に調査者によって微妙な差があることが分かる。これらの土層は恋ヶ窪遺跡より北方の小平市・東村山市でも確認されている（東京都教育委員会 2000）。最下層の掘方埋土は全調査区とも確認されている。

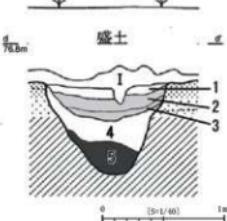
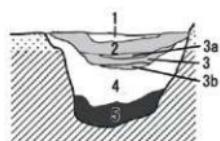
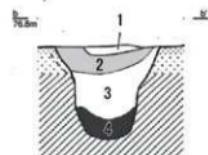
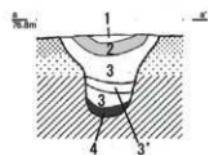
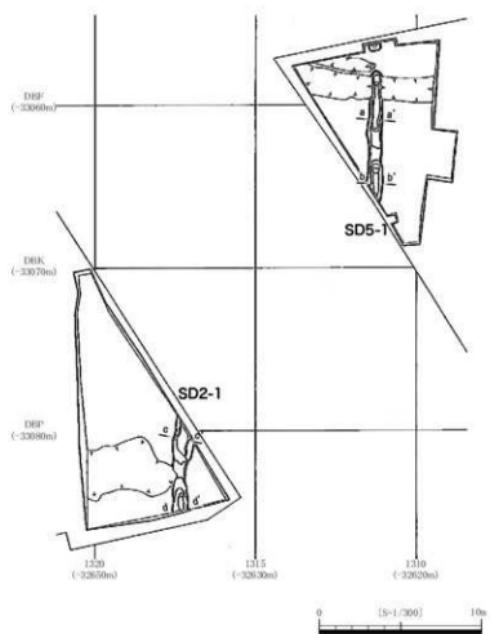
また、第82・83次調査ではSD2溝とSD5溝がほぼ同じ程度の深度ながら、前者が検出面・底面とも約40cm低いことの要因として、東山道武藏路周辺の旧地形が北東から南西（恋ヶ窪谷の奥部）に向かって緩やかに傾斜していたとの指摘がなされている（小野本 2008）。そこで両側溝の南北方向の検出面と底面レベルを図化し（第80図）、改めて指摘の是非について検討してみたい。ただし、

第40次調査区（SD2-4、SD5-6）より南側は、現道都合のため溝上部が大きく削平を受けているため、溝底面を重視することにしたい。図によると、SD5溝はSD5-2地点（標高75.63m）とSD2-2地点（標高75.72m）、および同SD5-6地点（標高75.80m）とSD2-5地点（標高75.88m）の2箇所で両側溝の底面深度に逆転現象（SD5が低い）が認められ、その差は前者では約9cm、後者では約8cmほどである。この内SD5-6地点は、南約3mの地点に今次調査区北端で検出されたSD5溝（AA'）があり、AA'の底面標高76.14mと比較すると約34cmも低いことが分かる。恐らく報告書の標高数値の誤りではないかと思われ、同じ底面標高（76.14m）で修正したものが破線部分である。SD5-2地点とSD2-2地点については比較資料が無く検証困難であるが、両側溝の底面レベルのエレベーションを見る限り第82・83次調査の指摘は容認できそうである。

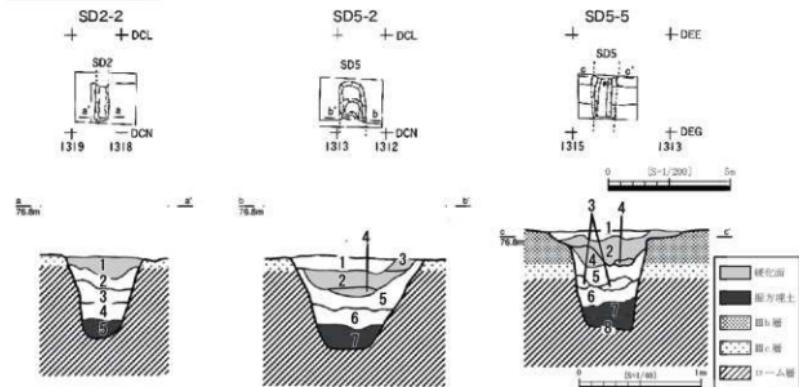


第76図 恋ヶ窪跡内東山道武藏路調査地点位置図

1. 第 82・83 次調査区

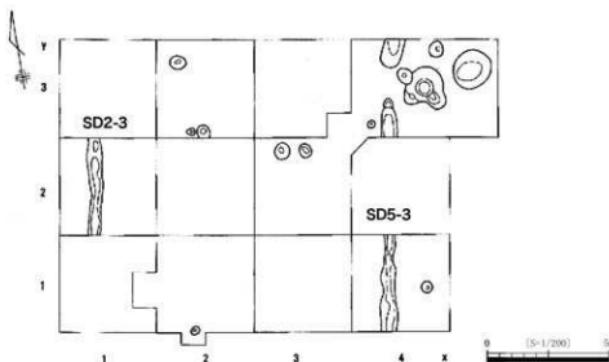


2. 第 36 次調査区

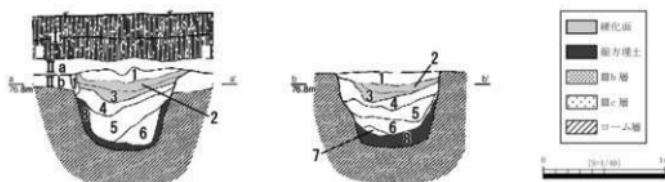
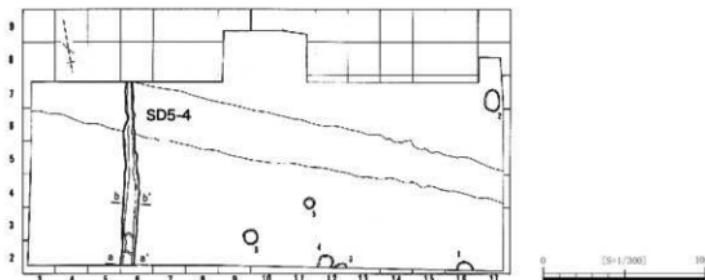


第 77 図 恋ヶ窪遺跡内東山道武藏路集成図 (1)

3. 第8次調査区

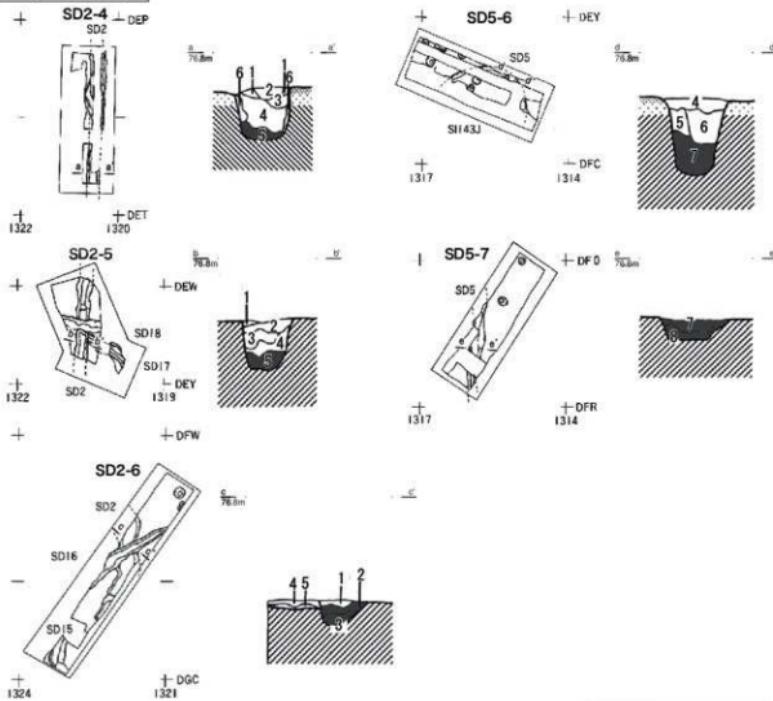


4. 第13次調査区

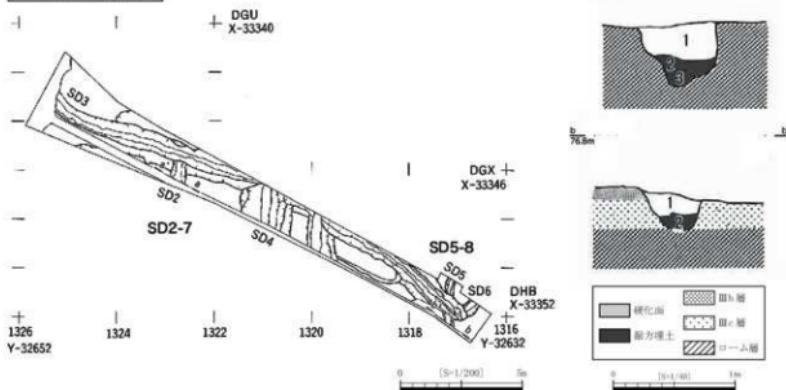


第78図 恋ヶ窪道路内東山道武藏路集成図(2)

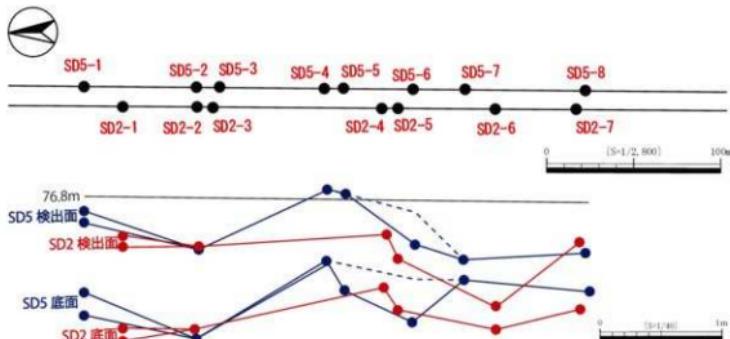
5. 第40次調査区



6. 第27次調査区



第79図 恋ヶ窪遺跡内東山道武藏路集成図(3)



第80図 恋ヶ窪遺跡内東山道武藏路の南北エレベーション図

以上、今次調査の主な成果について述べてきたが、遺跡の発掘調査の掘削対象深度を建築計画に配慮して必要最低限度の掘削に留めたために、完掘できた遺構は少なく、遺構の全体像を正確に掴むことが困難であった。しかしながら、宅地化の進行した遺跡にあって、昭和49（1974）年以来継続されている調査の積み重ねによって、縄文時代のみならず古代～近世に及ぶ複合遺跡の内容が徐々に明らかにされてきたことは特筆すべきことであり、今後とも継承されるべきものであろう。

## 引用・参考文献

- 小野本教 2008 『東山道武藏路発掘調査概報Ⅰ—都市計画道路3・4・6号線築造工事に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会  
 小野本教 2012 『平成22年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会  
 神奈川考古同人会 1980 『縄文時代中期後半の問題 土器試料集成図集』神奈川考古第10号  
 上敷領久 2003 『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅲ—都宮町四丁目団地建設に伴う事前調査—』国分寺市遺跡調査会  
 上敷領久 2007 『平成16・17年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会  
 上敷領久他 2007 『花沢西遺跡発掘調査概報Ⅰ』国分寺市遺跡調査会  
 上敷領久他 1991 『恋ヶ窪遺跡調査報告V（図面・写真図版編）』国分寺市遺跡調査会  
 上敷領久他 2008 『恋ヶ窪遺跡調査報告V（本文編）』国分寺市教育委員会  
 上敷領久他 2014 『平成24年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会  
 上村昌男他 1991 『国分寺市No.37遺跡調査概報Ⅰ』国分寺市遺跡調査会  
 上村昌男 2000 『恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅱ—丸紅株式会社共同住宅建設に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会  
 上村昌男他 2006 『武藏國国分寺跡発掘調査概報26—北方地区・平成8～10年度西国分寺地区土地区画整理事業及び泉町公園事業に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会  
 小林達哉編 2008 『絶対縄文土器』『絶対縄文土器』刊行委員会 株式会社アム・プロモーション  
 後藤守一 1937 「武藏國国分寺村に於ける敷石住居遺跡の發掘」『考古学雑誌』27-11  
 実川頼一他 1987 『恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報—都宮町国分寺第8都宮住宅建設に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会  
 伊庭彰一他 2019 『東京都国分寺市恋ヶ窪遺跡発掘調査報告書第100次調査』共和開発株式会社  
 清口 宏・広瀬昭弘他 1988 『恋ヶ窪遺跡調査報告IV』国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会  
 立川明子 2008 『平成18年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会  
 立川明子 2009 『平成19年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会  
 立川明子 2010 『平成20年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会  
 立川明子 2011 『平成21年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会

- 寺前めぐみ他 2013 『平成23年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 東京都教育委員会 2000 『道路遺構等確認調査報告』
- 水峯光一・広瀬昭弘・秋山道生他 1979 『志ヶ丘遺跡調査報告Ⅰ』国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 水峯光一・広瀬昭弘・秋山道生他 1980 『東京都国分寺市志ヶ丘遺跡調査報告Ⅱ』志ヶ丘遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 水峯光一・広瀬昭弘・秋山道生他 1982 『東京都国分寺市志ヶ丘遺跡調査報告Ⅲ』志ヶ丘遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 早川泉他 1997 『日影山遺跡・東山道武藏路』西国分寺地区遺跡調査会
- 林 徹他 2017 『東京都国分寺市志ヶ丘東遺跡発掘調査報告所 第22次調査』共和開発株式会社
- 林 徹他 2018 『東京都国分寺市羽根沢遺跡発掘調査報告書 第9・10次調査』共和開発株式会社
- 広瀬昭弘他 1990 『志ヶ丘東遺跡発掘調査概報Ⅰ—山一証券国分寺営業部建設に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 福島宗久他 2003 『武藏国分寺跡遺跡北方地区—西国分寺地区土地区画整理事業に伴う調査』東京都埋蔵文化財センター調査  
報告第136集
- 星野亮勝・上村昌男・上敷領久 1992 『志ヶ丘遺跡調査報告VI—日立中央研究所研究棟・食堂・プール更衣室建設工事に伴う調査—』  
国分寺市遺跡調査会
- 増井有真他 2016 『平成26年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 増井有真他 2017a 『平成27年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』国分寺市教育委員会
- 増井有真他 2017b 『平成27年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』国分寺市教育委員会
- 松井新一・藤間浩助 1965 「国分寺市志ヶ丘使役発掘調査概要」『多摩考古』第7号 多摩考古学会
- 三木 弘 1985 『武藏国分寺跡発掘調査概報IX—北方地区・鉄道学園内下水道工事に伴う調査』国分寺市遺跡調査会
- 三木 弘他 1988 『武藏国分寺跡発掘調査概報XIII—リクルートコスマスマンション建設に伴う調査』国分寺市遺跡調査会
- 吉田 格 1956 「東京都国分寺町志ヶ丘塗穴住居の土器に就いて」『銅鐸』12
- 吉田 格・横山悦枝 1986 「第二章 織文時代 第2節 市内の遺跡と調査研究の歩み」『国分寺市史上巻』国分寺市
- 吉田 格・上村昌男他 1996 『志ヶ丘遺跡調査報告VII—国分寺市公共下水道面整備中部地区号工事に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 吉田 格・上村昌男他 1997 『志ヶ丘遺跡調査報告VIII—国分寺市公共下水道面整備工事に伴う調査—』国分寺市遺跡調査会
- 依田亮一他 2016 『志ヶ丘遺跡調査概報IX第94次調査—日立製作所中央研究所構内純水設備付鷺建屋建設に伴う調査—』  
株式会社日立製作所中央研究所・国分寺市遺跡調査会
- 依田亮一他 2018 『国指定史跡武藏国分寺跡発掘調査報告書Ⅱ〔遺物編〕』国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会





1. 第30次調査区全景（東から）



2. SI76J 住居窯全掘（南から）



3. SI76J 住居窯全掘（南から）



4. SF1 道路（SD2・5溝）全掘全景（東から）



5. 調査区調査前全景（北東から）



6. 1・2区南側遺構検出全景（北から）



7. 2区中央遺構検出全景（北から）



8. 2区北側遺構検出全景（南西から）

図版 2



1. 1・2 区南側完掘全景（北から）



2. 2 区中央完掘全景（北から）



1. 2 区北側完掘全景 (SK221 + 222 土坑検出状況) (西から)



2. 2 区北側完掘全景 (SK221 + 222 土坑検出状況) (南から)

図版 4



1. 1区西壁南北土層断面（北東から）



2. 2区西壁南北土層断面①（東から）



3. 2区西壁南北土層断面②（東から）



4. 2区西壁南北土層断面③（東から）



5. 2区西壁南北土層断面④（北東から）



6. 2区東西土層断面（北東から）



7. TP1 完掘全景（北から）



8. TP1 東壁南北土層断面（西から）



1. 2区中央完掘全景（南から）



2. SI143J 住居完掘全景（南から）



3. SI143J 住居東西土層断面（南から）



4. SI143J 住居 P1 完掘全景（南から）



5. SI162J 住居完掘全景・北壁東西土層断面（南から）

図版 6



1. SI162J 住居完掘全景 (北から)



2. SI162J 住居南北土層断面 (西から)



3. SI162J 住居周溝・遺物出土状況 (南から)



4. SI162J 住居焼土検出状況 (西から)



5. SI162J 住居炉完掘全景 (西から)



6. SI162J 住居炉掘方 (西から)



7. SI162J 住居炉土層断面① (西から)



8. SI162J 住居炉土層断面② (西から)



1. SI162J 住居 P1 完掘全景 (南から)



2. SI162J 住居 P2 完掘全景 (南から)



3. SI162J 住居 P3 完掘全景 (北から)



4. SI162J 住居 P4 完掘全景 (東から)



5. SI163J 住居完掘全景 (北から)



6. SI163J 住居完掘全景 (東から)



7. SI163J 住居西壁南北土層断面 (北東から)

図版 8



1. SI164J (右)・165J (左) 住居完掘全景 (西から)



2. SI164J (下)・165J (上) 住居完掘全景 (南から)



1. SI164J 住居西壁南北土層断面（北東から）



2. SI164J・165J 住居南北土層断面（北東から）



3. SI164J 住居遺物出土状況（東から）



4. SI164J 住居遺物出土状況（西から）



5. SI164J 住居遺物出土状況（東から）



6. SI164J 住居炉完掘全景（南西から）



7. SI164J 住居炉土層断面（南西から）



8. SI164J 住居炉掘方（南西から）

図版 10



1. SI164J 住居 P1 完掘全景（東から）



2. SI164J 住居 P2 完掘全景（東から）



3. SI164J 住居 P3 完掘全景（東から）



4. SI164J 住居 P4 完掘全景（北から）



5. SI164J 住居 P5 完掘全景（北から）



6. SI165J 住居炉完掘全景（東から）



7. SI165J 住居炉土層断面（東から）



8. SI165J 住居炉遺物出土状況（東から）



1. SI165J 住居 P1 完掘全景 (北から)



2. SI165J 住居 P2 完掘全景 (西から)



3. SI166J 住居完掘全景 (南西から)



4. SI166J 住居完掘全景 (東から)



5. SI166J 住居完掘全景 (南から)

図版 12



1. SI166J 住居南北土層断面 (東から)



2. SI166J 住居東西土層断面 (南から)



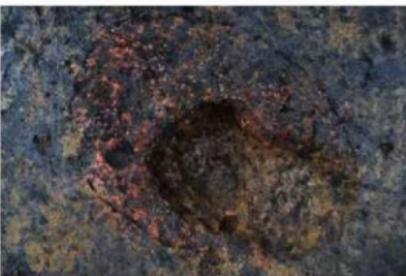
3. SI166J 住居遺物出土状況 (東から)



4. SI166J 住居遺物出土状況 (東から)



5. SI166J 住居遺物出土状況 (北から)



6. SI166J 住居炉完掘全景 (東から)



7. SI166J 住居炉土層断面 (東から)



8. SI166J 住居 P1 完掘全景 (東から)



1. SI166J 住居 P2 完掘全景 (北から)



2. SI166J 住居 P3 完掘全景 (北から)



3. SI166J 住居 P4 完掘全景 (東から)



4. SI166J 住居 P5 完掘全景 (西から)



5. SK216J 土坑完掘全景 (北から)



6. SK219J 土坑完掘全景 (南西から)



7. SK220J 土坑完掘全景 (北から)



8. SK223J 土坑検出状況 (西から)

図版 14



1. PJ-1・2 小穴完掘全景 (南西から)



2. PJ-3 小穴完掘全景 (北から)



3. 2 区 SD2 溝完掘全景 (南から)



4. 1・2 区南側 SD2 溝完掘全景 (北から)



5. 1 区 SD2 溝完掘全景 (南から)



6. 2 区 SD2 溝上層断面 A-A' (南から)



7. 2 区 SD2 溝上層断面 B-B' (南から)



1. 1区 SD2 溝土層断面 C-C' (南から)



2. 2区 SD2 溝土層断面 D-D' (南から)



3. 2区 SD5 溝北側完掘全景 (南から)



4. 2区中央 SD5 溝完掘全景 (南から)



5. 2区南側 SD5 溝完掘全景 (北から)



6. 2区 SD5 溝土層断面 A-A' (南から)



7. 2区 SD5 溝土層断面 B-B' (南から)

図版 16



1. 2 区 SD5 溝土層断面 C-C' (南から)



2. 2 区 SD5 溝土層断面 D-D' (北から)



3. SK217 土坑完掘全景 (西から)



4. SK218 土坑完掘全景 (東から)



5. 作業風景



6. 作業風景



7. 作業風景



8. 作業風景



1~2 ≈ 1/3

1. SI143J 住居出土遺物



2



3

2. SI162J 住居出土遺物 (1)

1~3 ≈ 1/3

図版 18



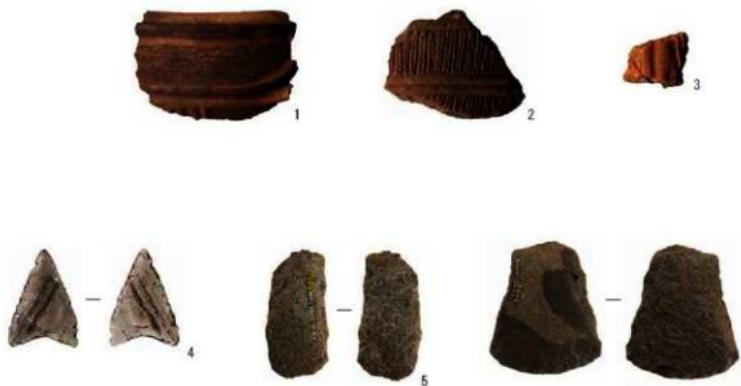
1. SI162J 住居出土遺物 (2)

1 ~ 29 ≈ 1/3  
30 ~ 32 ≈ 1/2



33 ~ 36 ≈ 1/3

1. SI162J 住居出土遺物 (3)



2. SI163J 住居出土遺物

1 ~ 3, 5 ~ 6 ≈ 1/3  
4 ≈ 1/1

図版 20

1 ≈ 1/4



1. SH164J 住居出土遺物 (1)

$2 \sim 3 \approx 1/4$

1. SH1641 住居出土遺物 (2)



図版 22



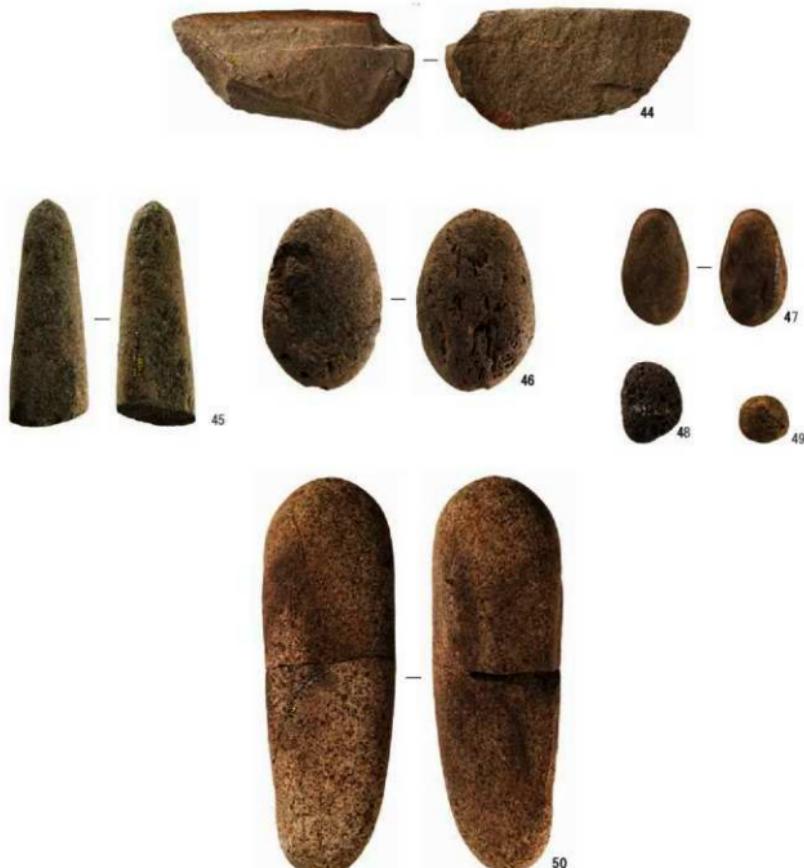
4 ~ 21 ≈ 1/3



22 ~ 38, 41 ~ 43 ≈ 1/3  
39 ~ 40 ≈ 1/1

1. SI164J 住居出土遺物 (4)

図版 24



1. SI164J 住居出土遺物 (5)

44 ~ 49 ≈ 1/3

50 ≈ 1/4



1. SI165J 住居出土遺物 (1)

1 ~ 3 by 1/3

图版 26



1. SI165J 住居出土遺物 (2)

4 ~ 19 約 1/3



20 ~ 28, 31 ~ 34 ≈ 1/3  
29 ~ 30 ≈ 1/2

1. SI165J 住居出土遺物 (3)



1 ~ 3 ≈ 1/3

2. SI164J・SI165J 住居出土遺物

図版 28

1. SH1661 住居出土遺物 (1)

2

1 ~ 2 ≈ 1/4





1. SH166J 住居出土遺物 (2)

図版 30



1. SI166J 住居出土遺物 (3)

13 ~ 21, 23 ~ 27, 29 ~ 31  $\approx 1/3$   
22, 28  $\approx 1/2$



1. SI166J 住居出土遺物 (4)

32 ~ 37 ≈ 1/3



1. 遺構外出土遺物 (1)

1 ~ 19 ≈ 1/3

図版 32



1. 遺構外出土遺物 (2)

20 ~ 38 ≈ 1/3

# 報告書抄録

ふりがな	こくぶんじし こいがくぼいせき (だい111じょうさ)						
書名	国分寺市 恋ヶ窪遺跡（第111次調査）						
副書名	—国分寺市西恋ヶ窪一丁目17番地における分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	有吉重義 藤代聖一 針木廉介 川原裕子 平塚恵介 依田亮一						
編集機関	国分寺市教育委員会 トキオ文化財株式会社						
所在地	国分寺市教育委員会：〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10 武藏国分寺総資料館内 トキオ文化財株式会社：〒206-0011 東京都多摩市閑戸5-1-14						
発行年月日	令和4年(2022) 10月31日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
こいがくぼいせき 恋ヶ窪遺跡 とうさんどうわくいせき 東山道武蔵路	とうさんどうわくいせき 東京都 こくぶんじしにじしていせき 国分寺市西恋ヶ窪 とうさんどうわくいせき 一丁目17番地内	13214 No. 2 No. 58	35° 42' 14'	139° 28' 16'	2021年 9月9日  2022年 10月31日	428.0 m <sup>2</sup>	分譲住宅建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
恋ヶ窪遺跡	集落跡	縄文時代	堅穴住居5軒 土坑4基 小穴3基	縄文土器・土製品・石器	集落西側周縁部の調査		
東山道武蔵路	道路跡	奈良・平安時代～中世以降	溝2条 土坑4基 小穴1基	土師器(武蔵型甕) 土師質土器	東山道武蔵路の調査		
要約	縄文時代中期の堅穴住居5軒、土坑4基、小穴3基が検出された。検出された堅穴住居は、恋ヶ窪遺跡集落居住域の西側周縁部に当る。遺物は主に勝板式の土器や土製品、石器などが出土した。奈良・平安時代では東山道武蔵路の側溝2条や土坑4基、小穴1基が確認された。						

文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なく、この報告書の一部を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出典を明記してください。

## 国分寺市 恋ヶ窪遺跡（第111次調査）

—国分寺市西恋ヶ窪一丁目17番地における分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日 令和4(2022)年10月31日

編集 国分寺市教育委員会

トキオ文化財株式会社

発行 国分寺市教育委員会

印刷 明誠企画株式会社